



令和3年度

看護学教育ワークショップ報告書

多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考

—社会や人々の変化への視野を広げる

—あらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える

WEB開催

主催 看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学大学院看護学研究院附属

看護実践・教育・研究共創センター

日時 講演(WEB配信)令和3年10月8日(金)~11月4日(木)
グループワーク(ZOOM会議)令和3年10月22日(金)

目 次

1. 千葉大学挨拶 1
千葉大学大学院看護学研究院長 諏訪 さゆり
2. 開催趣旨 2
千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長 和住 淑子
3. 令和3年度看護学教育ワークショップ 実施要領 3
4. 参加者概要 7

《講 演》

5. 【講演】「アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する
～無自覚にある自身の世界観の影響を考える」 10
講 師 守屋 智敬 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事
株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役
6. 【講演】「DXは大学教育にどのような変化をもたらすか？」 13
講 師 服部 正 前 文部科学省高等教育局専門教育課 企画官
(文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官)
7. 【講演】「多様なセクシュアリティと医療」 35
講 師 吉田 絵理子 一般社団法人にじいろドクターズ
8. 【講演】「デザインエンジニアリングのケアへの応用」 67
講 師 吉岡 純希 株式会社 NODE MEDICAL 代表取締役社長
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員

《グループワーク》

9. 全プログラム参加者グループ別名簿 88
10. グループワーク 89
11. ワークショップ評価 98
12. おわりに 106
千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 准教授 黒田 久美子
13. 実施体制 107

1. 看護学教育研究共同利用拠点 令和3年度看護学教育ワークショップ
多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考
ー社会や人々の変化への視野を広げる
ーあらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える
千葉大学挨拶

千葉大学大学院看護学研究院長

諏訪 さゆり

本研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催の看護学教育ワークショップにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたるなか、様々な影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。

本センターは、我が国の看護学教育分野で唯一の文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点として、看護系大学各々では解決しがたい課題の解決や取り組みの共有により、効果的・効率的な教育改善を推進することを使命として活動しています。

今年度のワークショップでは、「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考」をテーマに掲げ、様々な視点からこのテーマを捉えられるよう多種多様な講演とグループワークの機会をご用意いたしました。

本ワークショップにより、社会や人々の変化について視野を広げ、あらためて無自覚にある自身の世界観が看護学教育に及ぼす影響を考えるとともに、多様な人々の理解・支援に向けた柔軟で創意工夫にあふれた看護学教育について検討する場としたいと考えています。

ご参加いただきました皆様の総力によりまして、実りある成果を出していただけるよう期待しております。

どうぞよろしく申し上げます。

2. 令和3年度看護学教育ワークショップ開催趣旨

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長
和住 淑子

昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルスの影響により、Web開催によるワークショップとなった。

看護実践においては対人支援が中核となることから、看護学教育では、伝統的に対面での授業や演習、臨地での実習を重視してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大は、このような教育の前提を大きく揺さぶり、教員は、これまで当たり前に行ってきた教育支援の方法の変更を迫られることになった。そのような中、昨年度のワークショップは、「看護学教育における ICT 活用の可能性」をテーマに開催し、ICT を活用した新たな教育方法について検討し、社会の変化に合わせて変えていくべきもの、変えてはならないものについての理解を深めることできた。また、授業や演習、臨地実習の方法以外に、これまで当たり前と思ひ疑うことなく教えてきた内容についても、変化していく社会の中で改めてとらえなおし、社会の変化に即した看護学教育に刷新していく必要があるのではないか、ということが話し合われた。

実際、看護学教育をとりまく社会情勢として、2015年9月の国連サミットで、持続可能な開発目標 (SDGs) が全会一致で採択され、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現していくことが世界の潮流となる中、日本においても、あらゆる分野における女性の参画、ダイバーシティ、バリアフリーなどが推進されている。また、目指す未来社会として、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society) である Society5.0 が提唱されている。ヘルスケアの領域においては、例えば電子カルテの導入や遠隔医療が実装され、さらに ICT や AI の活用によって、短時間でかつ場に制限されない活動や、ケア物品の開発が可能となっている。

このような社会や人々の変化の中にあつて、看護学教育に携わる教員は、それをどのように捉えてどのように看護学教育に反映させているだろうか。このような課題意識から、本年度のワークショップは、「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考」をテーマとした。

恒例の講演の部では、無自覚にある自身の世界観の影響を考えるため、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所の守屋智敬氏、ダイバーシティやそれを支えるテクノロジーについての理解を深めるため、一般社団法人にじいろドクターズの吉田絵理子氏、株式会社 NODE MEDICAL の吉岡純希氏にご講演をいただいた。また、文部科学省の服部正氏には、DX と高等教育政策に関し、タイムリーな情報提供をいただいた。ここに改めて感謝を申し上げたい。

本ワークショップが、社会や人々の変化について視野を広げ、あらためて無自覚にある自身の世界観が看護学教育に及ぼす影響を考えるとともに、多様な人々の理解・支援に向けた柔軟で創意工夫にあふれた看護学教育について検討する場となれば幸いである。

3. 令和3年度看護学教育ワークショップ実施要項

1. テーマ : 多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考
- 社会や人々の変化への視野を広げる
- あらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える

2. 主旨

2015年9月の国連サミットで、持続可能な開発目標（SDGs）が全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標として決定した。それにもとづき、日本においては、あらゆる分野における女性の参画、ダイバーシティ、バリアフリーを推進すること、十分なセーフティネットが提供される中で、全ての人々が能力を伸ばし発揮でき、誰ひとり取り残されることなく生きがいを感じることでできる包摂的な社会を目指すことを推進されている。2017年に提示された看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「遺伝的・性的多様性を踏まえた上で、環境と健康・生活との関係について理解できる B2-2 環境と健康」、「C-2-1)-(3) 生活者としての多様性」など、多様な人々を理解し、支援することに向けた学修目標が示されている。

また、目指す未来社会として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である Society5.0 が提唱されている。ヘルスケアの領域においては、例えば電子カルテの導入や遠隔医療が実装され、さらに ICT や AI の活用によって、短時間でかつ場に制限されない活動や、ケア物品の開発が可能となっている。

そのような社会や人々の変化がすすんでいる現状において、看護学教育に携わる教員は、それをどのように捉えて看護学教育に携わっているだろうか。教員の背景や文化も多様であり、普段は自覚していない、人々を捉える世界観をもっている。

そこで、本年度のワークショップでは、社会や人々の変化について視野を広げ、あらためて無自覚にある自身の世界観が看護学教育に及ぼす影響を考えるとともに、多様な人々の理解・支援に向けた柔軟で創意工夫にあふれた看護学教育について検討する場としたい。

3. 目的

講演では、参加者各自が、講演で得た多様な観点から、社会や人々への視野を広げ、無自覚にある自身の世界観の看護学教育への影響を考えることを目的とする。

全プログラムの参加者では、講演で得られた示唆に加えて、自大学の現状分析にもとづき、他大学の参加者とのグループワークを通して、自大学における多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育を検討できることを目的とする。

4. プログラム概要

「講演のみ（WEB 配信）」と「全プログラム（講演+ZOOM によるグループワーク）」の2種類の参加方法があります。

1) 講演 WEB 配信

(1) 日時

10月8日（金）～11月4日（木）まで

※全プログラム参加者は必ずグループワークの前までにご視聴ください。

(2) 講演内容

- ・「アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する～無自覚にある自身の世界観の

影響を考える」

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事

株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役 守屋 智敬 氏

・「DXは大学教育にどのような変化をもたらすか？」

前 文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 服部 正 氏

(文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官)

・「多様なセクシュアリティと医療」

一般社団法人にじいろドクターズ 吉田 絵理子 氏

・「デザインエンジニアリングのケアへの応用」

株式会社 NODE MEDICAL 代表取締役社長

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員 吉岡 純希 氏

どれも、30～40分の講演で構成する

2) グループワーク WEB 会議 (全プログラム参加者のみ) 10月22日(金)と事前資料提出

(1) 目的

自大学の現状分析にもとづき、他大学の参加者とのグループワークを通して、自大学における多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育を検討する。

(2) すすめかた

4～5名程度のグループ単位で、事前資料の共有と当日の会議をすすめる。

各グループに担当センター教員が入る。(ZOOMの会議主催者となる。)

事前資料は、「CQI ワークシートA」と「CQI ワークシートBの1」を活用。(または自身で書きやすい様式を使用することも可能)

送付等の詳細は、別途連絡する。

10月22日(金)のZOOMによるグループワーク

10時～11時半

13時半～15時

5. 主催

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

6. 実施方法

(1) 日 程 上記プログラム概要のとおり

(2) 定 員 **【講演のみ】** 定員なし
【全プログラム】 24名

(3) 参加要件 **【講演のみ】** どなたでも参加できます。

【全プログラム】

看護系大学において、組織的な教育の質改善(CQI)を推進する教員

原則として、准教授以上とし、以下の①～②を充たすことといたします。

① WEB 講演の視聴及びZOOMによるグループワーク全てに参加できる。

(参加者全体への影響がありますので、途中参加・退席は認められません)

② 自大学に関する情報を収集し、事前資料を提出できる。(A4用紙1枚半程度、グループワークを円滑にする目的なので、書ける範囲で構わない)。

【推奨OS環境】「Windows7」以降 (Windows)、「Mac OSX」以降 (Macintosh)
【推奨ブラウザ】「Google Chrome」、「Firefox」、「MS Edge」、「Safari」
古いバージョンのブラウザだと再生できない場合がございます。
動画を視聴する際には、最新版のブラウザを使用することを推奨いたします。

(6) 参加申込 **【講演のみ】**

本センターホームページ(<https://www.n.chiba-u.jp/center/>)にある看護学教育ワークショップ申し込みフォームより、お申し込みください。

*申し込み〆切：9月24日(金) 17時

【全プログラム】

看護師等養成課程を置く学部等の長の推薦が必要です。本センターホームページ(<https://www.n.chiba-u.jp/center/>)より所定の「参加申込書」をダウンロードし、看護学教育ワークショップ申し込みフォームにPDF添付の上、お申し込みください。

*申し込み〆切：9月 8日(水) 17時

(7) 参加者決定

【講演のみ】

お申し込み確認後、必要事項(振込先等)をメールにてご連絡いたします。

【全プログラム】

9月16日(木)に、参加の可否をメールにて通知します。定員を超える応募者があった場合は、参加申込書等を参考にして決定させていただきます。

※参加の可否を、事前にご確認願います。

※ZOOMの接続等に関することは、別途ご連絡いたします。

(8) 参加費 **【講演のみ】** 5,000円

【全プログラム】 20,000円

※ 参加決定の連絡の際に、振り込み先をご案内します。

(9) 修了証書 全プログラムに参加した方を、修了要件を満たしたと評価し、千葉大学大学院看護学研究院より修了証書を授与いたします。

7. 注意事項

(1) 申込み受付後の受講料の返金はいたしません。

(2) 大規模な地震・風水害・降雪・事件・事故・疫病等により、研修の開催が困難であると主催者が判断した場合、全てあるいは一部のプログラムを中止することがあります。この場合、受講料の返金はいたしません。

(3) 資料の送付、修了証書の発行等につきましては、研修の進行状況等により判断させていただきます。

8. 個人情報の取り扱い

看護学教育ワークショップへの申込みに際し提出された「参加申込書」等に記載の個人情報については、看護学教育ワークショップ業務及びセンター年報への名簿掲載のために利用し、それ以外の目的に利用することはありません。

9. お問い合わせ先

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係（センター研修担当）

TEL : 043-226-2464

FAX : 043-226-2382

メール : kango-cqi@chiba-u.jp

4. 参加者概要

■全参加者（講演のみの参加者含む）43大学 116名

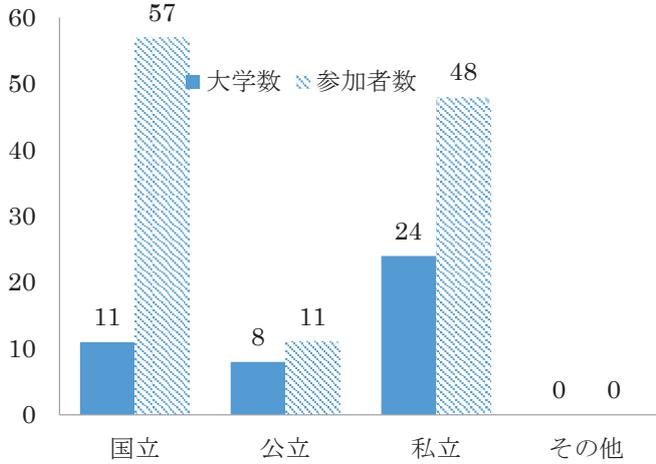


図1 国公立別参加大学数・参加者数

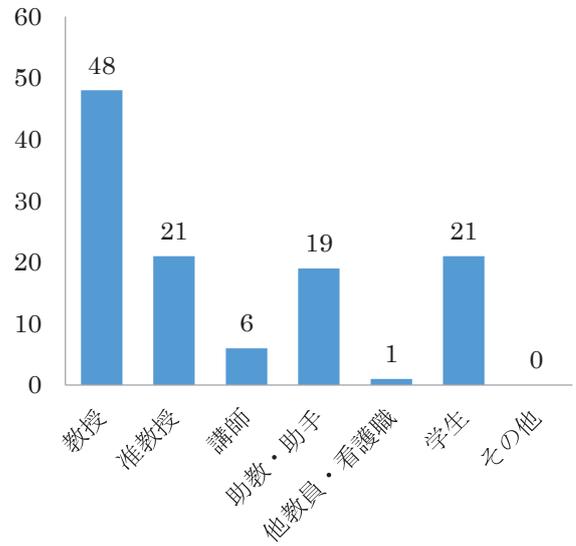


図2 職位別参加者数

■全プログラム参加者 12大学 12名

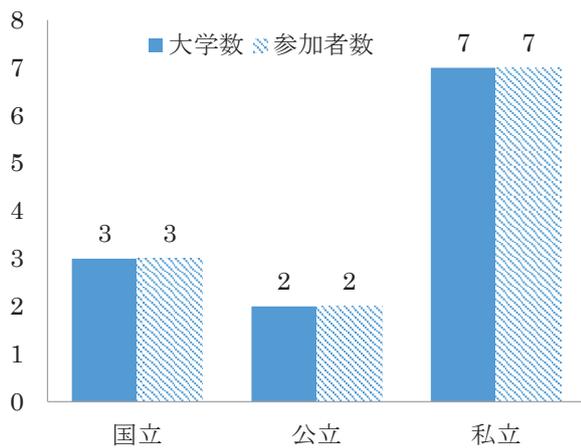


図3 国公立別参加大学数・参加者数

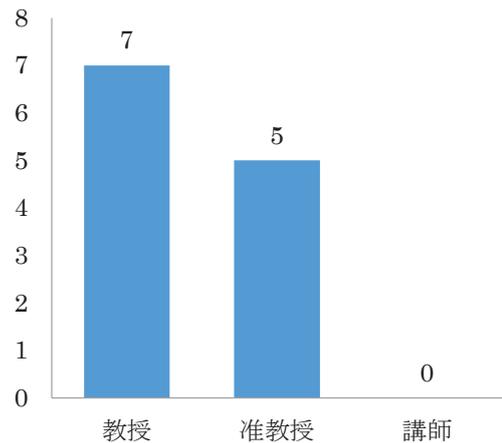


図4 職位別参加者数

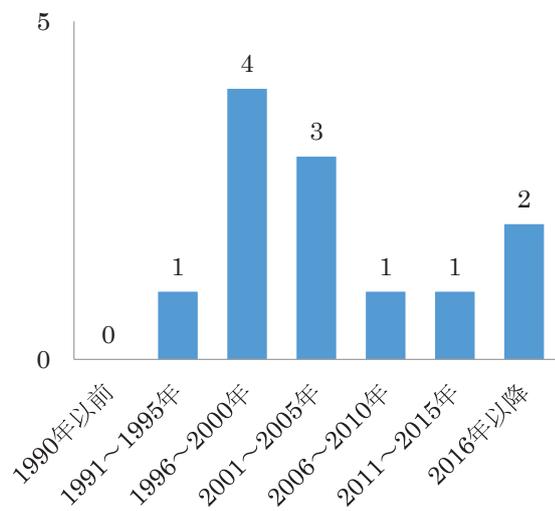


図5 開設年度別参加者数

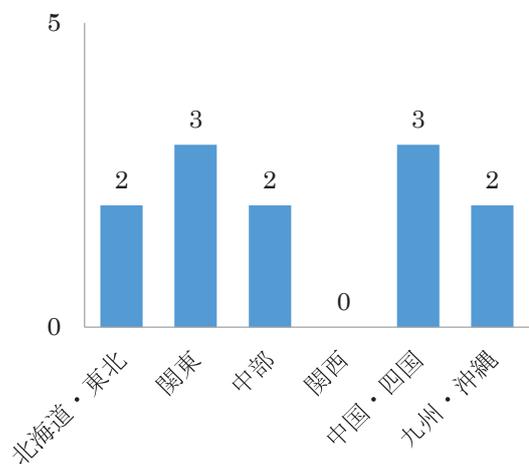


図6 全国ブロック別参加者数

多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考
ー社会や人々の変化への視野を広げる
ーあらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える

< 講 演 >

【講演】 アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する

～無自覚にある自身の世界観の影響を考える

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事

株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役 守屋 智敬

【講演】 DXは大学教育にどのような変化をもたらすか？

前 文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 服部 正

(文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官)

【講演】 多様なセクシュアリティと医療

一般社団法人にじいろドクターズ 吉田 絵理子

【講演】 デザインエンジニアリングのケアへの応用

株式会社 NODE MEDICAL 代表取締役社長

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員 吉岡 純希

看護学教育研究共同利用拠点
令和3年度看護学教育ワークショップ



アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する

～無自覚にある自身の世界観の影響を考える

※令和3年度看護学教育ワークショップ講演資料のうち、公開可能なものに絞って掲載しています

(C) Copyright All Rights Reserved. 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

アンコンシャスバイアス (unconscious bias) とは？

「無意識の偏ったモノの見方」のこと

(「無意識の思いこみ」「無意識の偏見」「無意識バイアス」とも表現される)

アンコンシャスバイアスは日常にあふれていて、誰にでもある

(C) Copyright All Rights Reserved. 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

アンコンシャスバイアスに向き合わないことによる問題例

組織の問題や影響例	個人の問題や影響例
<ul style="list-style-type: none">● 多様性がいかされない● 評価、仕事のアサインの偏り● コンプライアンス、リスク管理の問題● ハラスメントがうまれる● 組織の硬直化(働き方が変わらない等)● がんと就労の両立への影響	<ul style="list-style-type: none">● キャリア開発(成長)の機会を失う● 新しいアイデアがうまれない● 人間関係のトラブルに繋がる● 働き方、生き方の可能性を狭める● 災害時の対応が遅れる● QOLへの影響

(C) Copyright All Rights Reserved. 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

「わたし」を主語に、 アンコンシャスバイアスと向き合い続ける

- 100人が同じでも、101人目は違うかもしれない
- 100回とも同じ結果でも、101回目は違うかもしれない
- 同じ人でも、過去と今、未来は違うかもしれない

(C) Copyright All Rights Reserved. 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

プロフィール

守屋 智敬 (もりや ともたか)

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事
株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役

1970年大阪府生まれ。神戸大学大学院修士課程修了後、都市計画事務所、コンサルティング会社を経て、2015年、株式会社モリヤコンサルティングを設立。管理職や経営層を中心に8万人以上のリーダーを育成。復興庁「新しい東北」先導モデル事業がきっかけとなり、2012年からスタートした復興地東北ツアーは、現在も継続提供している。

2018年、ひとりひとりがイキイキする社会をめざし、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所を設立。アンコンシャスバイアス研修の受講者はこれまでに5万人をこえ、プロ講師、社内講師、教員などをはじめ、育成した「認定トレーナー」は、現在100名をこえる。

アンコンシャスバイアスを知ることは、様々な社会課題の解決にも繋がるとの思いから、「がん治療と就労」「人権啓発」「被災地の皆さんへ」「小・中学生へ」等、様々な角度からお届けしている。



著書(単著)

- 「アンコンシャス・バイアス」マネジメント (かんき出版)
- シンプルだけれど重要なリーダーの仕事 (かんき出版)
- 一流の仕事の「任せ方」全技術 (明日香出版社)
- 導く力 (KADOKAWA)
- あなたのチームがうまくいかないのは「無意識」の思いこみのせいです (大和書房)



▲アンコンシャスバイアスをテーマとした3冊

公式サイト



<https://www.moriyatomotaka.com>



<https://www.unconsciousbias-lab.org>



高等教育はDXをどうとらえるべきか

令和3年10月

服部 正

自己紹介



前 文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官

(文部科学省研究開発局環境エネルギー課環境科学技術推進官)

服部 正 (はっとり まさし)

兵庫県西宮市出身

大阪大学大学院・原子力工学を修了（修士）、2002年に文部科学省に入省

主に、科学技術行政分野に従事。在カナダ日本国大使館一等書記官（科学・教育担当）を
歴任、内閣府出向時には、統合イノベーション戦略、バイオ戦略の策定を担当

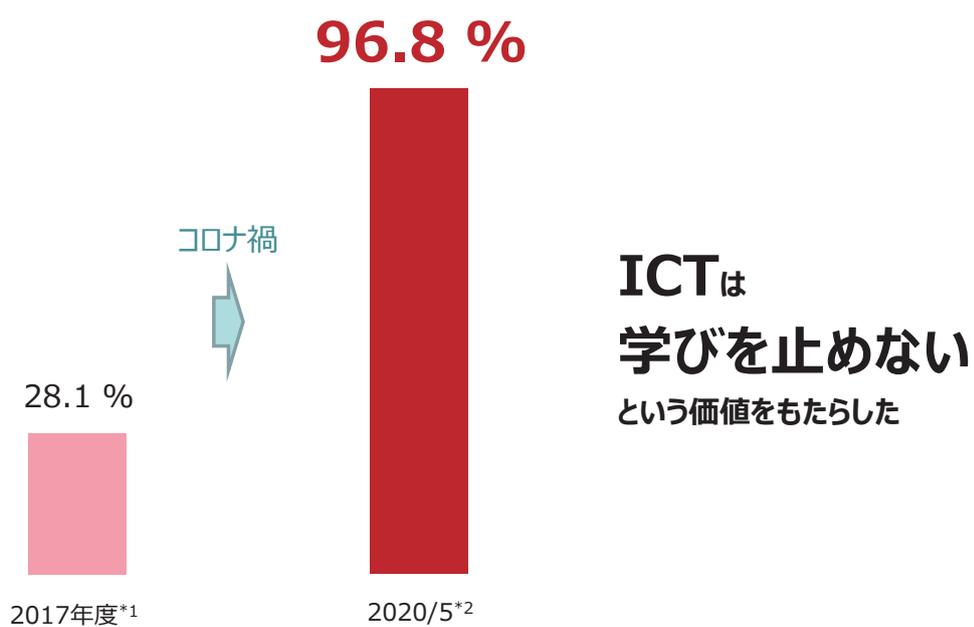
直近では、データサイエンス・AI教育、インターンシップ、高等教育DXにおいて
新しい高等教育行政のビジネスモデルを展開、この8月より現職

高等教育のDX

2

コロナ禍がもたらした高等教育におけるDX

遠隔授業を実施する機関数



*1 平成29年度の大学における教育内容等の改革状況について（令和2年4月28日・文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室）
*2 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況・令和2年5月20日時点（令和2年5月27日・文部科学省）

3

コロナ禍と世界のMOOC

主要MOOCサイトへのアクセス数



(出所) CLASS CENTRALのホームページ

コロナ禍と世界のMOOC

主要MOOCサイトへのアクセス数



March 15th - May 15th, 2020

CLASS CENTRAL

(出所) CLASS CENTRALのホームページ

学生・教員の声

国立情報学研究所（NII）
「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」
において共有された教員等の声

積極的な声	消極的な声
<ul style="list-style-type: none"> リアルタイム・同時双方向授業は、場所の制約がない 非同期・オンデマンド型授業は、時間的制約がなく、履修者自身のペースで学修できる、何回も視聴可能 授業の記録やエビデンスを残しやすい グループディカッションや学生同士の画面共有による議論はオンラインの方が良い <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンピューター、ソフトウェア、ネットワーク、通信といった環境が異なるため、同一指導が困難な場面があった 演習、実習はオンラインでは限界がある 学生の反応や理解度がわからない よりきめ細やかなサポートやメンタルケアが必要 <p style="text-align: right;">など</p>

（注釈）遠隔授業に関するアンケート調査の概要（国立情報学研究所・令和2年9月14日公開）より作成

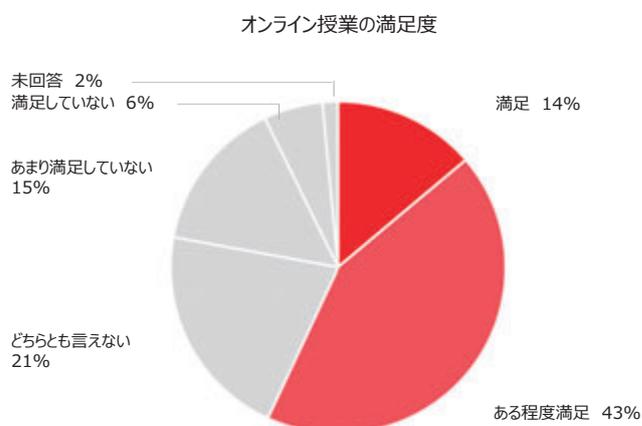
学生・教員の声

新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査

対象：無作為の抽出した学生約3,000名（有効回答者1,744名）

方法：国立教育政策研究所及び大学等の協力を得て。文科省が作成したWEBサイトより、学生が直接回答

期間：令和3年3月5日～27日



約6割程度は肯定的な評価

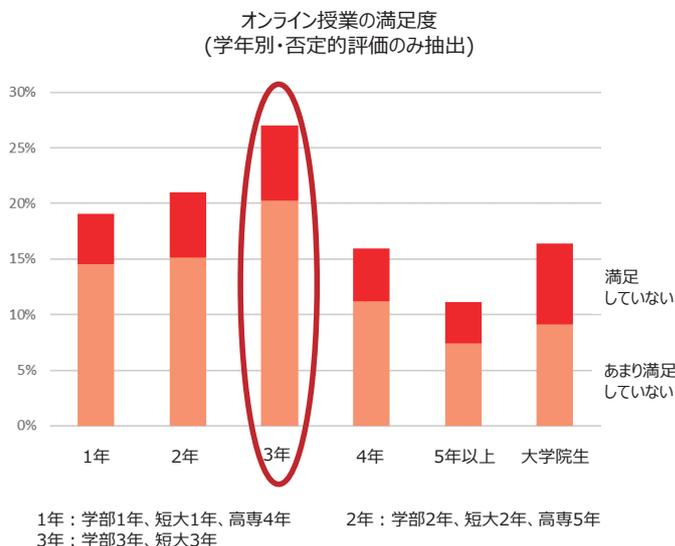
学生・教員の声

新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査

対象：無作為の抽出した学生約3,000名（有効回答者1,744名）

方法：国立教育政策研究所及び大学等の協力を得て。文科省が作成したWEBサイトより、学生が直接回答

期間：令和3年3月5日～27日



**3年生は、
オンライン授業について
否定的な評価が優位に多い**

アフターコロナの我が国の高等教育

ICTを活用した遠隔授業 メリット・デメリットを教員・学生ともに認知

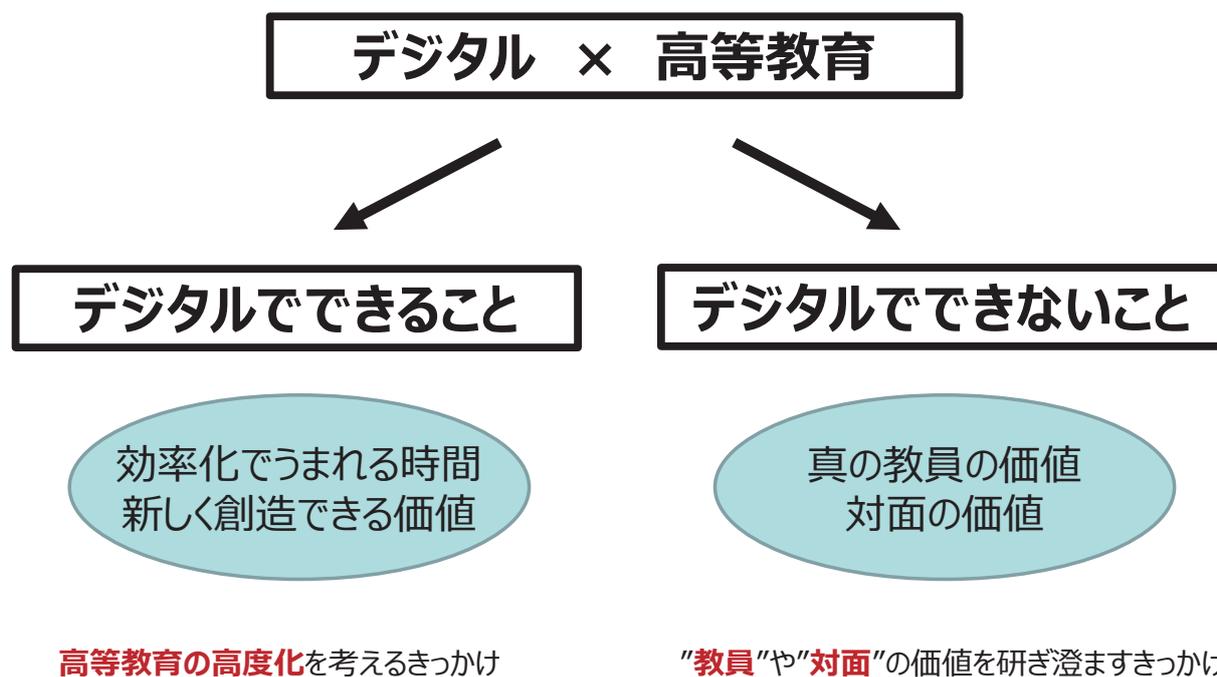
副次的なものとして、今まで教授方法の弱さも遠隔授業で顕在化

コロナ禍前の状況にはもうもどらない

高等教育のDXが加速される

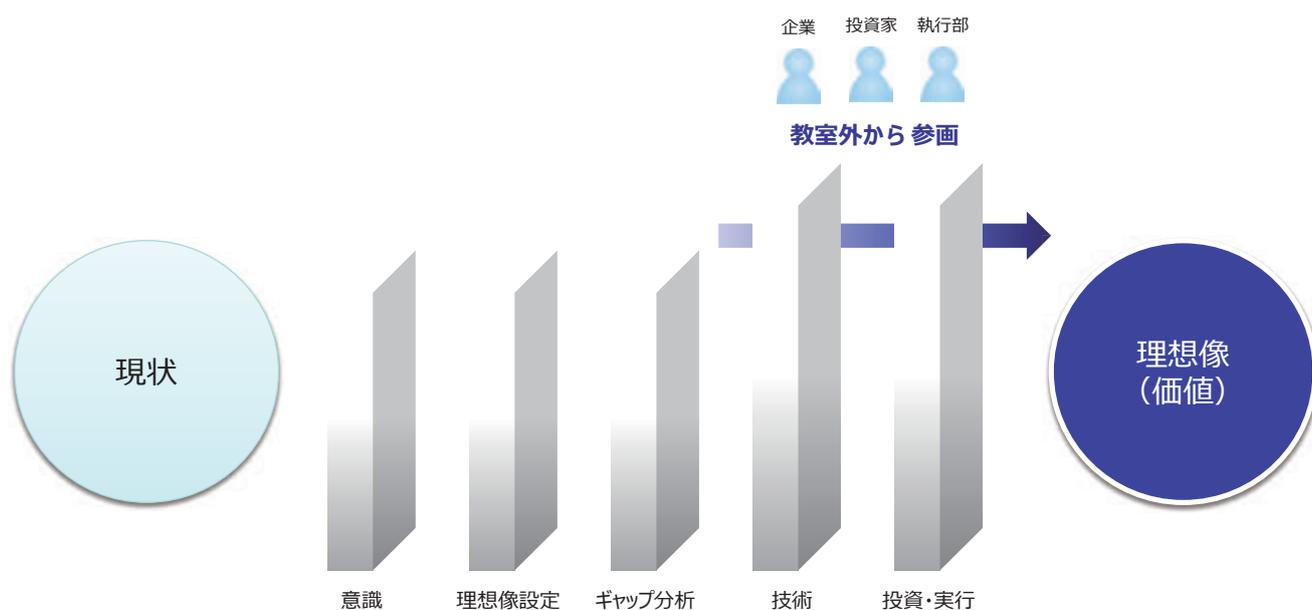
高等教育を高度化するチャンス！

高等教育のDXを考える



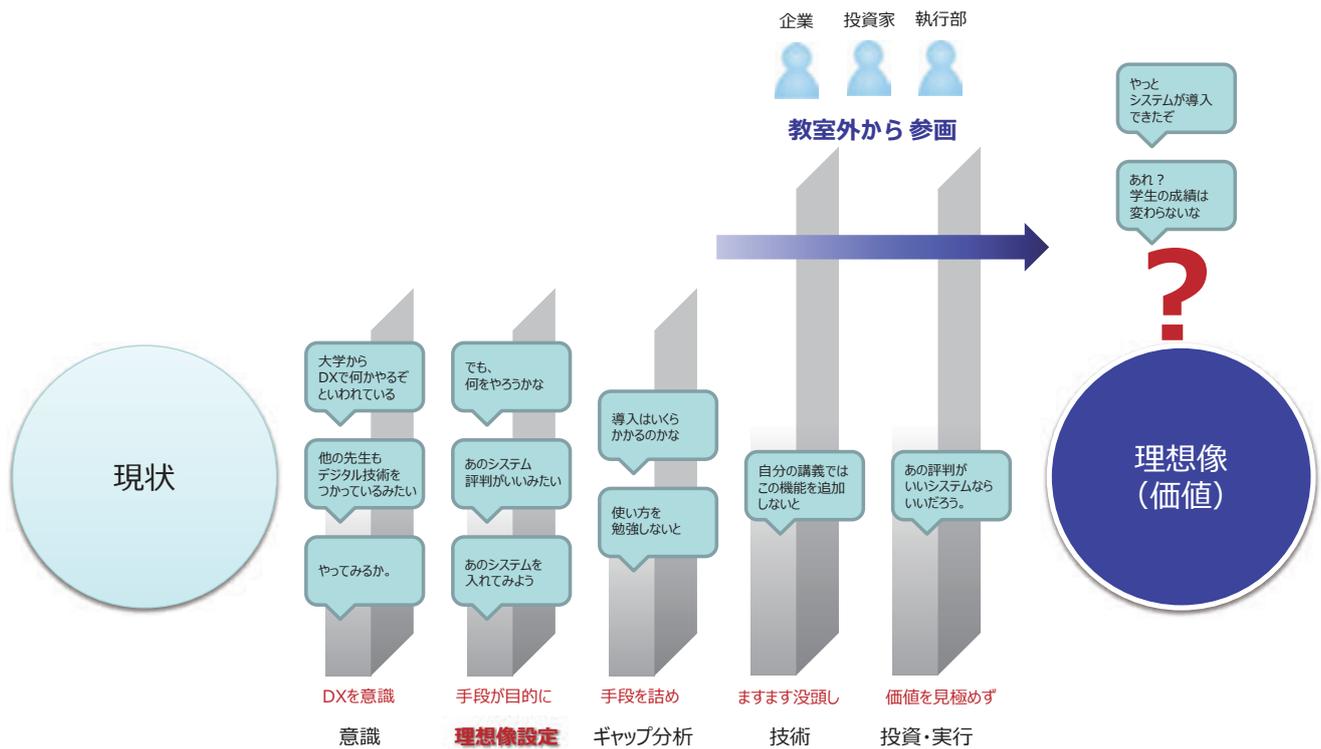
10

高等教育のDXを考える



11

高等教育のDXを考える



12

高等教育のDXを考える

デジタルでできることを考える時に頭にいておきたい

技術 ↔ 制度

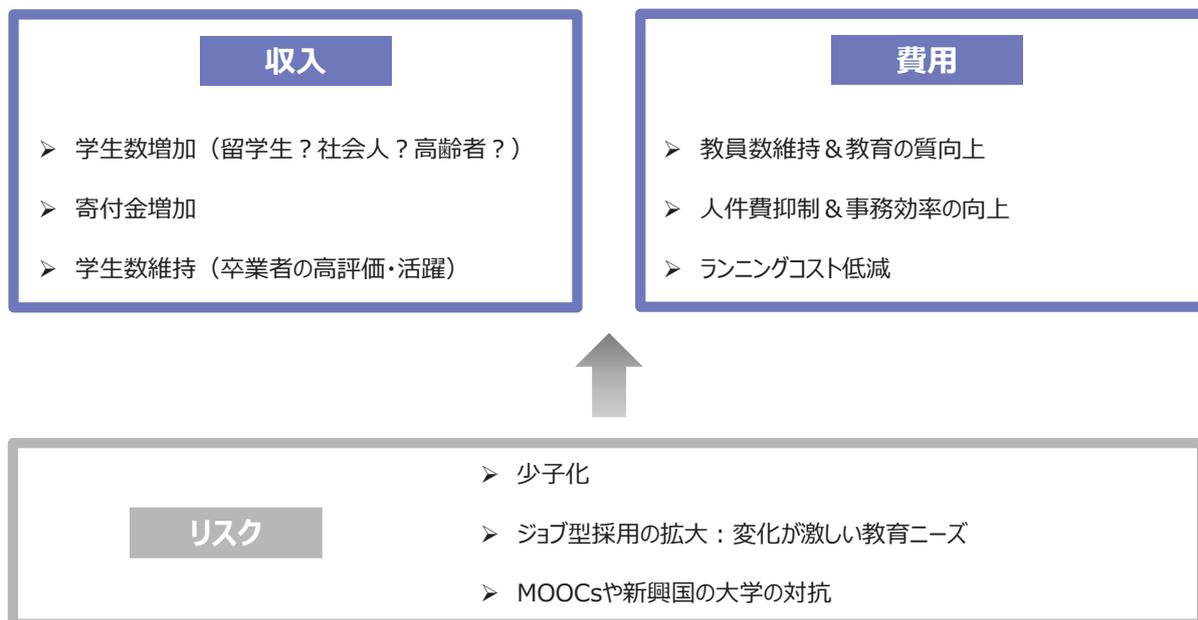
デジタルバッジ、マイクロクレデンシャル、ナノディグリー

学位（ディプロマ）とは何か？

13

DXでもたらされる価値

経営者目線・PL目線で



14

DXでもたらされる価値

現場目線で



15

文科省が展開する高等教育のDX施策

“お金”と“コミュニティ形成”両面から後押し

DX for Society 5.0

新しい高等教育への挑戦の促進【スキームD】

コミュニティ形成支援

高度化モデル普及支援

デジタルを活用した教育高度化プラン【Plus-DX・補正予算】

インフラ整備支援

コロナ対応のための遠隔授業関係整備への支援【補正予算】

デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)申請・採択結果

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」申請・採択状況

【申請・採択の状況】

○申請状況

申請区分	国立大学	公立大学	私立大学	私立短大	国立高専	計
取組1	57	12	93	2	10	174
取組2	40	4	29	0	5	78
計	97	16	122	2	15	252
①、②重複	28	1	19	0	2	50

【注】①、②の重複欄の数は学校数

○採択状況

申請区分	国立大学	公立大学	私立大学	私立短大	国立高専	計
取組1	17	4	22	0	1	44
取組2	7	1	2	0	0	10
計	24	5	24	0	1	54
①、②重複	7	0	2	0	0	9

【注】①、②の重複欄の数は学校数

※取組1及び取組2は、以下の取組を実施する事業です。

【取組1】「学修者本位の教育の実現」

【取組例】遠隔授業による成績管理を発展し、学修管理システム(LMS)を導入して全カリキュラムにおいて学生の習熟度を把握。履修された学生の学修ログをAIで解析し、学生個人に最適化された教育(習熟度別学修や研修指導等)を実現

【取組2】「学びの質の向上」

【取組例】VR(Virtual Reality)を用いた(対面ではない)実験・実習を導入するなど、デジタルを活用して、これまで困難と思われていた内容の遠隔授業を実現。更に、自大学等のみならず、開発した教育システムやデジタルコンテンツ等を他大学等と共有・活用

デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン事業委員会

委員名簿

(五十音順、敬称略)

- 飯吉 透 京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授
- 植松 利江子 津田塾大学学芸学部情報科学科准教授
- 土田 紀行 東京工業大学リバラルアーツ研究教育院長・教授
- 小林 祐 リクルート進学総研所長、リクルート「カレッジマネジメント」編集長
- 小松川 浩 公立千歳科学技術大学理工学部長
- 重田 晴介 北海道大学情報基盤センター准教授
- 堀 雅典 山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター長

(計7名)

Plus-DX採択機関

通し 番号	大学等名	取組名称
取組①		
1	北海道大学	教育データを基にした学修者本位の教育の実現に向けたLMS継続拡張事業
2	北海道教育大学	次世代型LMSとCBTの高次元（TextからTrainingへ）による主体的学びの創出 ～学修成果の可視化による学生の教員意識の向上～
3	宇都宮大学	ブレンドIT・ラーニングの推進と多面的評価による自律的学修者の育成 ～LMSと連携したeポートフォリオの活用を通して～
4	東京大学	「東京大学キャンパス・マネジメント・システム(UTokyo CMS)」の構築
5	東京学芸大学	eポートフォリオ構築によるデジタル技術を活用した教育実習DX
6	山梨大学	学びのリミニアイ ～教育データの集積と有効活用による学生個々の学び支援～
7	東海国立大学機構	デジタル教育コンテンツの統合利用とデータ駆動に基づくデジタルユニバーシティ教育の実現
8	滋賀医科大学	自律的に学ぶ姿勢を育む個別化教育の推進－医療人を育てる学び方改革
9	神戸大学	LMSの高次元と学修データ統合システムによる学修者本位の教育の実現
10	奈良先端科学技術大学院大学	大学院教育高度化を牽引する教育研究統合DX推進事業
11	駒歌大学	総合的学学生支援（Quality of College Life）の充実を達成するLMS-eポートフォリオビルディングシステムの構築
12	岡山大学	DXによる個別最適化と教育効果の可視化
13	広島大学	次世代オンライン教育を実現する「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境の構築
14	山口大学	ソフンの学びをデザインできるAI支援型LMSの実現
15	九州大学	九州大学「教育DX」推進事業 ～LA活用による学修者本位の教育の実現～
16	九州工業大学	学修活動分析を利用した教育高度化のためのデジタル活用効果検証整備

通し 番号	大学等名	取組名称
17	熊本大学	LA, AICによる学修に寄り添ったフィードバックが可能な統合的オンライン学修環境の構築
18	横浜国立大学	ラーニング支援プラットフォーム (Taylor-made Learning Assistance Platform; TMLAP)の構築
19	名古屋国立大学	NCLJ LX-DX (学生の学修活動に寄り添うDATA driven LXシステム構築計画)
20	京都府立大学	学びの多様化・多文化化を推進・創造性を育む「iiv7」でも「iiv7」でも「iiv7」でも ～小規模地方公立大学のDX推進モデル～
21	大阪府立大学	統合的学修・教育支援プラットフォームを核とした自律的学修者支援と教育高度化支援
22	北海道医療大学	医療系大学における学修者本位の教育の実現と質の向上
23	東日本国際大学	学修成果物の機械学習を用いた、成績的方針による概念把握アシメントの自動化
24	岡崎医科大学	データ・元データAI活用を用いた学修の最適化と無修学習を目指す大学改革事業
25	共愛学園前橋国際大学	KYDAI Career Gate+ABCによる個別最適学修の実現 ～地方小規模大学DXモデルの構築～
26	神田外語大学	KUIS DX Experience ～デジタル・パートナー・プラットフォームの構築～
27	桜美林大学	データドリブン・アプローチによる新たな大学価値モデルの創出
28	芝浦工業大学	学生の学びの中心をとり「ラーニングアナリティクス」による教育改革
29	女子栄養大学	ラーニング支援の実現を目指したDX推進に係る統合型プラットフォームの構築
30	東京女子医科大学	統合的学修環境構築に向けたLMSの導入とLearning Analyticsによる学修者支援の高度化
31	東京理科大学	学修のPDCAサイクルを促進する学修データを用いた個別最適化フィードバックシステムの構築と教育効果検証
32	東洋大学	「学生一人ひとりの成長を支援する学修者本位の教育の実現」 ～「3万人のLearning Journey」の創出～
33	法政大学	HOSEI Hi-DXによる個別最適化に向けた学び～法政モデルの実現

18

Plus-DX採択機関

通し 番号	大学等名	取組名称
34	東京医療保健大学	学修過程・成果の可視化を目的とした医療系の学びにおけるDX推進
35	金沢工業大学	DXによる学生一人ひとりの学びに寄り添った教育の実現
36	名古屋医科大学	DX推進による学修成果の可視化による個別指導の充実と学修者本位の教育の実現
37	京都産業大学	学生の気づきと主体的な学びを促進するデータ駆動型教育の実現
38	京都ノートルダム女子大学	小規模女子大学における「フロント型授業モデル」の創出 ～「つまりお経編」で「能力力」を高める個別最適化プラン～
39	追手門学院大学	統合プラットフォーム構築とAI・データ・クラウドの導入による学修者本位の教育の実現 ～ OI-DAL WFL Plus MATCHによる教育の高度化～
40	関西大学	関大LMSと繋がる「今の学び」と「未来の自分」 ～学修環境の再構築とキャリア支援～
41	晋久国際大学	「小規模私立大学のDX教育モデル構築計画」 ～第3期中期計画「デジタルキャンパス構築」の一環としての教育と個別学修支援に特化した全学的教育高度化計画～
42	関西国際大学	「学びの仕組み」のDX推進による効果的学修の実現
43	日本経済大学	「仲間とともに個性を伸ばす」全学DXプログラム
44	長岡工業高等専門学校	個別最適化学びを支える「あらゆるキャンパス」x「あらゆるキャンパス」 ～リアル・サイバー融合による多様で効果的な学びの創出～

通し 番号	大学等名	取組名称
取組②		
45	北海道大学	OERを活用したデジタル・ラーニング学習を普及する先進的学習環境の構築
46	東海国立大学機構	デジタルユニバーシティ構築実現に向けたサイバーフィジカル教育の推進
47	神戸大学	デジタル化ブレンド型教育による課題解決・解決型人材育成
48	広島大学	DXで拓く学びのパラダイムシフト ～ニューノーマルの新たな教育実現に向けた「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境の構築～
49	山口大学	デジタル技術を活用した「知の創造と社会の発展」による学びの創出
50	九州大学	九州大学「教育DX」推進事業～先導ICT活用による学びの質の向上～
51	熊本大学	社会変化に対応する未来型次世代教育の実現 クロスリアリティを活用したデジタルトランスフォーメーションによる教育改革
52	東京都立産業技術大学院大学	技能教育高度化のための高度的技術学習プラットフォームの構築
53	金沢工業大学	DXによる特長と強みの教育の継承と学びの場の創出
54	関西大学	継承・広げる・交り合う ～関西大学グローバルスマートキャンパス構築～

※各大学等の取組概要についてはhttps://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00003.htmに掲載予定。

19

Plus-DX採択のポイント

「DX推進計画」

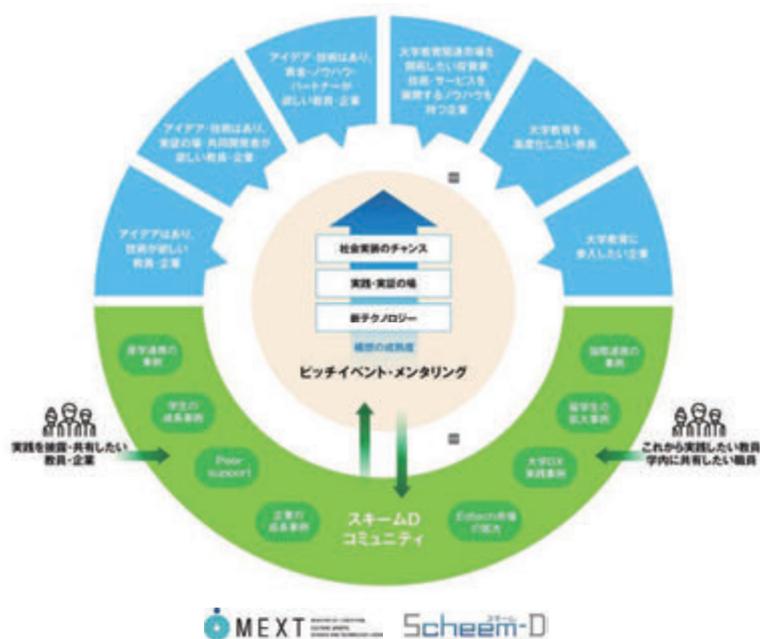
- **現状分析、目標・課題の設定**
- **計画の具体的内容及び実現可能性**
- **計画の先導性、先駆性及び普及可能性**
- **全学的効果**

20

新しい高等教育への挑戦の促進 – スキームD

Student-centered higher education ecosystem through Digitalization

- 学生中心の新しい学びを創造するデジタイゼーション・プロジェクト
- ピッチイベント・メンタリングコミュニティの形成を通じて、新たな高等教育に挑戦するイノベーターを応援するプロジェクト



21

新しい高等教育への挑戦の促進 – スキームD

大学教育デジタルイゼーション オープンコミュニティ

高等教育のデジタル化に関心のある人々が広く参加

スキームD Community

Webアクター

Pitchアクター

メンター

ステアリング
コミッティ

【オープンコミュニティ】

- 高等教育のDXに関心のある方々広く集うオープンコミュニティ
- Facebook+メーリングリストで情報配信や交流

【スキームD コミュニティ】

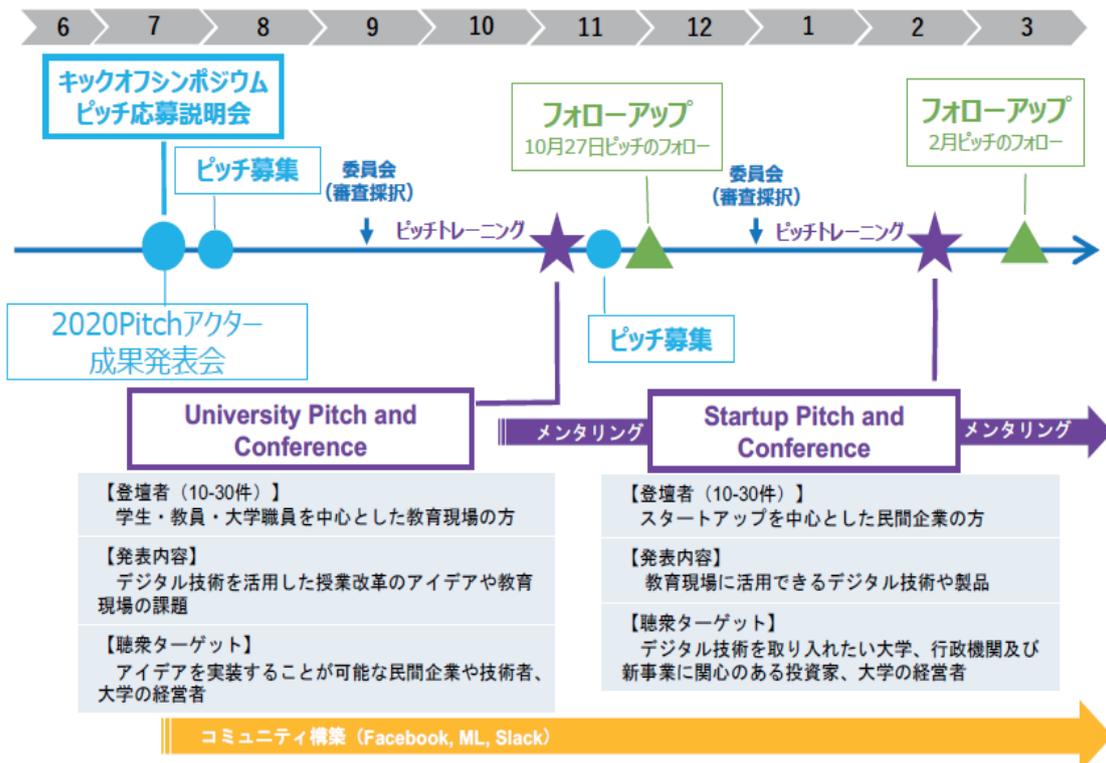
- WebアクターとPitchアクターを中心としたコミュニティ
- Slackを用いて交流やメンタリング

【アイデア実現に向けた支援】

- WEBへのアイデア掲載
- オープンメンタリングやイベントに参加可能
- 事務局による相談を受け付け

- WEBへのアイデア掲載
- University PitchまたはStartup Pitchに出場
- 伴走メンターと専門メンターによる支援に加え、ワークショップやピッチ練習に参加

新しい高等教育への挑戦の促進 – スキームD



新しい高等教育への挑戦の促進 – スキームD

チエア Committee Chair



溝上 慎一 MIZOKAMI Shinichi, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学学長・教授

アクティブラーニング、高大トランジション研究の第一人者。各校で教育顧問を務めるなど、教育実践にも精力的に取り組む。元京都大学教授。asagao、turipの仕掛け人。



小野 陽子 ONO Yoko

横浜市立大学大学院国際総合科学群自然科学系列（データサイエンス学部データサイエンス学科） 准教授

2018年より現職。博士(工学)。Women in Data Science(WiDS)TOKYO@YCUアンバサダー。データサイエンス倫理におけるバイアス、満足などの主観に関する測定、抽象数学定理自動証明システムの構築など、ひとでなければできないことを中心とした研究を行っている。



佐藤 昌宏 SATO Masahiro

デジタルハリウッド大学教授、学長補佐
一般社団法人教育イノベーション協議会 代表理事

経済産業省、内閣府など国の委員や数多くのEdTechスタートアップのメンター、各種審査員等を歴任。EdTech分野のプロトランナー。



白井 詩沙香 SHIRAI Shizuka

大阪大学サイバーメディアセンター
情報メディア教育研究部門 講師

ヒューマンコンピュータインタラクション、学習支援システム、情報科学教育に関する研究に従事。最適な学習環境の実現を目指し、研究・教育実践に取り組んでいる。



羽根 拓也 HANE Takuya

株式会社アクティブラーニング 代表取締役

国内外の機関で能動的人材の育成に取り組む。近年では人材育成の枠組みを超え、新事業構築、産業育成など様々な分野でのコンサルティング、プロデュースに従事。



林 亜季 HAYASHI Aki

NewsPicks for Business 編集長
/AlphaDrive 統括編集長

企業変革や人材育成を手がけるNewsPicks for BusinessとAlphaDriveのコンテンツプロデュースを統括。前Forbes JAPAN Web編集長。



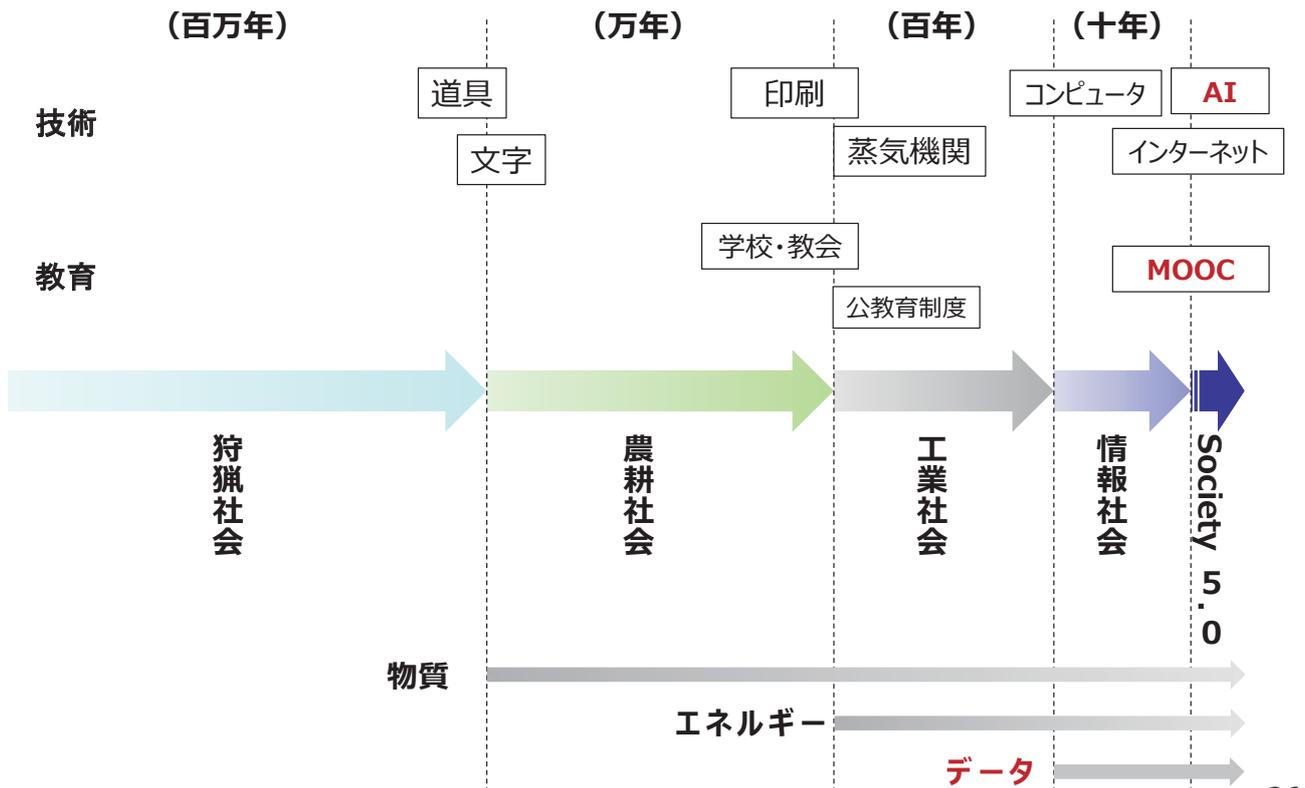
和田 周久 WADA Norihisa

株式会社EduLab 取締役副社長 兼 Co-COO

教育技術領域に幅広い人脈を有し、世界的なEdtechアワードであるGESA Awardsのステアリングコミティを務める。

データサイエンスをどうとらえるべきか
将来を担う子供・若者のために

技術と教育は時代変化を加速してきた



26

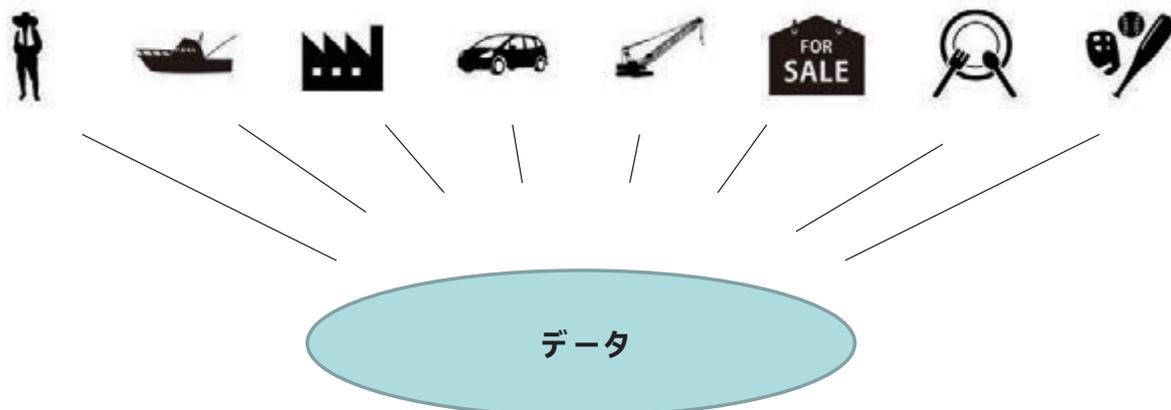
データが価値を創造する時代になった

2007年(時価総額)			2017年(時価総額)		
順位	企業名	時価総額 (億米ドル)	順位	企業名	時価総額 (億米ドル)
1	エクソンモービル (米)	4,685	1	アップル (米)	7,964
2	GE (米)	3,866	2	アルファベット/Google (米)	6,751
3	マイクロソフト (米)	2,936	3	マイクロソフト (米)	5,392
4	シティグループ (米)	2,695	4	アマゾン (米)	4,754
5	ペトロチャイナ (中)	2,618	5	フェイスブック (米)	4,388
6	AT&T (米)	2,548	6	バークシャー・ハサウェイ (米)	4,076
7	ロイヤル・ダッチ・シェル (英蘭)	2,408	7	ジョンソン・エンド・ジョンソン (米)	3,454
8	バンク・オブ・アメリカ (米)	2,250	8	エクソンモービル (米)	3,410
9	中国工商銀行 (中)	2,233	9	テンセント (中)	3,254
10	トヨタ自動車 (日)	2,163	10	アリババ (中)	2,975
..			..		
38	トヨタ自動車 (日)		38	トヨタ自動車 (日)	

(資料) 日本経済新聞電子版 (2017年6月2日)

27

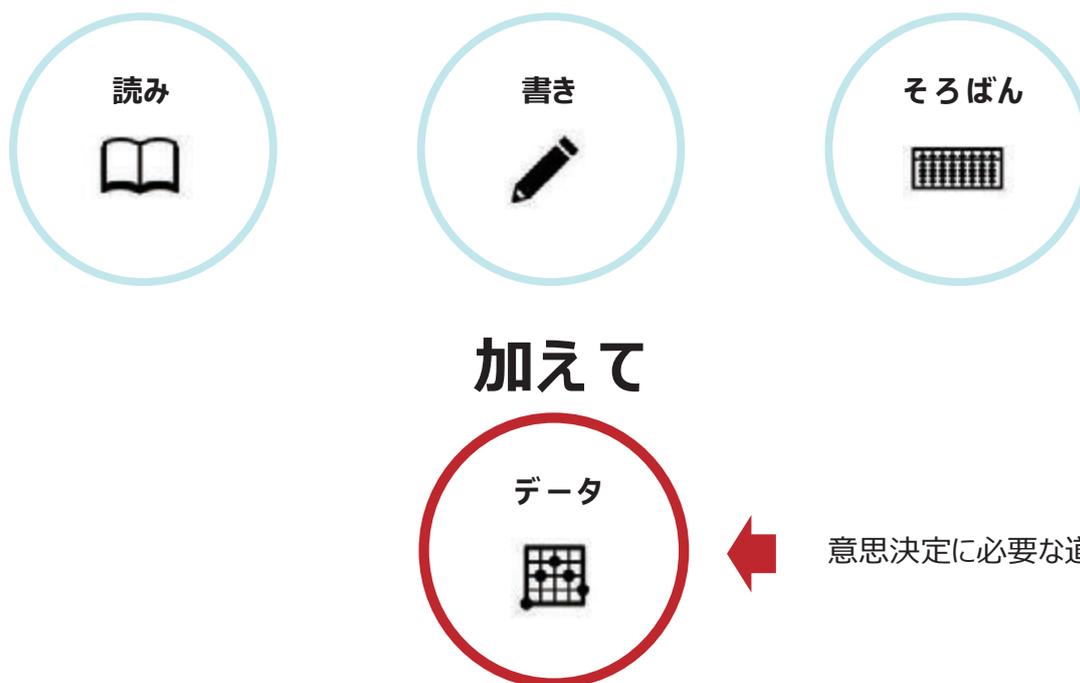
データはあらゆる産業に変革をもたらす



- 意識することなく自らの生活から様々なデータが取得される
- データの活用は人間の認知能力を拡張する（人間にはできない大量のデータを処理可能）
- データを用いて将来の意思決定につなげていくことが求められる

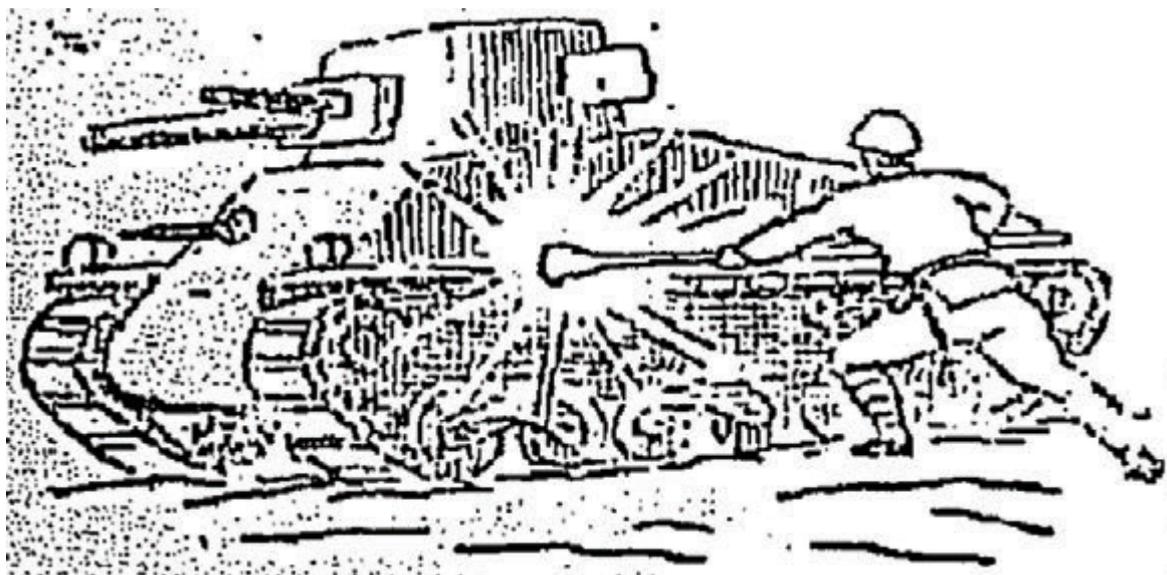
28

これからの子供・若者が生きるために必要なスキル



29

生きるスキルを身に付けて社会に出て欲しい



丸腰で子供・若者を世に出してはいけない。
データサイエンスは一部のエリートの話などではなく、
基礎的な素養である。

30

AI戦略2019 (2020.06 フォローアップ版)

令和元年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議決定

31

AI戦略2019

- ▶ 「**人間尊重**」、「**多様性**」、「**持続可能**」の3つの理念を掲げ、Society 5.0を実現し、SDGsに貢献
- ▶ 3つの理念を実装する、**4つの戦略目標**（人材、産業競争力、技術体系、国際）を設定
- ▶ 目標の達成に向けて、「**未来への基盤作り**」、「**産業・社会の基盤作り**」、「**倫理**」に関する取組を特定

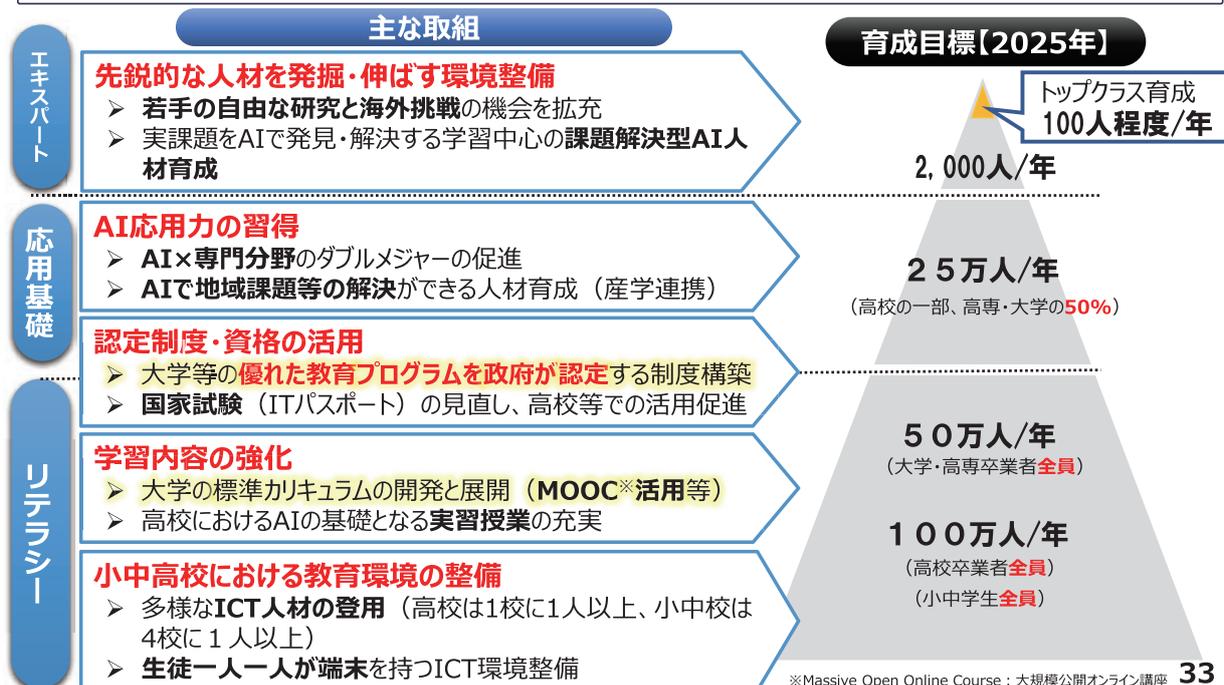


具体目標・取組



AI戦略2019の教育改革

デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎などの必要な力を**全ての国民**が育み、あらゆる分野で人材が活躍



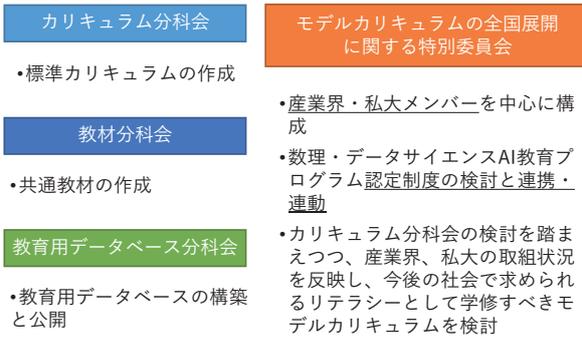
数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム



■ コンソーシアムの主な役割

- ▶ 全国的なモデルとなる**標準カリキュラム・教材**を協働して作成するとともに、他大学への普及方策（例えば全国的なシンポジウムの開催等）の検討・実施
- ▶ 各大学のセンターにおける教育内容・教育方法の好事例を共有し、より取組を発展させるための議論を行うなど、センターの情報交換等を行うための**対話の場の設定**

■ 3分科会及び特別委員会を設置して活動



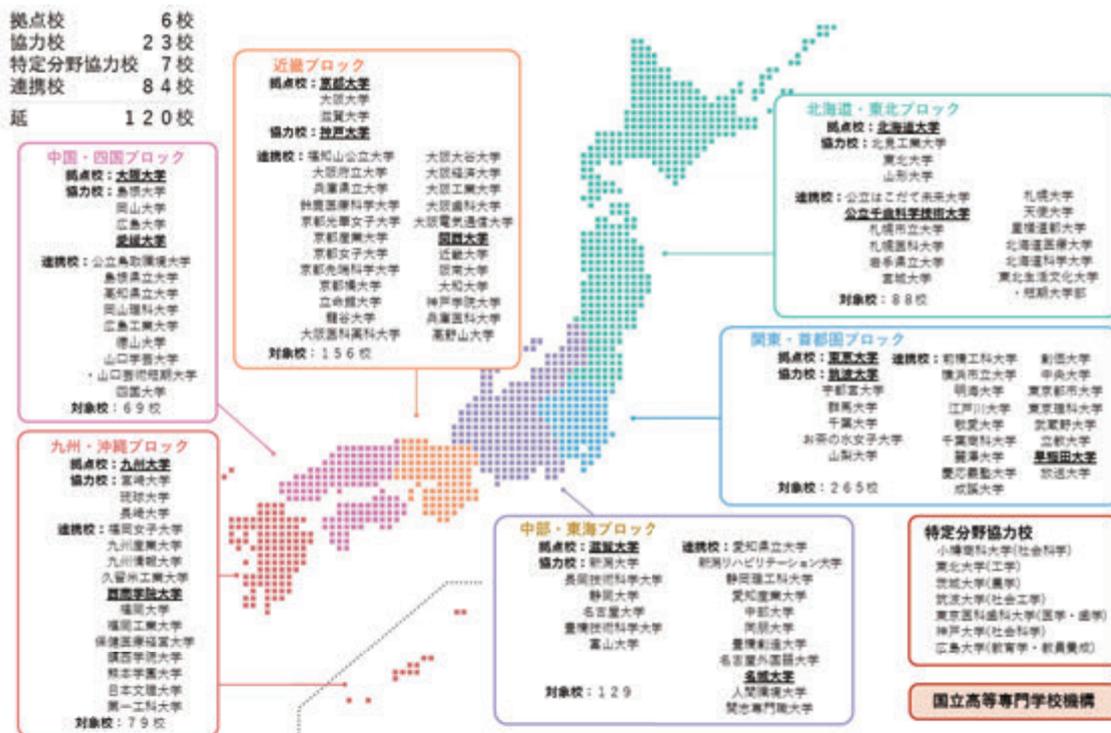
■ 協力校の選定と全国展開に向けたブロック化

- ▶ 数理・データサイエンス教育強化の全国展開加速のために2019年度より6ブロック化して分担して活動

■ その他の活動

- センター及びコンソーシアムの成果指標の設定
- 各センターのシンポジウム等の主催・後援
- 調査活動
- 広報活動(ホームページ、ニュースレター)

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム



※ 下線の大学は拠点校又はブロック別の代表校を示す。これらの大学でコンソーシアム運営会議を開催。

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム

▶ モデルカリキュラム（リテラシーレベル）策定・公表（令和2年4月）

導入	1. 社会におけるデータ・AI利活用	1-1. 社会で活用されているデータ
	1-2. 社会で活用されているデータ	1-2. データ・AI利活用のための技術
	1-3. データ・AI利活用の倫理	1-3. データ・AI利活用の倫理
基礎	2. データリテラシー	2-1. データを扱う
	2-2. データを説明する	2-2. データを説明する
	2-3. データを扱う	2-3. データを扱う
応用	3. データ・AI利活用における倫理事項	3-1. データ・AIを扱う上での倫理事項
	3-2. データ・AIを扱う上での倫理事項	3-2. データ・AIを扱う上での倫理事項
コア	4. オプション	4-1. 統計および数理基礎
	4-2. アルゴリズム基礎	
	4-3. データ構造とプログラミング基礎	
	4-4. 特殊データ解析	
	4-5. データ可視化	
	4-6. データ活用実践（教員あり学習）	

- 全ての大学・高専生（約50万人卒/年）に向けたリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育のモデルカリキュラムを策定

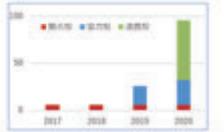
▶ モデルカリキュラム（応用基礎レベル）策定・公表（令和2年3月）

- 文理を問わず、一定規模の大学・高専生（約25万人卒/年）に向けた応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI教育のモデルカリキュラムの策定

▶ コンソーシアムを設立し、協力校等を設置するとともに、拠点校のブロック毎にワークショップやFD活動等を実施

2017年度	コンソーシアム設立（6大学）
2019年度	協力校選定（20大学）
2020年度	協力校（3大学）
	特定分野協力校（7大学）
	連携校公募（84大学 ※）選定

※R3.5月末現在



▶ モデルカリキュラム（リテラシーレベル）を踏まえた教材や講義スライド、動画コンテンツを開発



- モデルカリキュラムに準拠、キーワード（知識・スキル）を解説
- 講義スライドは全ての大学等で、教育目的ならページ単位で自由に利用可能
- 適宜、修正・改善の予定（アンケートによる意見募集）

▶ モデルカリキュラム（リテラシーレベル）を踏まえた教育用データ提供システムの開発



- 演習などの教育に活用可能なオープンソース等を収集・整備し、全国の大学等へ公表・提供
- 社会における実際のデータや課題を民間企業等から公募により収集・整備し、全国の大学等へ公表・提供

数理・データサイエンス教育への私学助成

私立大学等における数理・データサイエンス・AI教育の充実

令和2年度予算額 7億円（概算）

背景・取組

AI活用や成長戦略の実現に向けて、学部学生の約8割を占める私立大学についても、リテラシーレベルを土台とした数理・データサイエンス・AI教育を全学的に進めていく必要がある。このため、実施に向けた体制を構築し中長期的なビジョンのもとに、モデルカリキュラムの策定や教材開発、全国への普及展開を進める私立大学等に対して支援を行う。

【AI戦略2019 令和元年6月11日】
文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程内で初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得。

【成長戦略2019-10-17（令和2年7月17日）】
大学及び高等専門学校における産業界のニーズ踏まえ数理・データサイエンス・AIの履修は教育力向上を促進する効果を感じ、リテラシーレベルに引いて2020年度中に履修開始する見込み。大学・高等専門学校において数理・データサイエンス・AIの履修を中心とした産学連携プログラムの開発を進める。

支援内容

- 私立大学等の実態も踏まえ、モデルカリキュラムの策定や教材開発、社会における具体的な実践例や実データを活用した実践的教育など、先進的な取組も実施する大学等
- 教育連携ネットワークを形成し、AI教育可能な教員を増やすためのワークショップやFD活動等を主体的に実施するなど、他の私立大学等への普及・展開を図る大学等
- 自大学における数理・データサイエンス・AI教育導入に向けて、ワークショップやFD活動に参加する大学等

大学の取組事例

北海道大学（国立）が拠点校となり、「数理的データ活用能力育成特別教育プログラム～数理・データサイエンス教育研究センターの設置～」事業において小樽商科大学（国立）、北海学園大学（私立）等連携の大学と連携し、標準カリキュラム及び数理・データサイエンス教育研究PFの構築、eラーニング等のシステムの展開・普及、各大学で更新・開発された教育コンテンツのフィードバック、自治体や企業等から提供された実データや課題の教材化、連携教育を活用した講義内容の公開、データサイエンスの実践的な履修申請等を実施。

私学助成も開始

- ▶ 先進的な取組
- ▶ 普及・展開に係る取組
- ▶ 導入

大学入試共通テストにおける「情報」追加

平成30年自治体高等学校学習指導要領に対応した
令和7年度大学入試共通テストからの出題教科・科目について

令和3年3月24日
独立行政法人大学入試センター

平成30年3月に新しい高等学校学習指導要領（以下、「新学習指導要領」という。）が告示された。高等学校等においては、令和4年度から新学習指導要領が順次施行で実施される。大学入試共通テストは、大学への入学志願者を対象に、高等学校等の成績における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な学力について把握することを目的として実施するものであることから、令和7年度大学入試共通テストから新学習指導要領に対応したものとすることを必要とする。

このため、大学入試センターにおいては、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革である高大接続改革の観点をもとに、少子化による受験者人口の減少や受験上の配慮を要する受験者の増加、受験者の学力の多様化などの課題などを踏まえつつ、新学習指導要領に対応した大学入試共通テストの出題教科・科目について、

(1) 新学習指導要領においても、理論と実践、高校生に最低限必要な知識・技能と職業の観を確保するという必修教科・科目の確保（共通性）と、学校の教育工夫を活かすための高度や先見の選択の幅（多様性）とのバランスが配慮されていることを踏まえ、必修教科・科目を精選しつつ、大学教育を受けるために必要な学力の測定に資するものとする。

(2) ある大学が個別学力検査を実施する教科・科目については、「大学入学者選抜実施要項」において、高等学校教育に及びず影響にも配慮することとされていることから、大学入試共通テストにおいても、新学習指導要領の各教科・科目の確保を踏まえたものとなるよう配慮すること。

(3) 質の高い試験問題を継続的・定量的に作成できるよう、現在30科目にまで増えている出題科目の数や割合等について、問題作成及び試験実施におけるフィードバック（高度可能性）や、問題作成委員の派遣や試験の実施など大学入試共通テストに係る大学・高等学校関係者の負担に十分に配慮するとともに、受験者数の減少に対応して問題作成委員等の業務負担を削減することも念頭に、必要な工夫を行うこと。

(4) 受験者への過度な負担とならないよう、必修科目の出題や科目選択の割合などにおいて、先行の大学入試共通テストからの大きな変更を避けるよう配慮することの観点も考慮して、検討を行ってきた。

また、検討途中においては、検討中の案に対する意見を関係団体等に求めた。これらの意見を踏まえ、令和7年度入試センターとしての一定の結論を得たところである。今後、文部科学省において、本結論を踏まえ、高校及び大学関係者等の協議を経て、令和7年度大学入試共通テストの出題教科・科目が決定されることになる。

**令和7年度（2025年度）
大学入試共通テストに
「情報（情報Ⅰ）」
が追加される**

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定【MDASH認定】

AI戦略2019

- すべての大学・高専生（約50万人／年）が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得
- 大学・高専の正規課程教育のうち、優れた教育プログラムを政府が認定

種類・主な要件

- 認定教育プログラム (MDASH-Literacy)***
- 大学、短期大学、高等専門学校の正規の課程
 - 学生に広く実施される教育プログラム（全学開講）
 - 具体的な計画の策定、公表
 - 学生の関心を高め、かつ、必要な知識及び技術を体系的に修得（モデルカリキュラム（リテラシーレベル）参照）
 - 学生に対し履修を促す取組の実施
 - 自己点検・評価（履修率、学修成果、進路等）の実施、公表
 - 当該教育プログラムを実施した実績のあること（人文・社会科学等を含む複数学部等からの履修）

選定

認定教育プログラム プラス (MDASH-Literacy+)

- 左記認定要件を満たすこと
- 学生の履修率が一定割合以上
全学生の50%以上（3年以内に達成見込みも可）
- 大学等の特性に応じた特色ある取組が実施されていること

スケジュール

- 2021年2月24日 公募開始（申請受付期間：2021年3月17日～2021年5月14日） 以後、毎年度募集
- 2021年7月頃まで 順次認定・選定

* Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education

数理・データサイエンス・AI教育にコミットする大学・高専を応援！ 多くの大学・高専が数理・データサイエンス・AI教育に取り組むことを後押し！



認定手続き等

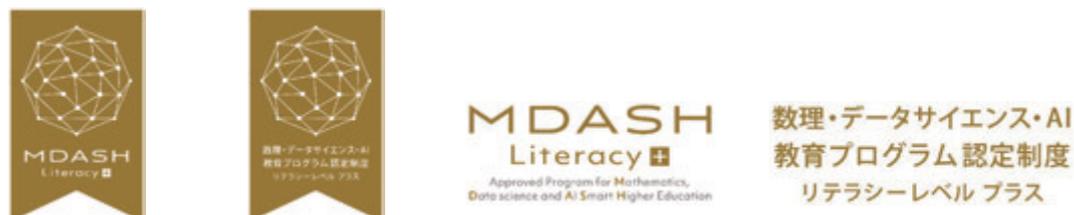
- 審査は外部有識者（内閣府・文部科学省・経済産業省が協力して選定）により構成される審査委員会（3府省共同事務局）において実施
- 審査の結果を踏まえ、文部科学大臣が認定・選定
- 取組の横展開を促進するため、3府省が連携して認定・選定された教育プログラムを積極的に広報・普及

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定【MDASH認定】

- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル） ロゴマーク



- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）プラス ロゴマーク



40

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定



**今年度78件を認定！
大規模総合大学から文系私大まで幅広く認定！**

国立：30件 公立：3件 私立：33件 短大：2件 高専：10件



今年度11件をリテラシー・プラス選定！

- 国立：6件（北海道、東北、筑波、千葉、滋賀、九州）
- 公立：1件（山口東京理科）
- 私立：3件（北海道医療、金沢工業、久留米工業）
- 高専：1件（長岡工業）

来年度からは応用基礎レベルでも認定制度も開始予定

41

今後の方向性

数理・データサイエンス・AI教育を
強化しなければいけないという社会的空気はできつつある

➤ **DS・CS**トップ人材【教える人材層】（500人程度/年）

- 博士課程の抜本的充実（5年一貫が基本）
- PBL・長期インターンシップ必須
- 海外の力を借りる覚悟

➤ **専門 × DS・CS** 分野横断教育プログラム（ダブルメジャー）

- 理工農医系で提供するのは当然
- 社会科学・人文科学専攻への展開を抜本的強化

➤ **学位のブランド化**

- 就職（アカデミック・ノンアカデミック）に役立たない学位に優秀な学生は来ない
- 分野の発展を考えるなら学生の就職・活躍に解を！

多様なセクシュアリティと医療

2021年9月

一般社団法人 にじいろドクターズ

吉田絵理子

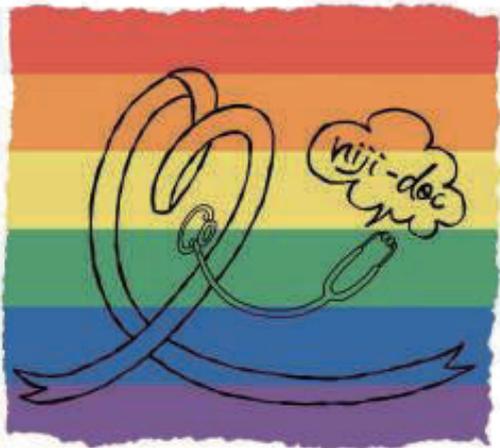
LGBTQコミュニティの代表ではなく、

一人の当事者として、

LGBTQについて学び、研究している医師として、

お話しします。

一般社団法人 にじいろドクターズ



プライマリ・ケアに関わる
医療者のコミュニティ

LGBTQについて適切な知識
と態度を学び、共に考える
機会を提供することで、す
べての人に公平に健康を支
援できる社会を目指す

<https://www.facebook.com/nijiroidoctors/>

<https://www.nijiroidoctors.com/>

本日、お話すること

- ① 平等な看護とは
- ② LGBTQに関する一般知識
- ③ 医学・医療の歴史
- ④ LGBTQの人々がさらされている健康格差
- ⑤ 医療従事者・医療機関ができること



【本日の目標】

- ・ LGBTQの人々が担当患者や、同僚、学生、友人など身近にいることを認識する
- ・ 性的指向、性自認という言葉の説明できる
- ・ LGBTQの人々がさらされている健康格差、医療アクセスへのバリアについて説明できる
- ・ 性の多様性についての講義を受けたことによる影響を振り返り、看護教育に活かすことができる

そもそも、LGBTって何？

L = レズビアン (lesbian)

G = ゲイ (gay)

B = バイセクシュアル (bisexual)

T = トランスジェンダー (transgender)

本日は、LGBTQを包括的な言葉として用います。

① 平等な看護とは

性の多様性と看護

- 日本看護協会による『看護者の倫理綱領』第2条
「看護者は、国籍、人種・民族、宗教、信条、年齢、**性別及び性的指向**、社会的地位、経済的状态、ライフスタイル、健康問題の性質にかかわらず、対象となる人々に平等に看護を提供する」
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム(平成29年に発行)
 - B-2-2 環境と健康
「遺伝的・**性的多様性**を踏まえた上で、環境と健康・生活との関係について理解できる」
 - C-2-1)-(3) ①「**多様な性の在り方について理解できる**」
 - D-3-1 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践、学修目標③
「**性の多様性を理解し、アセスメントできる**」



これまでの日本の調査結果

3.3%

30人に一人

2019年
大阪市での調査¹⁾

8.9%

12人に一人

2020年
電通ダイバーシティ・
ラボの調査²⁾

- 1) 釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇 2019.
『大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート報告書（単純集計結果）』
JSPS 科研費 16H03709 「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」
研究 チーム（代表 釜野さおり）編 国立社会保障・人口問題研究所 内
- 2) 株式会社 電通 広報部 dentsu NEWS RELEASE 2021年
URL:<https://www.dentsu.co.jp/news/sp/release/2021/0408-010364.html>

これまでの日本の調査結果

患者さんの12-30人に1人は
LGBTQかもしれない！
身近にいないのではなく、
見えていないだけ。

- 釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇 2019.
『大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート報告書（単純集計結果）』
JSPS 科研費 16H03709 「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」
研究 チーム（代表 釜野さおり）編 国立社会保障・人口問題研究所 内
- 2) 株式会社 電通 広報部 dentsu NEWS RELEASE 2021年
URL:<https://www.dentsu.co.jp/news/sp/release/2021/0408-010364.html>



医療機関でのカミングアウト

REACH online 2019 (有効回答数 10,769名)

気分の落ち込み・不安・不眠などのメンタルの
症状での受診経験 41.2%

- 受診した人のうち、医療スタッフに
自分の性的指向・性自認について話した経験
39.3%

日高庸晴 治療 2020; 102(10), p1272-1280

性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で
直面する困難のリスト (第3版)

- 産婦人科や泌尿器科の医師に性的指向を打ち明けたところ、
「そんな不道德な生き方はよくない」と説教され、
深く傷ついた。
- うつで受診しているが、自身にとって重要なアイデンティ
ティの1つである性的指向・性自認の話ができていない。

性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する
法整備のための全国連合会、2019年3月公開



- 医療機関の受付で戸籍上の名前が呼ばれるため、
受診しづらくなった。
- 救急車を呼んだ時に性同一性障害であることを理由に
「どう対応したらいいかわからない」と言われ、
搬送されるまでに時間がかかってしまった。
- パートナーが入院したが、
病室での付き添いや看護をさせてもらえなかった。

性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する
法整備のための全国連合会、2019年3月公開

このような事例に関し、
平等な看護を提供するとは？
実際に何をしたらいいのだろうか？

②LGBTQに関する一般知識

性の権利宣言（世界性の健康学会）

「セクシュアリティは、
生涯を通じて人間であることの中心的側面をなし、
sex（生物学的性）、
gender identities（性自認）と
gender roles（性役割）、
sexual orientation（性的指向）、
エロティシズム、喜び、親密さ、生殖が
そこに含まれる」

東優子、中尾美樹 世界性の健康学会「性の権利宣言」
社会問題研究 2015;64:59-62

性自認 : 自分の性をどう認識しているか



生物学的性 : からだの性

社会的な性 : 出生時に指定された性別

(多くの場合は外性器の形態によって
判断され戸籍上の性別となる)

表現する性

(服装、話し方、振舞い方など)

性的指向 : 恋愛や性愛の対象となる性



性自認 gender identity



自分の性をどのように認識しているか？

シスジェンダー :

出生時に指定された性別と性自認が一致

トランスジェンダー :

出生時に指定された性別と性自認が一致しない

* 「性を越境するもの」当事者中心に命名

医学用語である性別違和/性別不合とは異なる概念

性的指向 (sexual orientation)

恋愛や性愛の対象となる性



異性を好きになる : ヘテロセクシュアル

同性を好きになる : レズビアン (女性として女性を好き)
ゲイ (男性として男性を好き)

異性・同性どちらも好きになることがある : バイセクシュアル

好きになるのにセクシュアリティは関係ない : パンセクシュアル

他者に性的な感情を抱かない : アセクシュアル

L・G・B は「性的指向」の話

T は「性自認」の話

LGBT以外にも様々なセクシュアリティの人がいます。

Questioning : 自分のセクシュアリティを探究中の人、
自分のセクシュアリティを決めたくない人

本日は、LGBTQを包括的な表現として用います。

SOGIという言葉もあります。

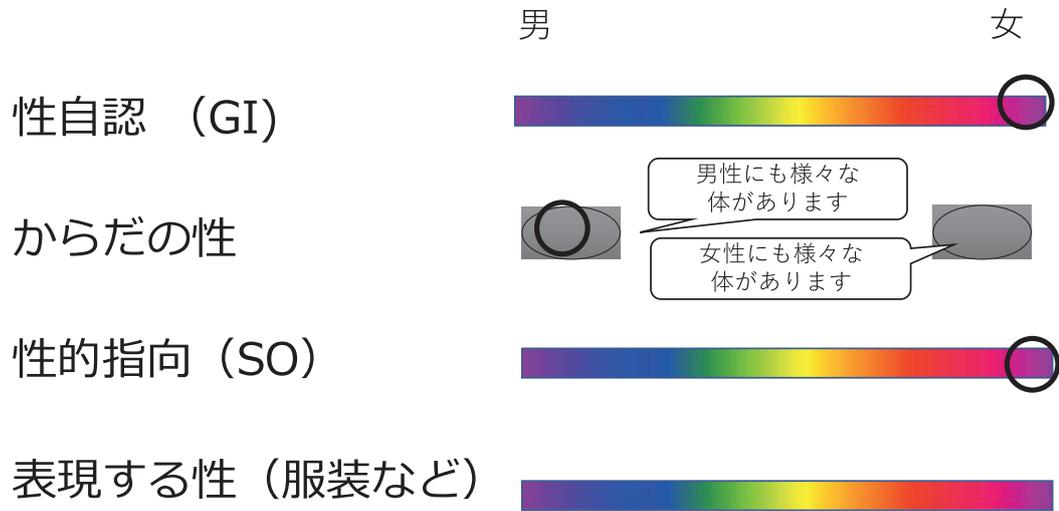
Sexual **O**rientation : 性的指向

Gender **I**ntity : 性自認

すべての人に
関わる概念

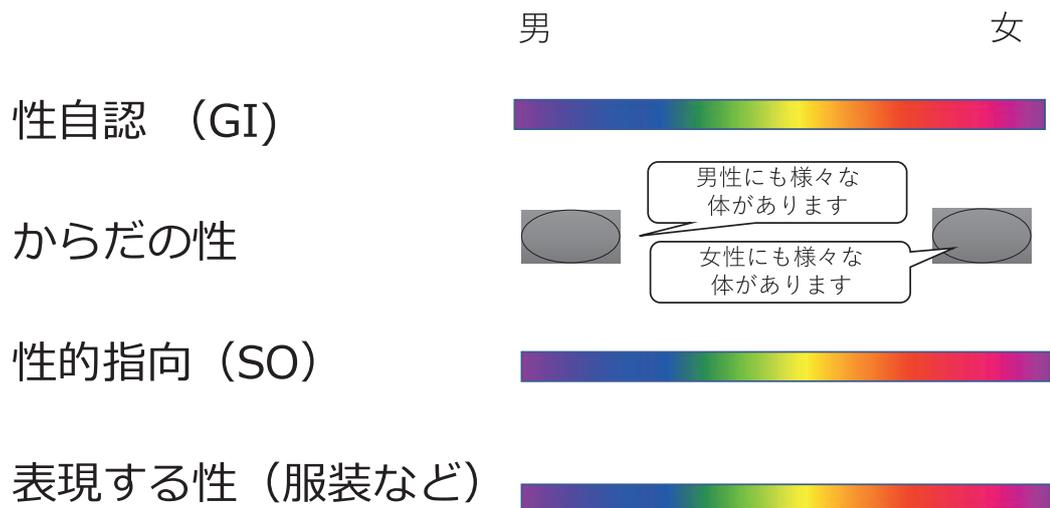


トランスジェンダーでレズビアンという人もいます。



からだの性に関わらず、
「女性として女性を好きになる」 = レズビアン

皆さんはどうでしょうか





セクシュアル・マイノリティを理解するには

- ① 性自認と性的指向とを分けて考える。
- ② 男女二元論を越えて、グラデーションで考える。
- ③ 多様性を理解する。
- ④ 時間軸で変化があることを知る。
- ⑤ 自覚している性的指向と実際の性行動は異なることがある。

大切なのは、
カテゴリーに分けるのではなく、
他のことと同じように、
セクシュアリティも
人それぞれ異なることを知り、
お互いを尊重すること。

どんなセクシュアリティの人でも
心地よく医療を受けられるように
準備しておくこと。



- 他者がセクシュアリティを勝手に決めつけることはできない、決めつけない。
- 自分のセクシュアリティを誰に伝えるかは（カミングアウト）は、本人が決めることであり、他者が勝手に第三者には伝えない。（アウトティング）
 - ➡ 医療の現場で聞き得たことは個人情報であり、絶対に他言しない。

③ 医学・医療の歴史



医療における同性愛の扱い

1990年 WHOがICD-10から同性愛を削除

1995年 日本精神神経学会がWHOの見解を
尊重すると表明

かつてはConversion therapyが行われていた。

- カウンセリング、ホルモン療法による科学的去勢、
電気ショック療法、ロボトミーなど

同性愛者を異性愛者に治そうとする「治療」には、
科学的な根拠はまったくありません。

医療におけるトランスジェンダーの扱い ～時代による疾患名・概念の変化～

1980年 DSM-III 性同一性障害
(Gender identity disorder)

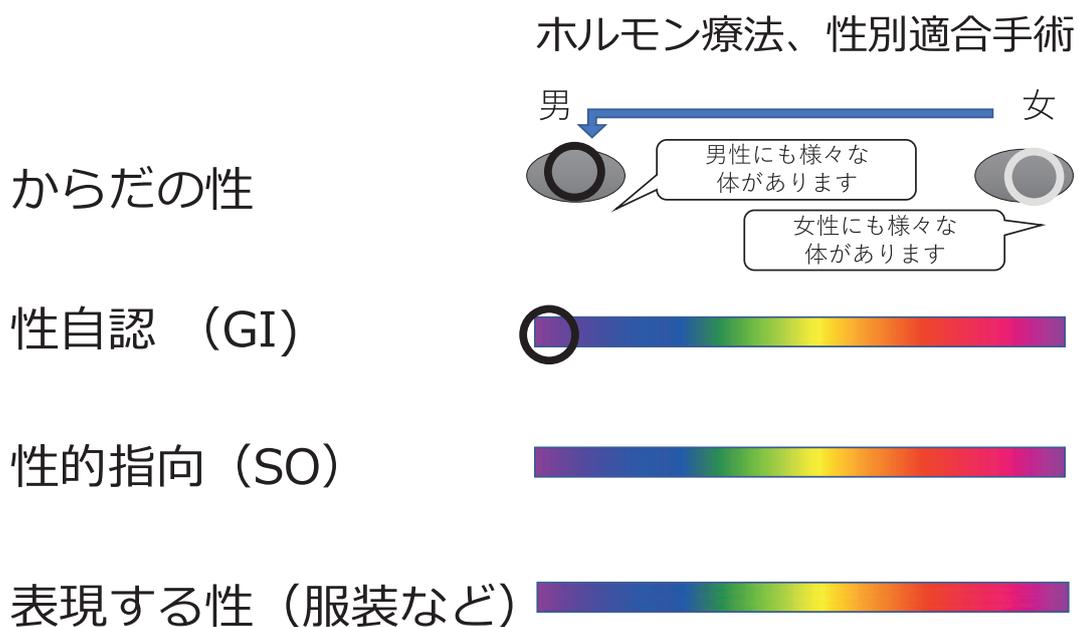
2013年 DMS-5 性別違和 脱障害化
(Gender dysphoria)

2018年 ICD-11 性別不合 脱精神病理化
(Gender Incoguruence)
「性の健康に関する状態」

DSM-5の性別違和の診断基準 (吉田が簡略化)

- A. その人が体験し、または表出するジェンダーと、指定されたジェンダーとの間の著しい不一致が少なくとも6ヶ月持続する。
- B. その状態は、臨床的に意味のある苦痛、または、社会、学校または他の重要な領域における機能の障害と関連している。

性別違和/性別不合

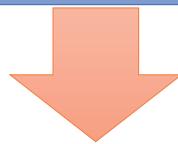


2018年4月から性別適合手術が保険適用となった

④LGBTQの人たちがさらされている 健康格差

健康の社会的決定要因(SDH)とは

学歴、労働条件、所得
居住地、交通の状態、食生活、
ジェンダー、国籍、人種、
社会的支援…



健康状態



すべての根底にある問題 「スティグマ」

個人のもつある属性によって、
差別や偏見の対象となること。

セクシュアルマイノリティ当事者と周囲の人々の
認知や行動に強く影響を与えている。

健康の社会的決定要因
(SDH: Social Determinants of Health)
として集団の健康の不平等を生じさせる。

いじめのこと

日本でのセクシュアルマイノリティ当事者を
対象とした調査

小・中・高校の学校生活でいじめを経験 58%

学校教育で同性愛について一切習っていない 68%
異常なものとして習った/否定的な情報を得た 23%

LGBT当事者の意識調査
「REACH Online 2016 for sexual minorities」 日高庸晴

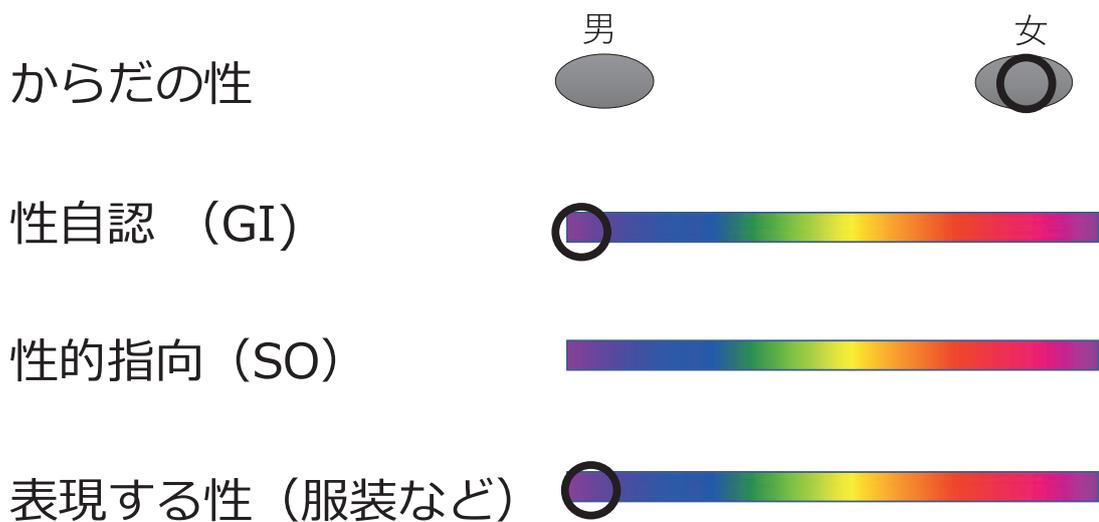


戸籍の性別変更のために必要な要件

- 1、二人以上の医師により、性同一性障害であることが診断されていること
- 2、20歳以上であること
- 3、現に婚姻をしていないこと
- 4、現に未成年の子がいないこと
- 5、生殖腺がないこと又は生殖腺の機能を永続的に欠く状態にあること
- 6、他の性別の性器の部分に近似する外観を備えていること

性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律
性別の取扱いの変更の審判

この結果、起きていることの例



ホルモン療法を行っているが、子宮・卵巣摘出は必要と感じていない。でも就職するために、手術を行うことにした。



LGBTQの人々がさらされている健康格差

- レズビアン・バイセクシュアル女性は肥満である人の割合が高い (米)

Jackson CL, et al. BMC Public Health. 2016;16(1):807.

- 男性とセックスする男性はHIV感染のリスクが高い

異性愛を前提とした性教育

日本での新規HIV感染者の71.3%の感染経路が同性間の性的接触

平成30年エイズ発生動向年本 厚生労働省エイズ動向委員会

LGBTQの人々がさらされている健康格差

- LGBTの人々はうつ、不安障害、自殺企図、喫煙・飲酒・薬物使用のリスクが高い

King.M, et al. BMC Psychiatry. 2008;8(70):e1-17.

Haas M, et al. J Homosex. 2011;58:10-51.

- ▶ 大阪における15歳から24歳を対象にした2001年の調査
自殺未遂の経験率 異性愛男性 4.7%
GB男性 24.5%

約6倍

性的指向以外のリスク因子を調整しても
ゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂のリスクは
異性愛男性と比較して高かった。

(OR 5.98, 95%CI 2.65-13.48)

Y. Hidaka, et al. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2008;43(9):752-757.



- 岡山大学のGIDクリニックでの調査

(GID:gender identity disorder、性同一性障害)
性同一性障害と診断され、
他の精神科的な合併症のない500名
希死念慮の生涯率は72.0%

S. Terada. Psychiatry Res. 2011;190(1):159-162

- LGBTに対する社会的差別は気分障害、不安障害、
物質関連障害の発症と関連している

Katie A, et al. Am J Public Health. 2010;100(8):1477-84.

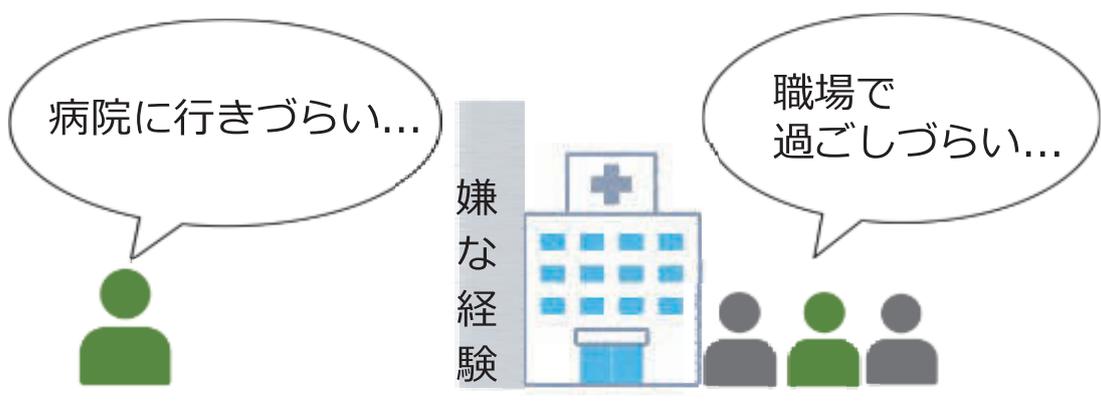
Mei-Fen Yang, et al. LGBT Health. 2015;2(4):306-12.

トランスジェンダーの人々の 医療機関へのアクセスの障壁

- 体調不良の際に、
医療機関の受診をためらったことがある
- 受診をした際に嫌な体験をしたことがある

それぞれ、45%以上が「はい」と答えた

金子典代、浅沼智也、平尾春華、近藤歩
「GID/GD/トランスジェンダーの当事者の医療アクセスの現状」
発行 TRanS、名古屋市立大学大学院看護研究科国際保健看護学



病院に行きづらい...

嫌な経験

職場で過ごしづらい...

患者さんにも、医療従事者にもLGBTの人は必ずいる！
「いない」のではなく、見えていないだけ。

「いまの職場で誰か1人にでも、自身が性的マイノリティであることを伝えている」

レズビアン	8.6%
ゲイ	5.9%
バイセクシュアル	7.3%
トランスジェンダー	15.8%

『職場におけるダイバーシティ推進事業報告書』
令和元年 厚生労働省

LGBTQの医学生や医師に関する調査

- レズビアン・ゲイ・バイセクシャルのレジデントは、ヘテロセクシュアルの人と比べ、所属感が低く、抑うつや不安のレベルが高い。(米国)

Wang K, et al. LGBT Health 2020;7(6):323-339

- LGBTQの医師を対象とした調査 (米国)

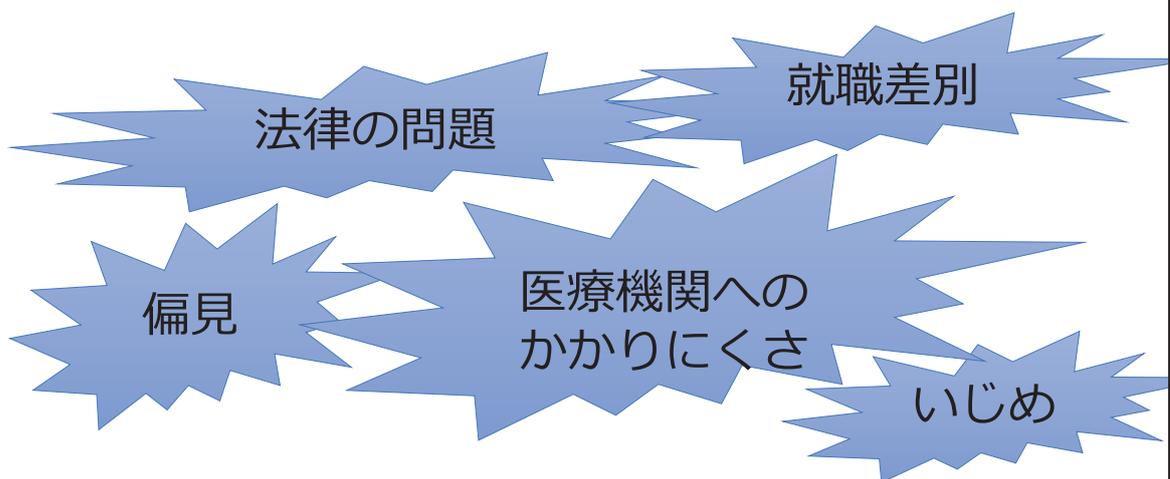
15% 同僚からハラスメントを受けた

27% LGBTQの同僚が差別的な扱いを受けるのを見た

34% LGBTQの患者に対する差別的な対応を見た

65% LGBTQの人に対する軽蔑するようなコメントを聞いた

Eliason M.J., et al. J Homosex, 2011;58(10):1355-71



- ・ 医療機関への受診の先延ばし
- ・ 貧困
- ・ 物質依存 (薬物、喫煙)
- ・ 不安障害、うつ、自殺企図

セクシュアル・マイノリティ
であることは、
健康の社会的決定要因の1つです。

⑤医療従事者としてできること 医療機関ができること

GLMAによる“Guidelines for care of lesbian, gay, bisexual, and transgender patients”を参考にして作成しました。

ハード面として一律で整える必要のあることと、
個々人の希望に沿って対応すべきことがあります。

すぐにできること

アライになろう

(支援者、Alliance=同盟、連合、協調)

★ 3つの箱の話

★ 彼氏いるの? ➡ 付き合っている人いるの?

★ レインボーグッズを身に着ける
(アライという表明)

個人レベルでできること

① 性自認、性的指向、性行動を決めつけない

- ジェンダーに中立な言葉遣い
- 過去、現在、未来の性行動を推測しない
- セクシュアル・ヒストリーの問診の仕方
- 患者さんの使っている言葉を使う

※使用しない方がいい言葉

レズ、ホモ、オカマ、オナベ、オネエ、ニューハーフ

個人レベルでできること

- ② アライであることを表明する
- レインボーグッズを身に着ける
 - 職場で差別的な発言・対応を見かけたときに声かけをする



- ③ 職場での学習会などを提案する
- ④ セクシュアリティごとの健康リスクを学び、適切な予防医療・医療を提供する

施設レベルでできること

- ① SOGIに関する差別をしないことを明文化し、公表する
- ① 診療環境を整える
- レインボーフラッグを掲げる
 - 待合室にLGBTQ関連の書籍やパンフレットを置く
 - LGBTQ関連のポスターを貼る



施設レベルでできること

トランスジェンダーの方が受診しやすいよう

- ②問診票を見直す
- ③呼び入れは番号で行う
- ④トイレ・浴室・院内着を見直す



名前 ()
※通称名使用をご希望の方 ()

性別 ()
※性別に関してご相談のある方はお気軽にお声がけください

法律上の氏名 ()
※通称名使用をご希望の方 ()

出生時に指定された性別 女性、男性、答えたくない
性自認 女性、男性、 ()

呼ばれたい代名詞 彼女 / 彼 / ()





⑤多様な家族に備える

- 面会、病状説明の同席、同意書のサイン
- 自治体発行のパートナーシップ証明を持参された場合に適切な対応をする

⑥守秘義務を守る

⑦スタッフのトレーニングを行う

⑧フィードバックできるシステムの手配

⑨職場環境を整える

⑩地域のリソースと繋がりをもっておく

自分以外の人々の価値観や体験は話をしてみないとわかりません。知識と経験の両方が必要です。

セクシュアルマイノリティーの人を気持ち悪いと思ってしまった場合には・・・正直、私の中にもまったくないとは言いきれません。価値観は、文化の中で刷り込まれてきたもの。理性的に、自分自身の感覚に批判的になってみてください。

それでも、厳しいと感じたら、、、



クリニカル・バイアス

「医療者の社会的マイノリティの人々に対する
偏見によって生じる臨床的判断、態度の歪み」
→ 結果として患者さんのケアの質に影響する

- ・ クリニカル・バイアスを自覚する
- ・ 個人としての信条・感情はどうあれ、
医療職のプロとして患者さんに接する
- ・ 感情がどうしてもケアの質に影響してしまう場合は、
信頼できる人に紹介する

“Nothing about us without us”

マイノリティはツールになる

●多様なセクシュアリティへの配慮

男女間のジェンダー・ギャップの解消や
ハラスメントの予防といった
すべての人が働きやすい環境作りに繋がり得る。

●多様な背景をもつスタッフの育成

当事者性をもつスタッフは
“Experts by experience（経験のエキスパート）”
として、患者の強力なサポーターになり得る。

性的マイノリティに関わらず、
多様性を理解し合うには地道な努力が必要。

時に面倒と感ずることもあるかもしれないけれど、
多様な人が生きやすい社会は、
きっとあなたの生きやすさにもつながっています。

恐れず対話し合い、お互いを知ることで、
誰もが安心して生活できる社会にしていきたいです。



まとめ

- 性自認と性的指向は分けて考える。
性の多様性は人の数だけある
- LGBTQの人々は様々な健康格差にさらされている。
- 医療機関にかかりやすいよう配慮できることがある
- 性的マイノリティの（に限らず、自分と異なる）人々に
配慮するには、知識を身に着け対話を続けることが大切。

もっと学びたい方向けの資料

【無料のもの】

QWRCがHPで公開している「LGBTと医療・福祉」

<http://qwrc.org/2016iryofukushicmyk.pdf>

性と生を考える会のパンフレット（看護師向け、介護士向けのものがあります）

<http://say-to-say.com/>

にじいろドクターズのFacebookページ

<https://www.facebook.com/nijiirodoctors/>

【書籍】

「先生と親のためのLGBTガイド」 遠藤まめた 著

「LGBTサポートブック」 はたちさこ、藤井ひろみ、桂木祥子 編著

「はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで」 石田仁 著

「ふつうってなんだ？」 殿ヶ谷 美由記 (著), ReBit (監修)

【雑誌の連載】

月刊誌『治療』の「ジェネラリストのためのLGBT講座」(2020年4月号～)



ご清聴いただき、ありがとうございました！

デザインエンジニアリングのケアへの応用

株式会社NODE MEDICAL
慶應義塾大学 政策・メディア研究科
吉岡 純希

※令和3年度看護学教育ワークショップの講演資料のうち、公開可能なものに絞って掲載しています

デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ
- 3 そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介
- 5 看護過程とデザイン
- 6 展望

デザインエンジニアリングのケアへの応用

1 自己紹介

2 医療とデザインの相性の良さ

3 そもそもデザインって？

4 実践例の紹介

5 看護過程とデザイン

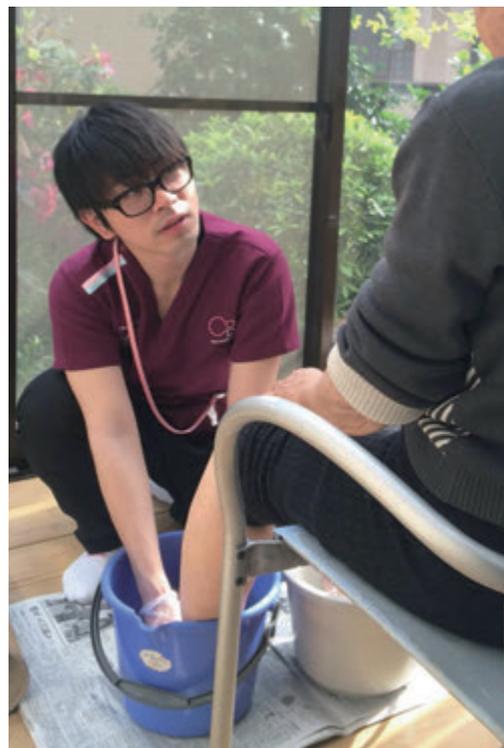
6 展望

Nurse / Design Engineer

看護師 デザインエンジニア

吉岡 純希

1989- 札幌生まれ
2012- 北海道大学 医学部保健学科看護学専攻 卒業
2012-2015 看護師
救急救命センターHCU / 在宅 計5年
2014- vvvv Japan Community (Community Manager)
Digital Hospital Art
2015- FabNurse
2017-2019 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士
2019- 株式会社NODE MEDICAL
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
2021- 慶應義塾大学SFC研究所 政策・メディア研究科 研究員



ケアとテクノロジーの実践的なプロジェクト

Care+Design Engineering

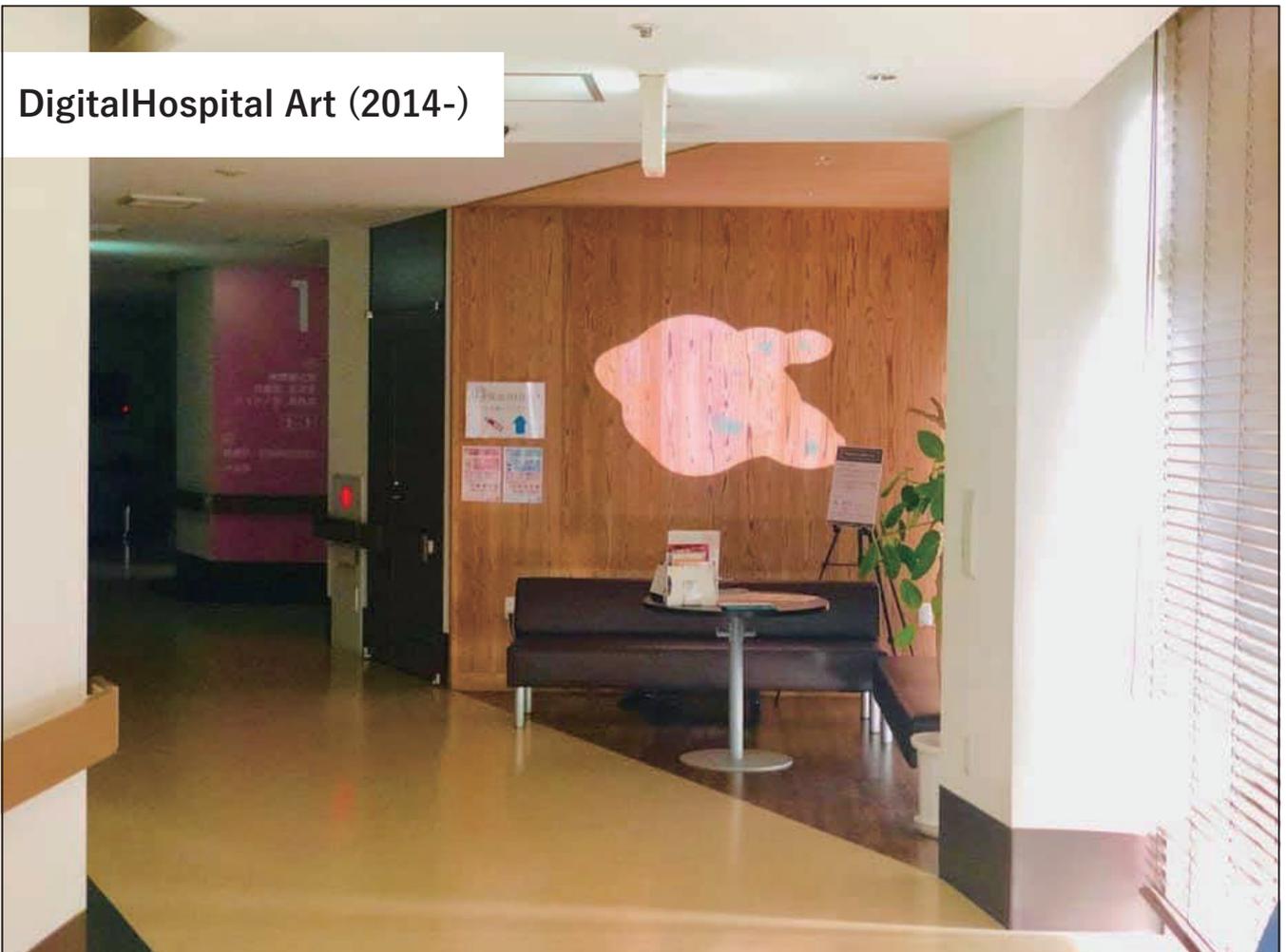


Digital Hospital Art

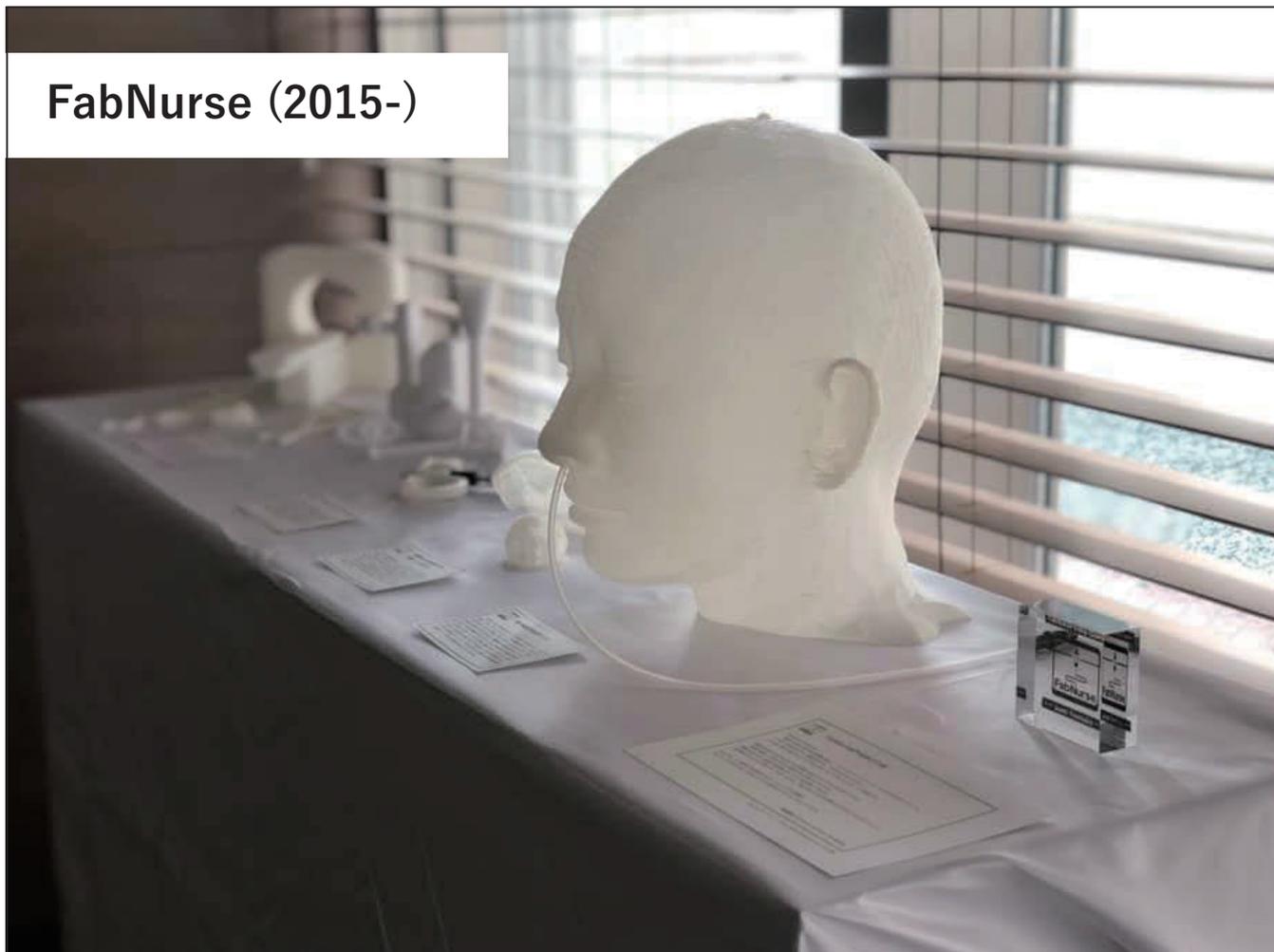


FabNurse

DigitalHospital Art (2014-)



FabNurse (2015-)

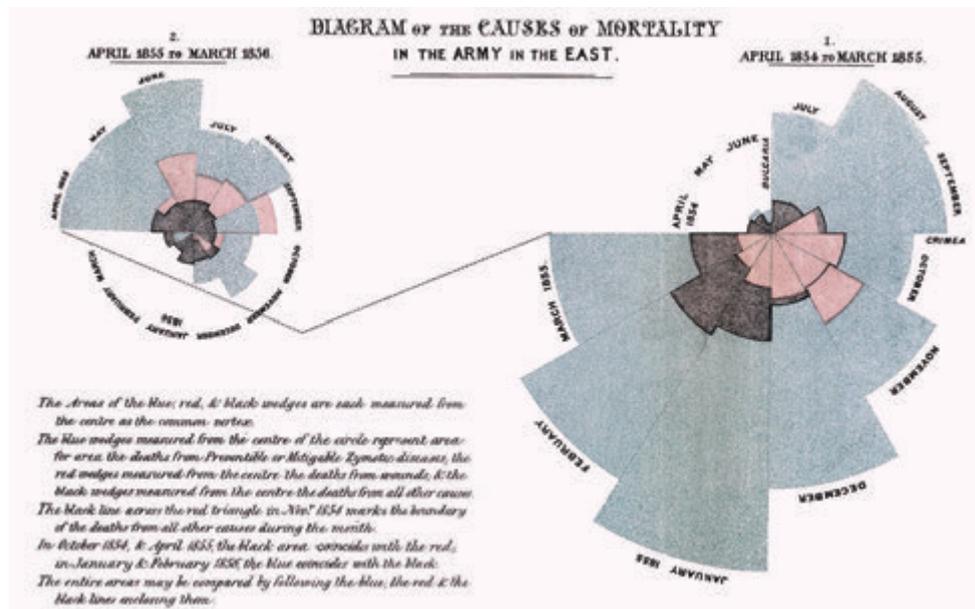


デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ**
- 3 そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介
- 5 看護過程とデザイン
- 6 展望

医療とデザインは相性が良い

医療統計学とデザイン (インフォグラフィック)



フローレンス・ナイチンゲール(1856)

画像： Florence Nightingale (1820-1910). / Public domain, courtesy of Wikimedia Commons

デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ
- 3** そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介
- 5 看護過程とデザイン
- 6 展望

そもそもデザインって？

デザインの領域はかなり多様化している



そもそもデザインって？

産業革命

1700後半 - 1800年後半	第一次産業革命	蒸気 / 軽工業 (イギリス)
1800年後半 -	第二次産業革命	機械・工業化 (アメリカ・ドイツ)
1900年後半 -	第三次産業革命	コンピュータ/情報
2000年 -	第四次産業革命	IoT / AI ...



**デザインの役割が、
「かたちづくる」ことから、拡張してきている**

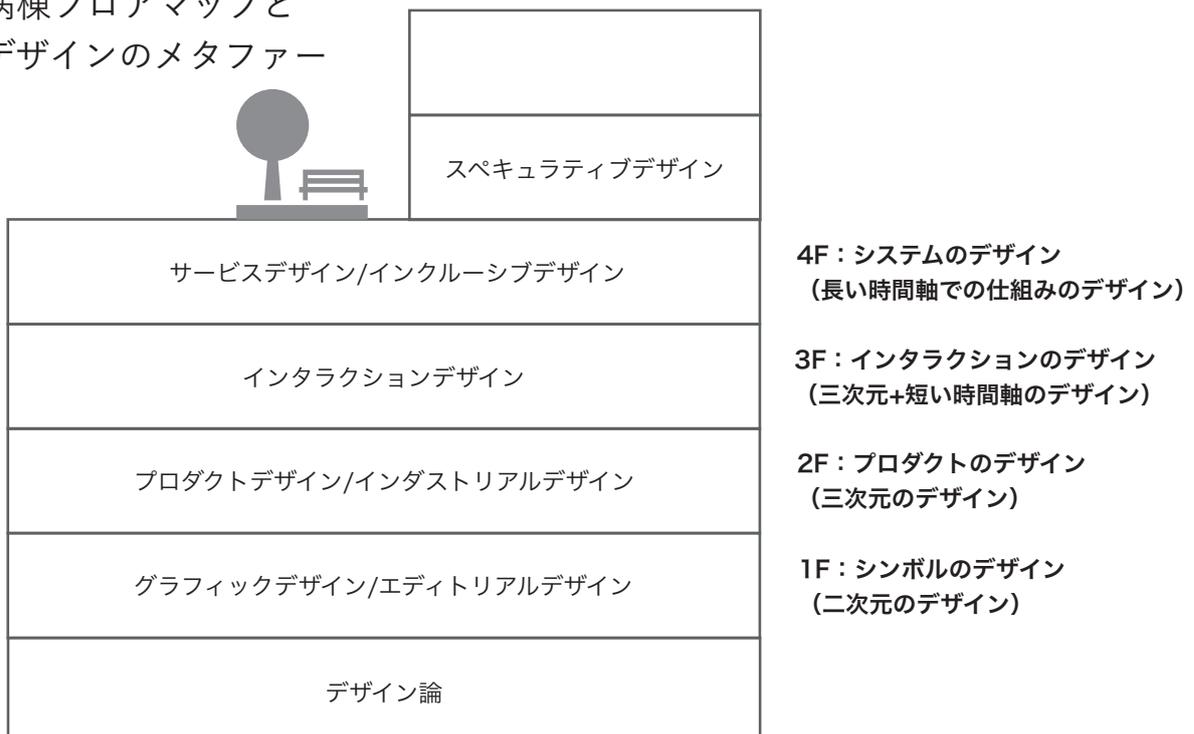
そもそもデザインって？

病院フロアマップ



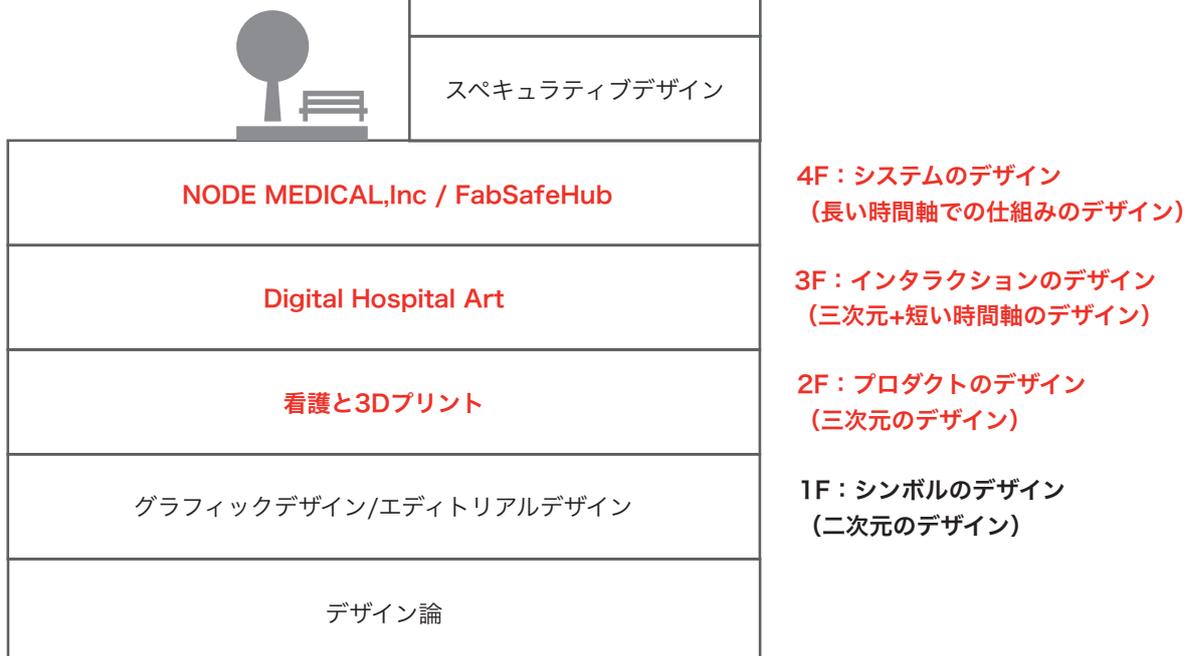
そもそもデザインって？

病棟フロアマップと デザインのメタファー



そもそもデザインって？

病棟フロアマップと
デザインのメタファー



デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ
- 3 そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介**
- 5 看護過程とデザイン
- 6 展望

実践例の紹介

病棟フロアマップと
デザインのメタファー



スペキュラティブデザイン

NODE MEDICAL,Inc / FabSafeHub

Digital Hospital Art

看護と3Dプリント

グラフィックデザイン/エディトリアルデザイン

デザイン論

4F：システムのデザイン
(長い時間軸での仕組みのデザイン)

3F：インタラクションのデザイン
(三次元+短い時間軸のデザイン)

2F：プロダクトのデザイン
(三次元のデザイン)

1F：シンボルのデザイン
(二次元のデザイン)



実践例の紹介

病棟フロアマップと
デザインのメタファー



スペキュラティブデザイン

NODE MEDICAL,Inc / FabSafeHub

Digital Hospital Art

看護と3Dプリント

グラフィックデザイン/エディトリアルデザイン

デザイン論

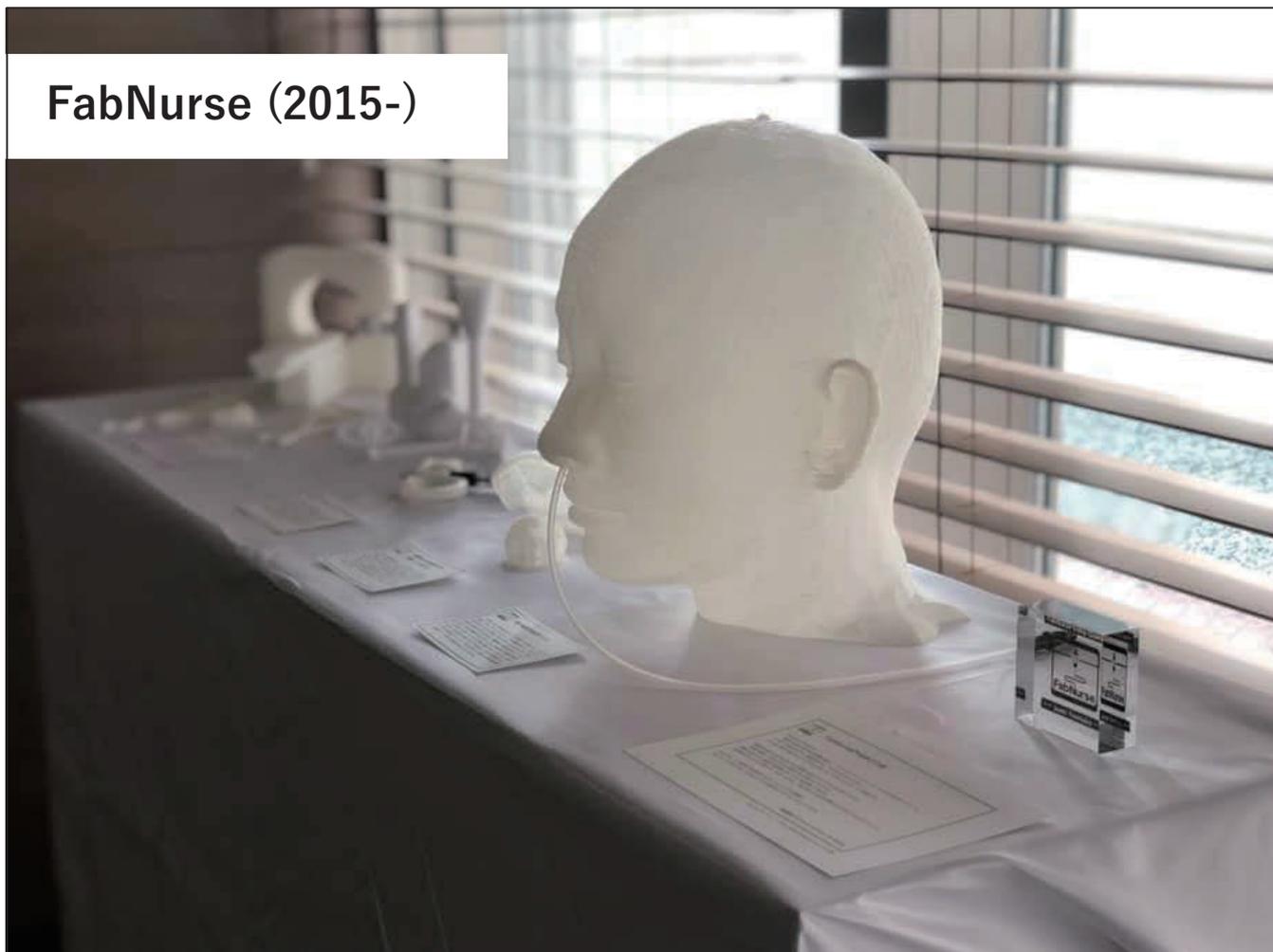
4F：システムのデザイン
(長い時間軸での仕組みのデザイン)

3F：インタラクションのデザイン
(三次元+短い時間軸のデザイン)

2F：プロダクトのデザイン
(三次元のデザイン)

1F：シンボルのデザイン
(二次元のデザイン)

FabNurse (2015-)



3D Printed FaceShield



デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ
- 3 そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介
- 5 看護過程とデザイン**
- 6 展望

看護過程とデザイン

ちょっとした工夫がケアの現場を支えている

内服薬の飲み忘れが続いていた認知症患者へ、日常生活で必ず使っていた「箸に薬を縛る」ことで、飲み忘れなく自立できた。



看護過程とデザイン

ちょっとした工夫がケアの現場を支えている



車椅子ストッパーを、ラップの芯で代用。前かがみでの転倒のリスクを低減する。

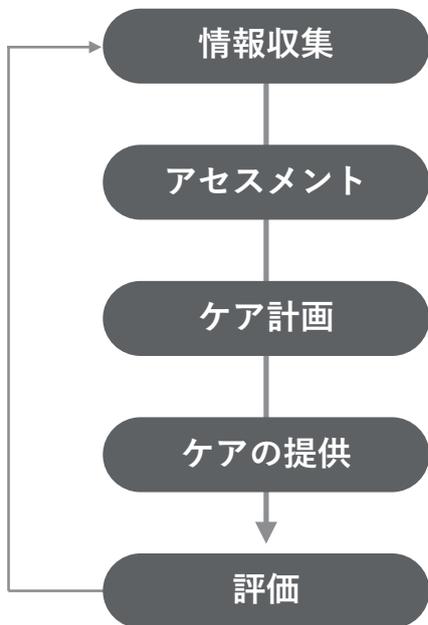


麻痺により「にぎる」動作が難しい方は、「ひっかける」動作へ変えることで自立を促す。

ケアとしてのデジタルアート

“デザイン”が“ケア”を担うことができる

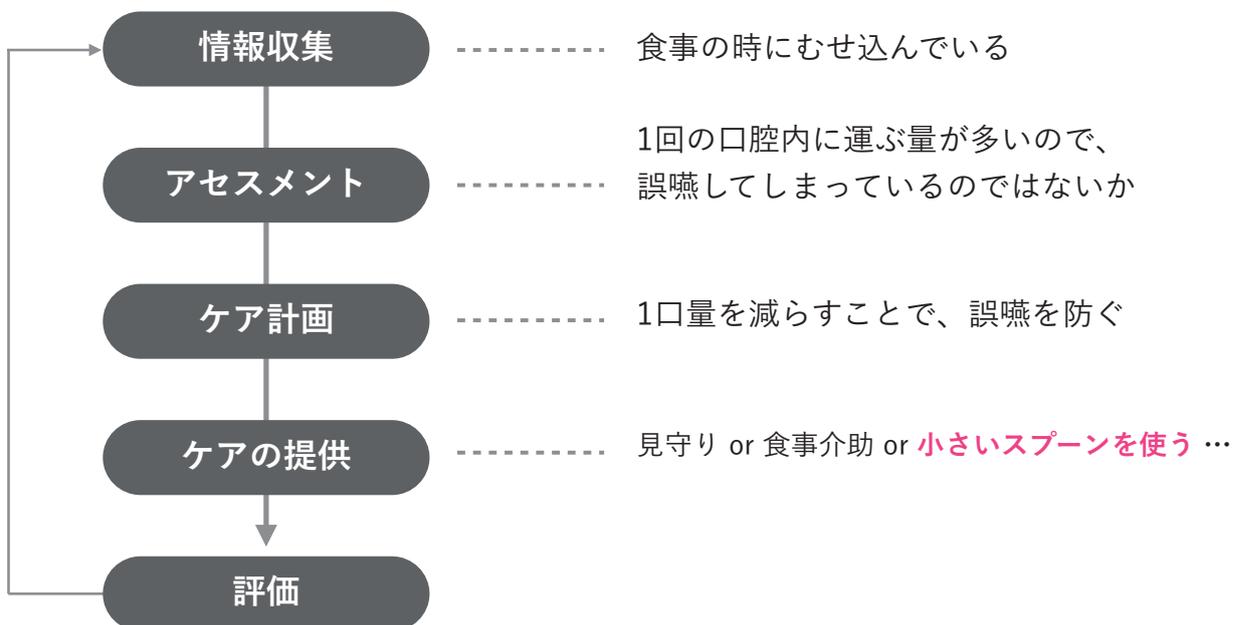
看護ケアの提供のプロセス



看護過程とデザインをつなぐヒント

“小さいスプーン”が“誤嚥予防”を担うことができる

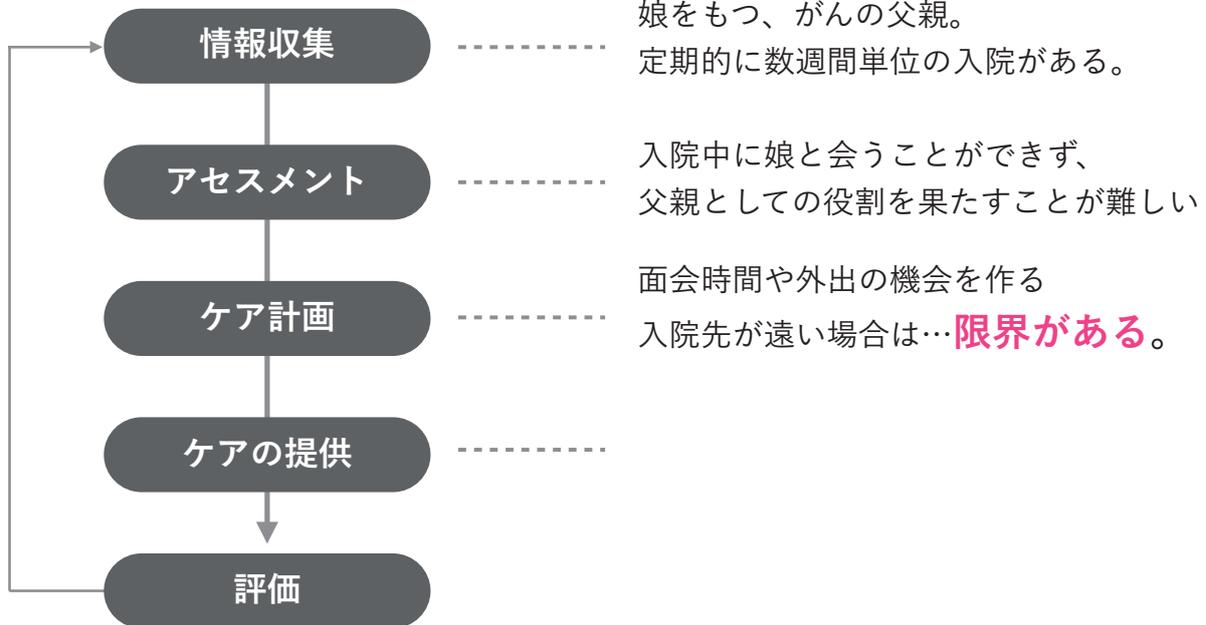
看護ケアの提供のプロセス



ケアとしてのデジタルアート

“デジタルアート”が“家族ケア”を担うことができる

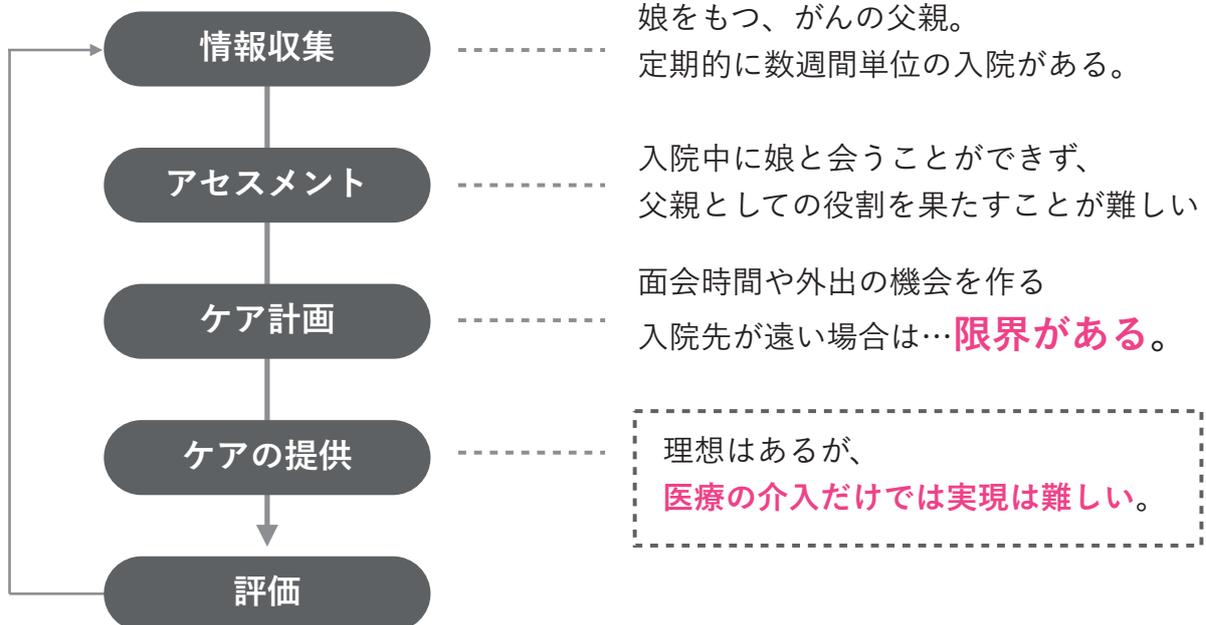
看護ケアの提供のプロセス



ケアとしてのデジタルアート

“デジタルアート”が“家族ケア”を担うことができる

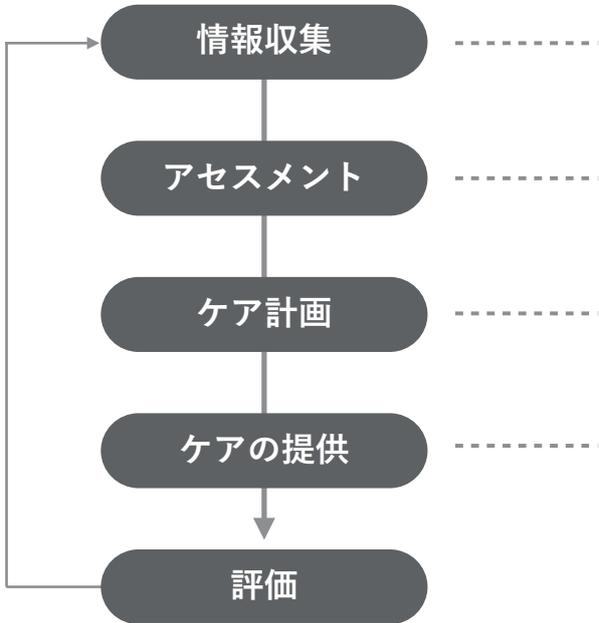
看護ケアの提供のプロセス



ケアとしてのデジタルアート

“デジタルアート”が“家族ケア”を担うことができる

看護ケアの提供のプロセス

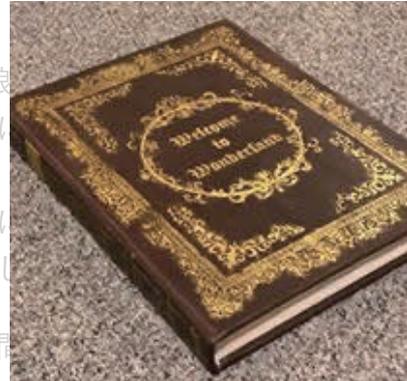


6才の娘
定期的い

入院中
父親とし

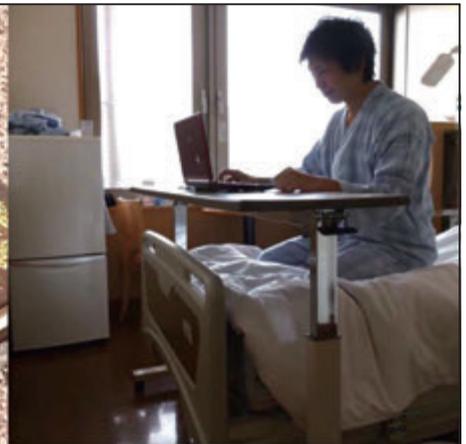
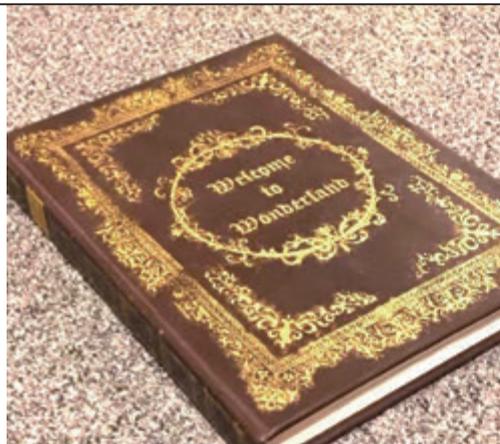
面会時間
入院先が

理想は
医療の



医療の現場と 家庭の日常をつなぐ

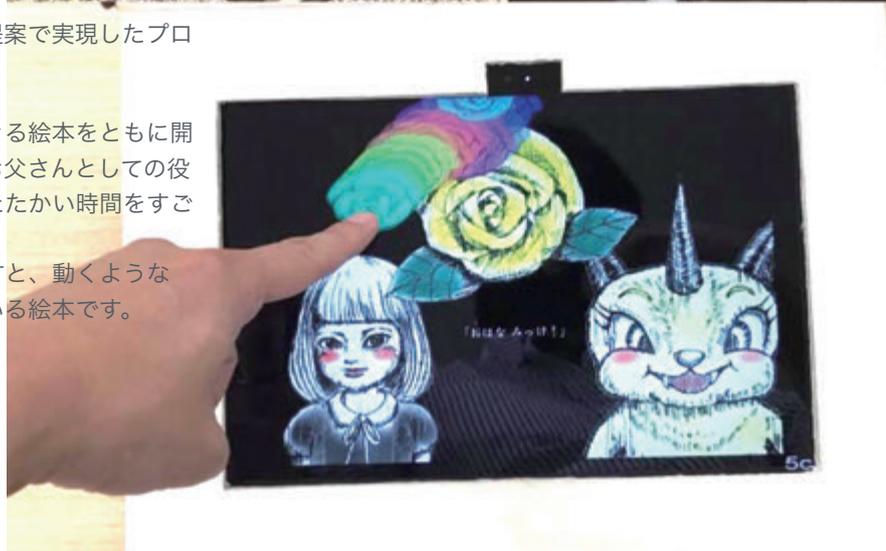
入院中のお父さんから
自宅の娘へ、
遠隔読み聞かせ絵本



がんで闘病中のお父さんからの提案で実現したプロジェクト。

離れている間でも読み聞かせできる絵本をともに開発し、入院中で離れていても、お父さんとしての役割を果たすことや、家族とのあたたかい時間を過ごすことを実現しました。

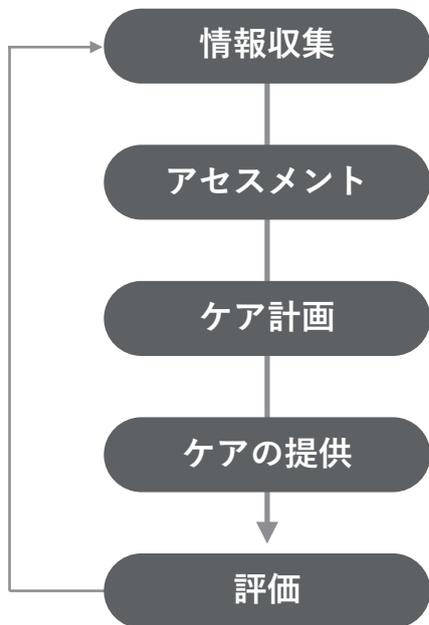
「パパ、これなに？」と指をさすと、動くようなちょっとした仕掛けが含まれている絵本です。



ケアとしてのデジタルアート

“デザイン”が“ケア”を担うことができる

看護ケアの提供のプロセス



ケアとしてのデジタルアート

“デザイン”が“ケア”を担うことができる

看護ケアの提供のプロセス



解決策を

「選ぶ」から

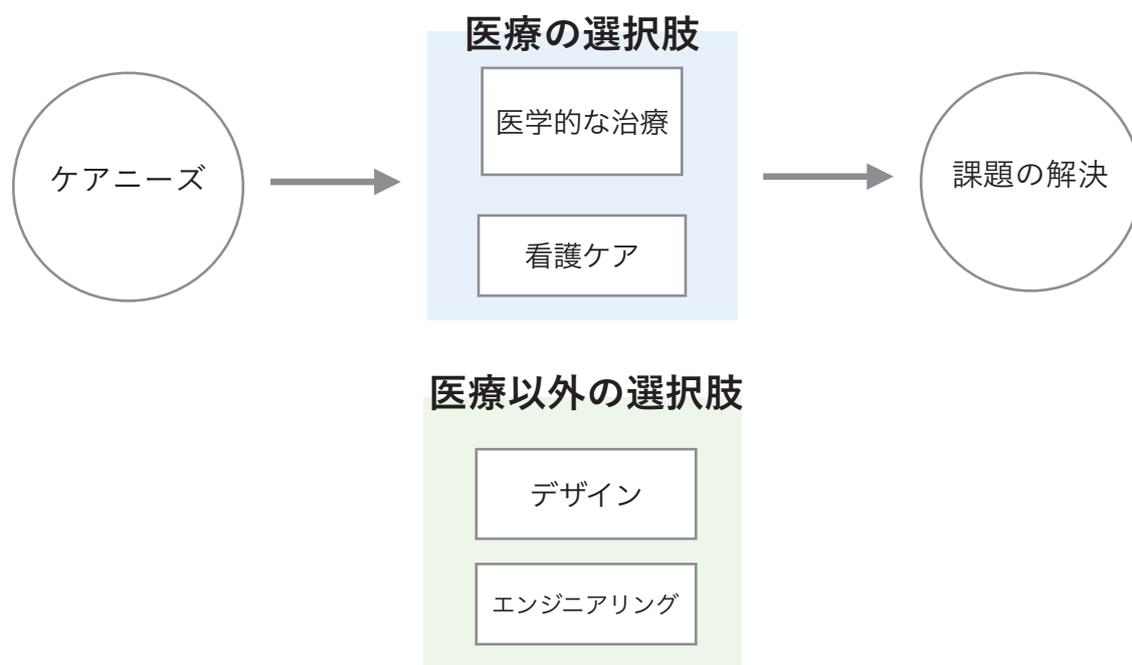
「生み出す」発想へ

デザインエンジニアリングのケアへの応用

- 1 自己紹介
- 2 医療とデザインの相性の良さ
- 3 そもそもデザインって？
- 4 実践例の紹介
- 5 看護過程とデザイン
- 6 展望**

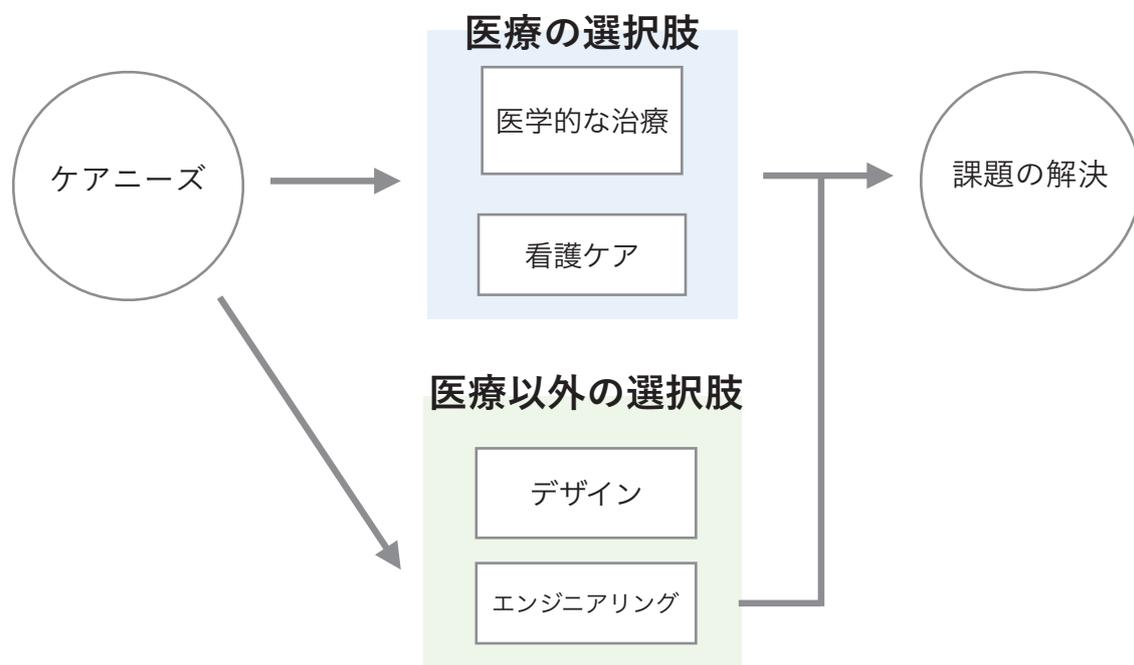
医療とデザインに関わる人材

臨床の課題解決に**医療以外の選択肢**もある



医療とデザインに関わる人材

臨床の課題解決に**医療以外の選択肢**もある



終末期ケアとしてのデジタルアート

病気により食事や喉を通らなくなり、身体を起こしているのもとても大変になる。最期の時間を少しでもあたたかく過ごせるよう実施。テクノロジーを医療の現場に調和させ、医療の現場をあたたかく支える。



デザインエンジニアリングのケアへの応用

吉岡 純希

Mail: yoshioka@nodemedical.co.jp

Twitter: [junky_inc](https://twitter.com/junky_inc)

ポートフォリオ: <https://technurse.jp>

NODE MEDICAL,Inc: <https://nodemedical.co.jp>

多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考
ー社会や人々の変化への視野を広げる
ーあらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える

<グループワーク>

看護学教育研究共同利用拠点
令和3年度看護学教育ワークショップ

9. 全プログラム参加者グループ別名簿

グループ名 担当教員	国公 私別	地域	開設 年度	大学名	所属	職名	氏名
Aグループ 錢 齊藤	私	岩手	2017	岩手保健医療大学	看護学部看護学科	教授	木内 千晶
	国	岐阜	2001	岐阜大学	医学部看護学科	准教授	魚住 郁子
	私	青森	2009	弘前医療福祉大学	保健学部看護学科	准教授	工藤 うみ
Bグループ 和住 飯野	国	香川	1996	香川大学	医学部看護学科	教授	山本 美輪
	私	福岡	2021	福岡国際医療福祉大学	看護学部看護学科	教授	川口 賀津子
	公	埼玉	1999	埼玉県立大学	保健医療福祉学部看護学科	教授	鈴木 幸子
Cグループ 池崎	国	山口	2000	山口大学	医学系研究科保健学専攻	教授	牛尾 裕子
	私	福岡	1994	久留米大学	医学部看護学科	教授	益守 かつき
	私	東京	2005	東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	准教授	西村 礼子
Dグループ 黒田 高木	私	茨城	2004	茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	教授	松永 恵
	私	鳥取	2015	鳥取看護大学	看護学部看護学科	准教授	佐々木 晶子
	公	岐阜	2000	岐阜県立看護大学	看護学部看護学科	准教授	名和 文香

10. グループワーク

グループA

木内千晶（岩手保健医療大学）、魚住郁子（岐阜大学）、工藤うみ（弘前医療福祉大学）
ファシリテータ：斉藤しのぶ、錢淑君（千葉大学）

午前の部の討議内容

・第一希望で入学してくる学生は少なく、附属病院は無く、知名度も無く実習施設の確保に苦慮した。実施病院は慢性期の小～中規模の民間病院が多く、卒業生の実習病院への就職が少ない。どのような大学を目指しているのか方針が示されない。

・学生には自ら探求してみようとする主体的に学習意欲がなく、基礎学力の低さが課題。専門学校での教育を経ている教員と、始めから大学で教育している教員、臨床経験が長い・短い等の教員が混在しており、教育観の差が大きい。教育に時間を多くかけて教育エフォートが高いが、研究志向が低い人が多い印象である。しかし、教員はここ数年定着している。

・若手の助教の退職の理由の大半は育児、出産である。また、教員は介護で職場に迷惑をかけていると思うことが多々ある。そのため、「人手不足」とのアンコンシャスバイアスがあると思われる。

午後の部の討議内容

午前中のピアコンサルティングにより、以下のように考えの変化があった。

・実習先は民間の小規模の病院なので、学生のこと、実習の環境のことを過小評価する傾向があることに気づかされた。また、学生の実習先の老人病棟の師長に看護大学の学生は専門学校の学生と違い、老人の看護計画にはどう自立できるようになるかを考えたりすることができているが、それに対して、専門学校の学生は転倒防止しか看護計画に出していないと評価されたことがある。今後偏差値が高い大学と同様に求める目標に着眼するのではなく、大学の特徴を大事にして、皆で将来を作っていくように考えが変わった。

・学生の到達目標は、4年間の学習を通して、自分の適性をはっきりできれば良い。学生がこの大学にて勉強して良かったと思うようになってほしい。大学の教育は高い基準を設けて、学生に求めるのではなく、学生が前向きになるように学生のレベルにあわせ、学習目標を設定することが大切である。教育エフォートが高いことは強みであり、様々な学生のために、カリキュラムを作っていく。

・若手の教員が退職を防ぐために次のような戦略を考えた。お産・育児はライフサイクルの当たり前の一環である。大学の沢山空いている部屋を活用し、教職員の病気の子どもを預ける場所にする。同僚はアンコンシャスバイアスを気づいていないことに関して、アンコンシャスバイアスの自己評価表を作成し、それを使うことによって、皆が意識するようになる。

グループB

山内美輪(香川大学)、川口賀津子(福岡国際医療福祉大学)、鈴木幸子(埼玉県立大学)、
ファシリテーター：和住淑子、飯野理恵(千葉大学)

グループワークでは、自大学の課題や気になっている点を紹介し合った後、「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考」を意識しながら、メンバー同士で相互に質問し、関連する自大学の状況を伝え合うことで、無自覚にある自身の世界観に気づくことができました。そして、社会や人々の変化に視野を広げながら、柔軟な発想から実現可能な第一歩を考えた。その主な内容は以下の通りである。

まず、メンバーから、「全学のダイバーシティ推進委員会の委員長として、学生の状況や社会の変化に即して、育児中や介護中の教職員の支援が中心の現在の活動の在り方を見直し工夫したい」「大学院博士後期課程の開設にむけて他大学から異動してきたばかりの教員の立場から、新たな組織で新たな体制をつくりながら、大学院教育の充実に向けて個々の教員の能力開発をしたい」、「系列大学へ看護学部が移管となったことに伴い、看護学部がこれまでに培ってきたノウハウを大学運営に活かして、大学管理や運営について教職員間の協働意識や連携体制をつくり、教員各々がリーダーシップを発揮できるようにしたい」といった課題が紹介された。

これらの課題に対し、メンバーから、「COVID-19の影響により実習や演習・講義の在り方を見直すきっかけになった。学生が自立して臨地実習に出向けるように支援することで、学生の地域貢献につながるのではないか。」「これまで、他学部の教員に、看護学部教員の特殊な働き方(臨地実習指導でとても忙しく、研究より教育のウエイトが大きいなど)を理解してもらおうとしてきたが、伝統的な看護系大学教員の働き方の限界もある。自分たちの働き方を転換する時期に来ているのかも知れない。」等の意見が出され、変革期に新しいことに取り組みつつも、これまでの形式や経験に基づいて考えてしまう自分たちの傾向を自覚することができた。また、オンデマンドで視聴した「デザインエンジニアリングのケアへの応用」の講演内容から、製品化されたら便利で役立つと思っても、それは看護の範疇ではないと思い込んでいた自分自身に気づいたとの意見が出た。また、学生の方が教員よりもデジタルの活用を詳しく知っていることや、学生だからこそ気づく発想の豊かさに対して、学生は「こうあるべき」と最初から決めつけてしまうことで、貴重な教育・研究のチャンスを逃しているかもしれないとの意見もあった。

以上のような話し合いの中で、「COVID-19の影響により社会が大きく変化し様々な格差が顕在化・潜在化している状況において、看護のニーズは高まり、看護師には正解のない課題に向かって考え抜く力も求められる。SDGsの社会実現にむけて、覚悟を決めて看護学教育を考え実施することが期待されている。そのような期待に応えるためには、看護系大学教員として、これまでの伝統的な教育方法や価値観にとらわれず、柔軟な発想をもって、自組織や地域社会に貢献する力が求められている。」という自分たちの立ち位置を改めて確認することができた。

未知の状況で新たなことに取り組む時には、誰もが怖れや不安を抱き、無自覚のまま過去の経験や価値観を参照してしまいがちになる。変化をチャンスとしてとらえ、実現可能な一歩を踏み出すためには、自分ではない他人、自大学組織や自大学を取り巻く地域社会と仲良くなることが大切であり、そのためには、互いの共通点を見いだすことで喜び、お互いの違いを面白がることで、仕事を楽しめるのではないかと話し合った。

グループC

益守かづき（久留米大学）、牛尾裕子（山口大学）、西村礼子（東京医療保健大学）

ファシリテータ：池崎澄江（千葉大学）

事前のシートには多軸的に情報が網羅され、他大学の教員が見てもわかりやすく、それらを比較・検討してディスカッションを行うことで、互いの大学の強みや特性に気づき、相互支援が行えた。グループ討議にあった内容は以下の通りである。

<学生の多様性とそれに対する方略>

- ・ 入試経路の多様性や学生数確保の方針もあり、入学時点で既に学習力に差が生じている。早期のサポートを検討し、大学入学にスムーズにつなげていきたい
- ・ 学生が内向きな傾向に思える。入学時点で〇〇病院へ就職できればいいという思考で、そのまま止まってしまう。学生の関心を引き出し、外に関心をむけられるようにしていきたい
- ・ 大学の4年間では、学生にとっては学ぶ場でもあり、生活をする場でもある。大学生活という広い視野で考え、教員や組織が支えていくような姿勢が重要ではないだろうか
- ・ 配慮を要する学生やその保護者へのサポートまで、看護学部教員だけでなく他学部の教員とも協力して学生個々をサポートする体制をとれている。学生を多様な関係者で支えるという文化は強みである

<教員・組織の多様性とそれに対する方略>

- ・ 教員キャリアにおいて職場を移動することは当然に起こるものである。その地域における大学の歴史や文化、学生の特性、実習や就職先となる医療機関との関係について注意深く観察しながら、それらを組織の持つカラー（強み）として理解する姿勢が大切ではないか
- ・ 自組織で感じる違和感は、その後の自分のキャリアや仕事の方略を変えていくうえで、重要なヒントとなる。無理に押し込んでしまわずに、それらを安全な環境で話すことができる外部の組織人（メンタ的な存在）がいることは、自身の助けになると実感する
- ・ 時代が急速に変化する中で、焦って独りよがりになったり落ち込み過ぎたりしないよう、心の持ち方が必要だ。オンライン化が加速し、教員間の雑談の機会が少なくなった。「考える心の余裕」を持つべく、まずは小人数で雑談をする時間を作る重要性に気づけた
- ・ 教員も生活者としての主体でもあり、ライフステージや価値観は多様である。一方で、組織人としての職務への責任はある。上司として仕事を割り振る際には、割り振られた側が自己管理をして計画的に仕事を遂行できるよう工夫をして、ワークライフバランスを尊重したい
- ・ 生活者としての教員の姿を学生に隠さずに見せていくことで、学生のキャリア形成や自律的な学びにもつながるのではないか
- ・ 組織全体でスピード感を新たな事業に取り組むには、人材の適材適所の活用が求められる。教員個々が持っているスキルや資源を提案し組織で迅速に共有することが求められる。自らがそのスキルを持つ際には率先して発信する人材でありたい

グループD

松永恵（茨木キリスト教大学）、佐々木晶子（鳥取看護大学）、
名和文香（岐阜県立看護大学）
ファシリテータ名：黒田久美子、高木夏恵（千葉大学）

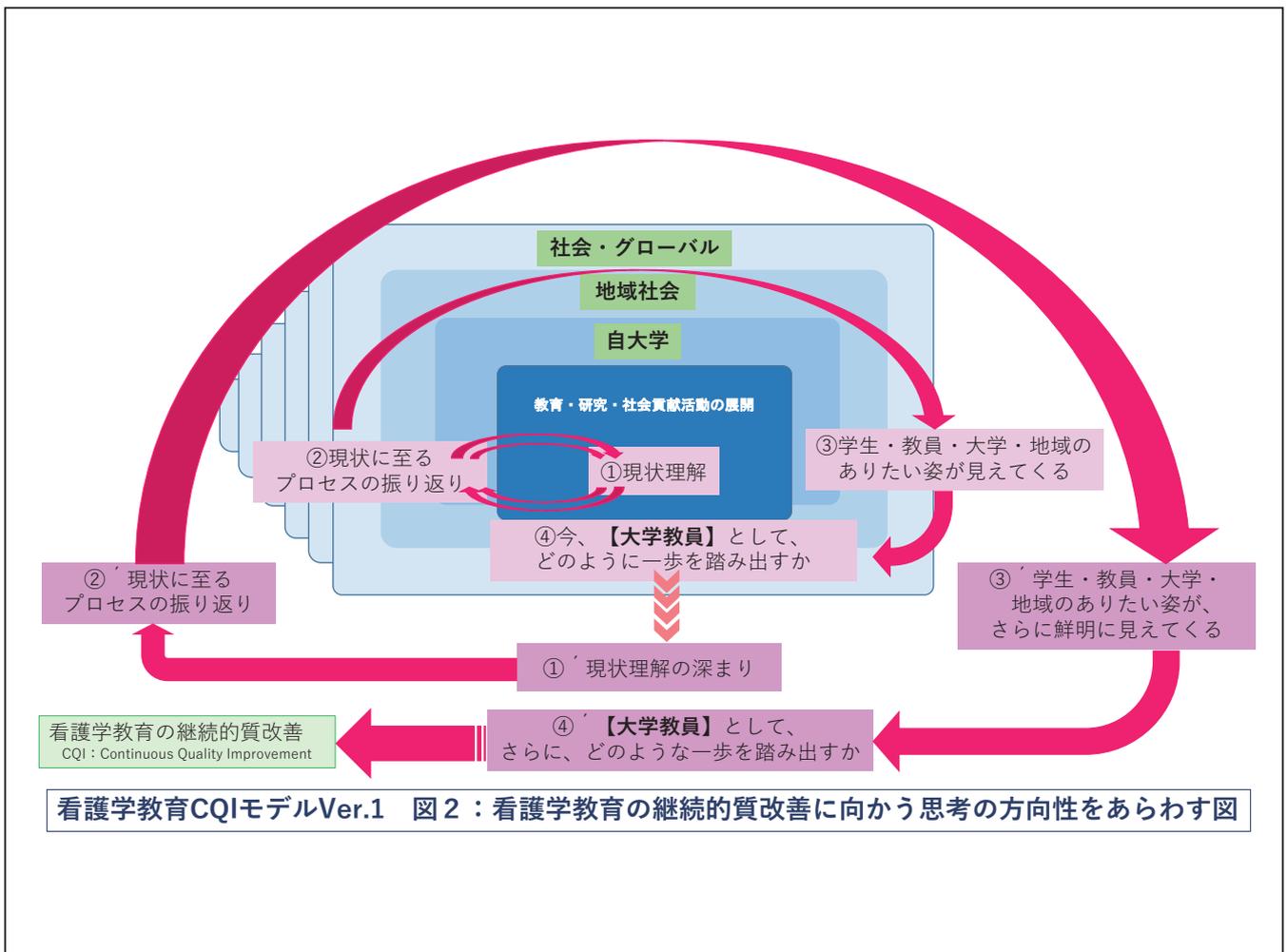
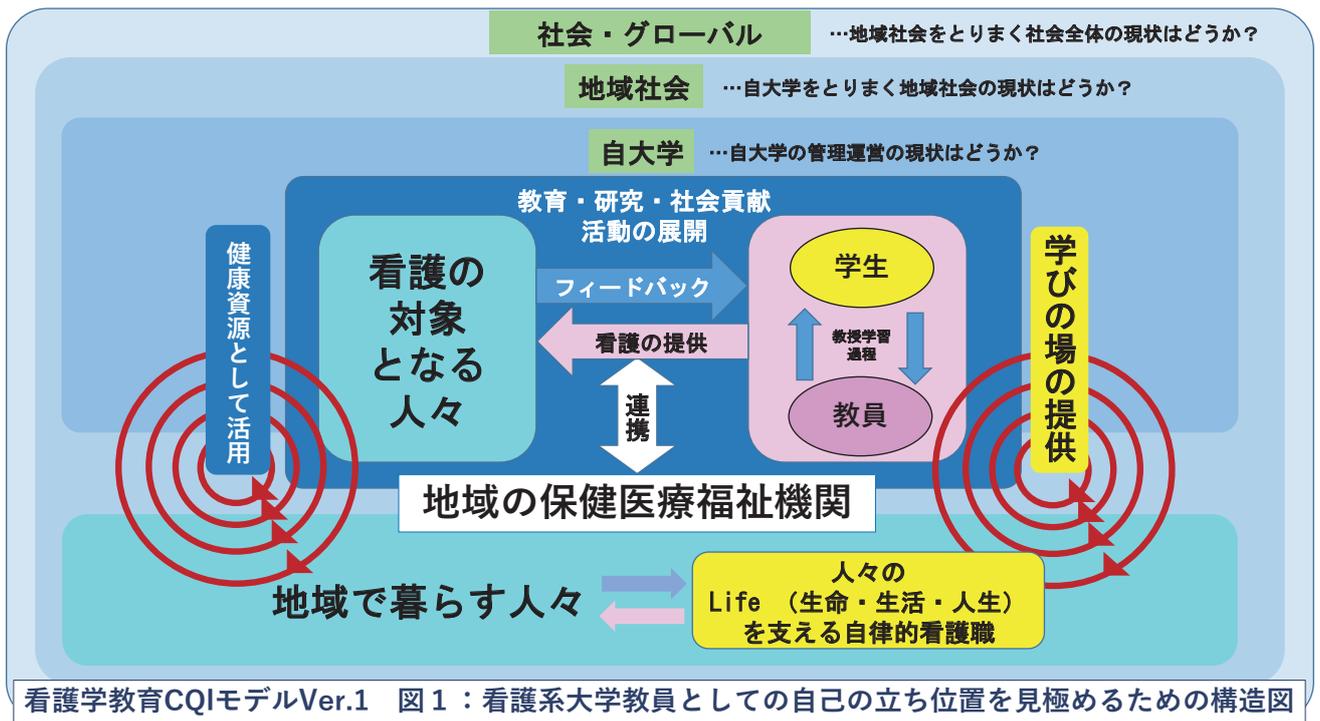
Dグループは、教員経験、大学の設立年も多様で、課題の内容も多様であったが、各大学が地域の看護職育成と地域貢献を使命にしている点が共通していた。各自が、多角的な現状分析を共有し、グループメンバーからの質疑とフィードバックを受けることを通して、また他大学との比較を通して、以下のような気づきを得ていた。

- ・自大学の強み
- ・あまり意味があると思えていなかった仕事から、多くの情報を得ていたこと、そこでの人脈が今後活かせること
- ・まだ各種のシステム整備を進めている段階にあり、いろいろ同時にやっているからの負担感で、現在進行形で、今は必要な忙しさだと客観視できた
- ・実習病院が多くて大変だと思っていたけれど、ICTの活用等、まだできる工夫はある
- ・学生の学力差による個別支援が必要と思っていたけれど、実際の学生の状況を問われ、年次を経て学習の経験や習慣ができれば主体的に学習できていることに気づいた
- ・統合科目時の学生の自己洞察を促す教育が十分でないことを問題と考えていたが、卒業時にのみにスポットライトをあてていたことに気づき、1年次、卒業後のことも視野に入れて考えたい

また、グループメンバーの描いた「ありたい姿」の一部を紹介する。

- ・地域の看護職不足は継続しており、18歳人口が低下する将来に備えて、一定数のニーズがある社会人や外国人の看護学教育への学びが可能なシステムを構築し、他の教員を巻き込む。
- ・現在、実施していることをもう少し整理したい。そのためにも卒業生の評価、責任科目で強化したい点の実施に向けて、他の領域の先生方とコミュニケーションを取りたい。
- ・「一生学び続けられる人を育てる」、それに向けた教員のFD等を考えて行きたい。

今回のワークショップのサブテーマは、－社会や人々の変化への視野を広げる、－あらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える、だった。全体を通して、社会や人々の変化、大学の変化を客観視し、自分が無意識に思い込んでいたことから解放され、大学教員として一歩すすもうと思える有意義なワークとなった。



看護学教育の継続的質改善（Continuous Quality Improvement :CQI）のためのワークシート



所属大学名 _____ 職位 _____ 氏名 _____

ワークシート A：自大学・地域・社会全体の現状を俯瞰する

1) 自大学の現状について、現在気になっていることを以下の視点から振り返り、自由にメモしてみましょう。

視点1：学生の現状はどうか？
 視点2：教員の現状はどうか？
 視点3：教育・研究・社会貢献活動の現状はどうか？
 視点4：自大学の管理・運営の現状はどうか？
 視点5：自大学をとりまく地域社会の現状はどうか？
 視点6：地域社会をとりまく社会全体（含グローバル）の現状はどうか？

2) 図1を見ながら、1) でメモした気になっていることは、図1のどこに位置するのかを考え、図中に○印をつけてみましょう。

3) ご自身が気になっていることに関連のありそうな事実を、できるだけ多面的に集めてみましょう。

関連のありそうな事実（メモ）	記入例
【自大学の沿革、設立の理念】	<ul style="list-style-type: none"> ・設置主体は学校法人（私立大学） ・地元代々の医師一族が、地域の人々の医療を支える人材を輩出することを理念とし、地域の期待もあり開学した
【学生の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとか定員充足しているが、合格者の学力格差が大きい ・授業についていけない学生がおり、個別学修支援ニーズが多い ・全員を国家試験に合格させるのが大変な状況
【教員の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の新設看護大学なので教員がなかなか集まらず、教員確保に難渋している ・年齢も経験もさまざま
【教育・研究・社会貢献活動の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・学部教育だけで手いっぱいであり、研究・社会貢献活動まで手がまわらない ・大学院開設は開学時には想定していたが、懸案のまま保留となっている
【自大学の管理・運営の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・医師である理事長のトップダウンで物事が決まる
【自大学をとりまく地域社会の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業は農業で、人口流出が激しい ・大学には地域創生を期待されている ・附属病院はないが、地域の医療施設とは良好な関係にある
【地域社会をとりまく社会全体（含グローバル）の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費の増大が国家予算を圧迫 ・地域包括ケアシステムの構築が進んでいる ・病床機能分化が進んでいる ・大学進学率の上昇

4) ご自身が気になっていることと、それをとりまく自大学・地域・社会全体は、どのようにつながりあっているのでしょうか？ その関連性を記述してみてください。（メモや箇条書きでよいです）

看護学教育の継続的質改善（Continuous Quality Improvement :CQI）のためのワークシート

B

所属大学名 _____ 職位 _____ 氏名 _____

ワークシートB：自身の気になっていることとそれをとりまく自大学・地域・社会全体の関係性をストーリーとして語る

1) 図2の①、②のように、現状とその現状に至るプロセスを振り返りながら、自身の気になっていることとそれをとりまく自大学・地域・社会全体の関係性をストーリーとしてグループメンバーに説明してみてください。必要なら、以下に、説明用のメモを作りましょう。

2) グループメンバーから受けたフィードバックの内容を以下に記述してみましょう。

3) 新たに気づいたことがあれば、以下にメモをしてください。

看護学教育の継続的質改善（Continuous Quality Improvement :CQI）のためのワークシート
所属大学名 _____ 職位 _____ 氏名 _____

C

ワークシートC：学生・教員・自大学・地域のありたい姿の実現に向け、第一歩を踏み出す

1) これまでのプロセスを経て見えてきた③学生・教員・自大学・地域のありたい姿を、ご自身の言葉で記述してみてください。

☆思考のヒント☆ 個人レベル、専門領域レベル、学部・学科レベル、大学レベルなど、どのレベルで考え始めてもよい

☆思考のヒント☆

・図1の登場人物の各々について、ありたい姿を考えてみる（ありたい姿は、自分本位や、机上の理想論ではなく、現実に即し未来に向かう姿として考えてみる）

・以下のような問いかけて、図1の登場人物の各々についてありたい姿を考え、短いフレーズや単語で表現してみる

例) 「人々のLifeを支える自律的看護職」、「地域で暮らす人々」とはどのような人か

例) そのためにはどのような「学びの場」があったらよいか、どのような「学生」であつたらよいか、どのような「教員」であつたらよいか

例) 「地域の保健医療福祉機関」のありたい姿とは

例) 学生が実習で看護を提供する「看護の対象となる人々」とはどのような人であつたらよいか

2) 見えてきたありたい姿に向かって、今、何ができそうか、何をしてみたいか、なるべく具体的にアイデアを出してしてみましょう。

☆思考のヒント☆ 協力を具体的にイメージしてみる 脅威はチャンスにならないか？ 弱みは強みにならないか？

看護学教育の継続的質改善（Continuous Quality Improvement :CQI）のためのワークシート

D

所属大学名 _____ 職位 _____ 氏名 _____

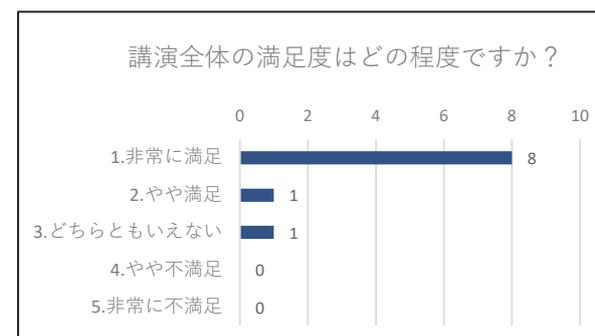
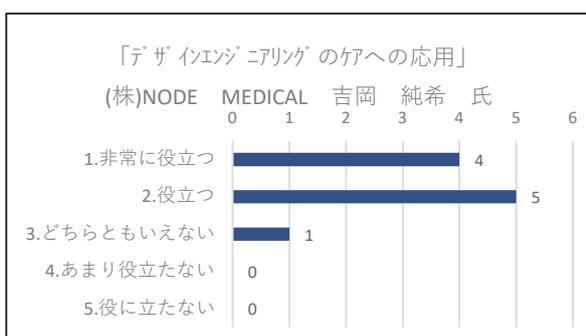
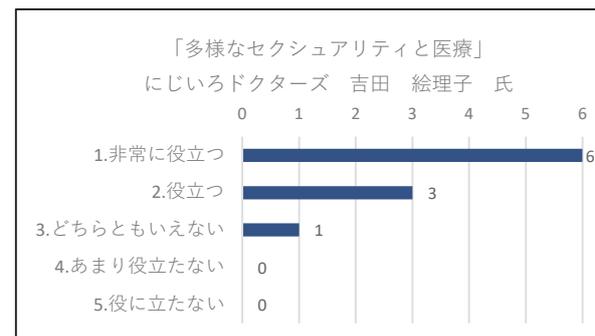
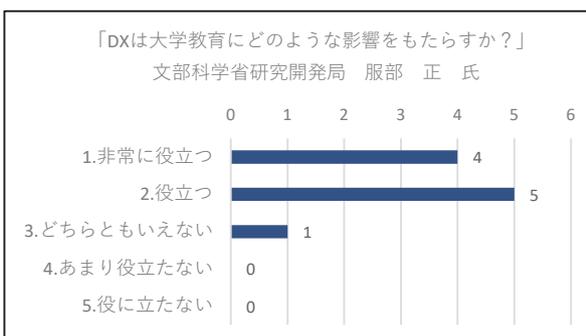
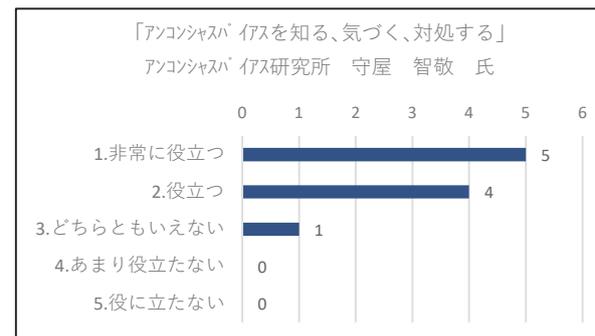
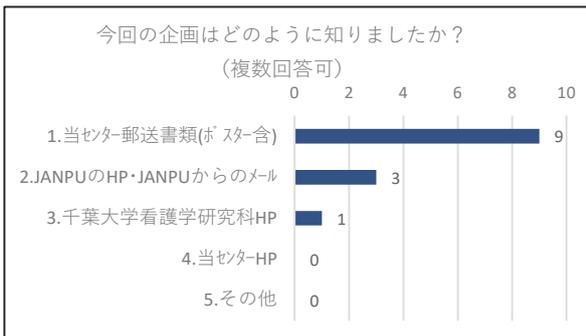
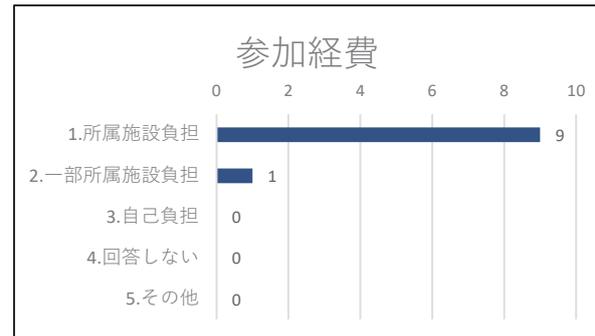
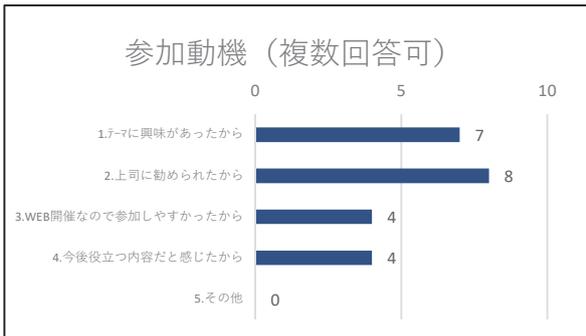
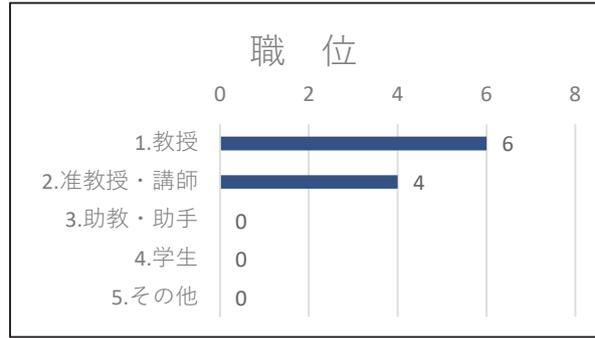
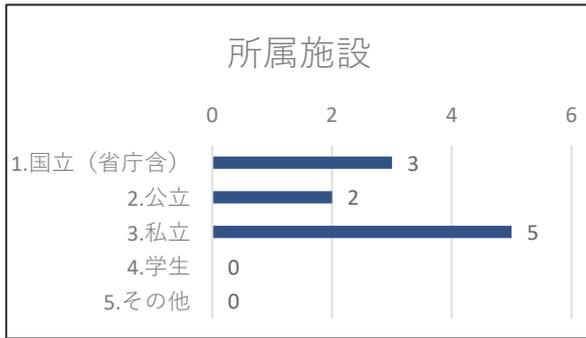
ワークシートD：自大学でCQIを推進する上で必要なこと・課題

1) 見えてきたありがたい姿に向かい、CQIをすすめる上で、自大学で必要になること・課題はありますか？

2) その解決に向けて、どのような戦略をとったらよいでしょうか。グループでディスカッションをしてみましょう。

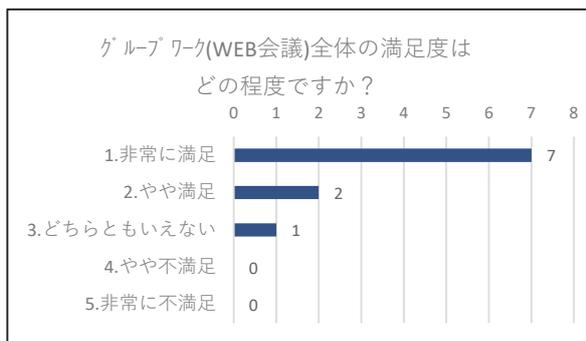
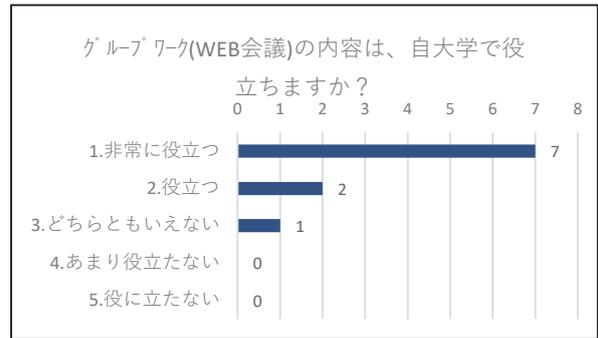
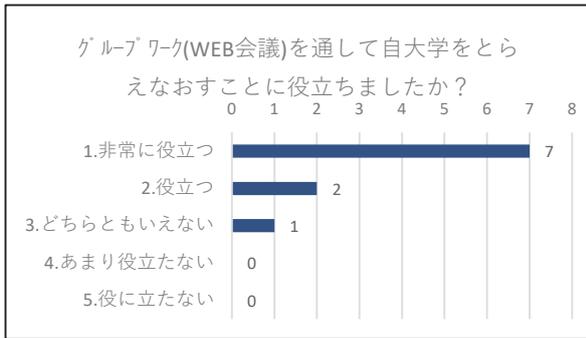
11. 令和3年度 看護学教育ワークショップ評価

【全プログラム】 回答者：10名



【講演】のWEB開催に関し、お気づきの点がありましたら、ご記入ください。

- ・オンデマンドだったので、自分の時間で聴講できてよかった。
- ・アンコンシャスバイアスに関する講義を始めて聴きました。大変興味深い内容でした。同時に考えさせられました。
- ・知りたい内容ばかりの講演でとても勉強になりました。
- ・WEB開催で、自分の都合の良い時間に合わせて講演を聞くことができ助かりました。4つの講演はそれぞれに新たな気づきとなる内容が多く含まれており勉強になりました。
- ・講演は受講者の知見を拓げるために、開催されたと思うのだが、選択するにあたりどのような意図で、このような内容をセレクトしたのかという、本オンデマンドでの到達や意図・関連性を示していただいた方が、ディスカッションでの活用につながったと思う。
- ・自己の課題の解決に繋がりました。とくにグループワークが良かったです。



【グループワーク】のWEB開催に関し、お気づきの点がありましたら、ご記入ください。

- ・他大学の先生の課題をお聞きして、自分の大学の課題も見つめることができた。
- ・ファシリテーターの先生も含めて4名という人数は大変ディスカッションしやすかったです。時間的にもちょうどよかったと思います。
- ・本日のグループワークはファシリテーターの先生のおかげで、大変和やかに楽しい時間となりました。ありがとうございます。(1)国立・公立・私立の組み合わせがよかったと思います。私は私立大学に勤務しておりますが、国公立大学の状況や学生の状況等、異なることを多く知ることができました。(2)教員としてのキャリアが異なっていたことが良かったです。私は教授1年目で大変未熟ですが、長く教授職をされている方々が経験からお話しくださることは参考になりました。
- ・Webで十分話し合いができたが、「ダイバーシティ」に特化した意図での分析が不十分だった。しかしファシリテーターがかなり補ってその方向の議論になってきたと思う。
- ・少人数制のグループワークであったため、それぞれの大学についてじっくりと考えることができました。ファシリテーターの先生がリードしてくださり、とてもアットホームな雰囲気だったため、考えを素直に発言することができました。先生方には自身の体験なども含めて具体的な事例等をご説明いただき、とても参考になりました。これまでに、他大学の先生方と、自大学の問題等を話す機会があまりなかったので、今回グループワークに参加したことで、どの大学もそれぞれに課題があり、共通する部分もあれば、真逆でもそれはそれで悩まれていることが分かり、救われた気持ちになりました。最終的には具体的な解決策を見出すことも出来たので、大変有意義なグループワークでした。ありがとうございます。
- ・グループワークは自大学・自分の取り組みを整理し、現状と課題を認識するのに有用だったと思う。しかし、あくまでも参加者自身のレディネスに影響するところが大きかったので、もう少し「参加者への期待する到達」を明確にファシリしてもよいかと思った。
- ・課題が明確になった。

WEB開催全体について、感想やご意見をお書きください

- ・千葉大学の先生が、ファシリテーターで入ってくださったのでとても分かりやすく安心して参加できた。
- ・領域も地域も設置者も違う組織における看護教育の現状や課題、日頃気になっている学生の動向など時間を忘れて集中してディスカッションすることができました。コロナ禍においては、学内においても会議が制限されたりしていたので、貴重な時間でもありました。
- ・時間配分として午前中は少し押したが、この段階（現状と課題の把握と共有）がとても大切と思いました。
- ・WEB開催にも慣れてきたため準備などスムーズでした。県外移動が難しい状況だが、充実した内容の研修を受講できました。
- ・本日のグループワークまで、段階的にメールでのお知らせや資料提供があり、また資料を見ておく期間も十分頂けたので助かりました。
- ・参加しやすかった。半面、余裕があればやはり対面方式の方が、よりネットワークづくりにつながるように思いました。
- ・交通費がかからず便利。
- ・WEB開催に関する説明等も資料で分かりやすく示されており問題なく参加出来ました。画像や音声等にも問題はありませんでした。
- ・3名のグループワークでは、午前・午後ともかなり偏った視点でしかコメントが難しいと思った。3名であれば午前・午後入れ替えてもよいのではと考えた。
- ・全体として興味深かった。

ワークショップ全体を通して、学んだこと、考えたこと、感じたことを自由にご記入ください

- ・日々は、日々の業務ばかり考えているが、改めて大学全体、その中の自分たちの看護学科の立場、またこれからどうしたいか？を考えることができたいい機会となった。
- ・対面式のワークショップではなかったですが、十分に先生方の熱量を感じながら参加することができました。実習期間中でもありますので、移動のことを考えると、WEB開催のほうが参加しやすいと思われる方もいるのではないかと考えます。
- ・違う大学の先生方と話すことで、改めて自大学はどうかを問いただすことにつながった。また、勇気づけられました。違う視点から意見をもらうことは、アンコンシャスバイアスに気づけると思いました。
- ・日頃、不満のように感じている問題点でしたが、ワークシートを作成したり言葉にすることで整理ができました。マイナス面ばかりでなく、強みをみつけることができたことはよかったです。
- ・固定観念にとらわれず、新しいことを言葉に出す雰囲気を作っていこうと思います。看護の本質は失わず、現代のテクノロジーを活用し、自分も同僚も楽しく仕事を続けられるような環境を目指していければと思います。
- ・国公立であれ、私立であれ、歴史の古い大学であれ、新設大学であれ、各大学の独自性は必ずあり、やはりそれぞれの大学の独自性、強みを活かすことで大学での看護学教育が豊かなものになると考えました。他の大学の特徴や課題を聞き、対比することで、自大学の特性を客観的に捉えることができること、このような経験も自分のアンコンシャスバイアスに気づくきっかけになると思いました。
- ・なかなか自分の大学の強みを実感することは少なかったので、良い機会になった。大学の新陳代謝というか？周期的変化（創設時のメンバーが一斉に退職、刷新される）は変わるチャンスなので、いつまでも古い価値観を続けなくても変わる機会はあるものだと感じた。
- ・ここ最近、新型コロナウイルス感染症拡大により、学会等もオンライン開催となっていることから、他大学の先生方と直接交流する機会が減っておりまして。大学内で日々の業務に追われていると、目の前のことばかりに気を取られがちですが、講演会では最新の知見を得ることができましたし、グループワークでは他大学の実情も知ることができました。このようなワークショップは非常に重要であると感じましたので、多くの教員に参加の機会があると良いと思います。
- ・交流を通して自施設の現状と課題を振り返ることができた。
- ・ちいさな気づきを抽出できた。そして、小さな解決方法を見出すことができた。

ワークショップ全体を通して、他の看護系大学との協働の機会がさらに欲しいと思ったこと、他の看護系大学と協働してさらにやってみたいと思ったことがあれば、ご記入ください

- ・本日ICTのことを少し教えていただき、昨年のワークショップがICTだったということも伺いました。コロナ禍において、大変困惑したところでもありましたので、先駆的に取り組んでいるところや方法論などをご教授いただきたかったなと考えたりもしました。
- ・カリキュラムについてどういう意図でそのように組まれているか等、詳しく聴いてみたい。
- ・今回の講演テーマの一つがDXだったこともあり、各大学で具体的にどのように取り組んでいるのか知る機会があればと思いました。その前に、これからの学生がどのような新しい教育を受けることになるのか、まず教員自身がその教育を受ける機会が欲しいと思いました。協働してやってみたいことということであれば、新技術を使った教材や効果的教育法は共有できる仕組みがあるとよいと思います。
- ・近くの大学と実際に協働する事業の展開。
- ・授業デザインの工夫などをシェアし協働して取り組めると良いと思いました。

・昨今、オンラインでの研修やセミナーやワークショップが多くある中で、本研修の最大限の魅力は何であるかを明確にファシリテートしてほしかった。全プログラムは参加者メンバーによって大きく差が生じていると思うので、共有の機会やまとめの機会はなくてよい設計だったのだろうか？「各教員が自施設の現状と課題に気づける」ことがテーマなのならば、このような研修設計が妥当なのであるかを考えた。交流会に近い印象だった。

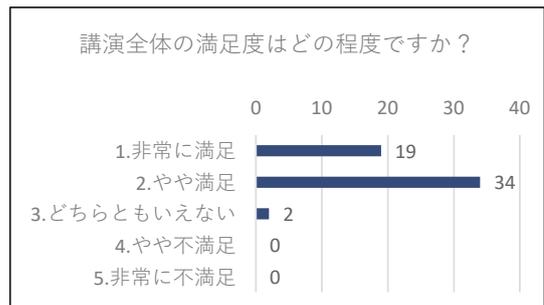
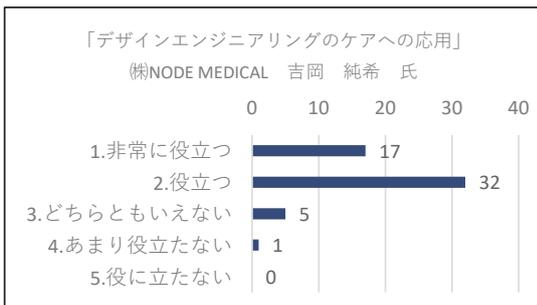
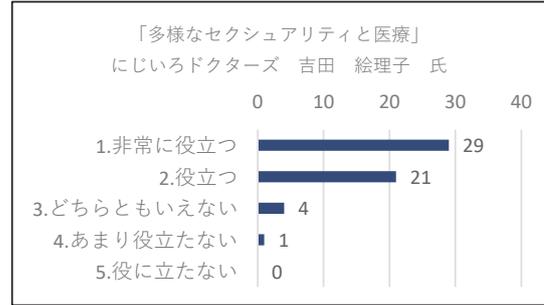
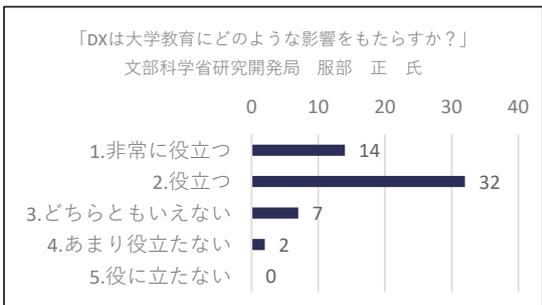
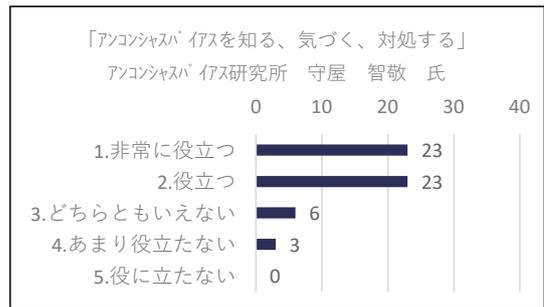
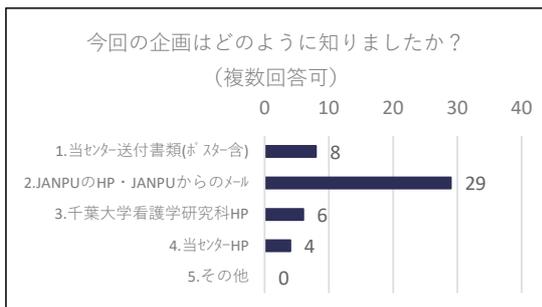
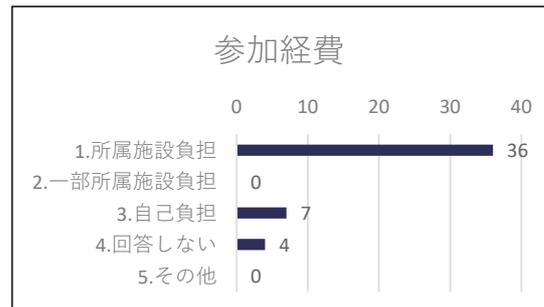
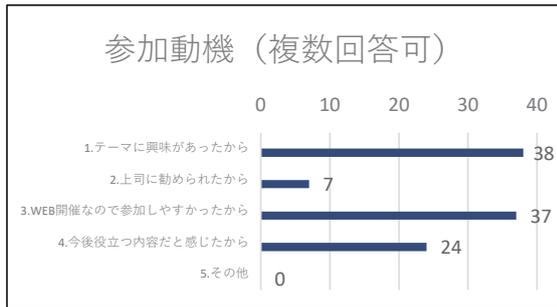
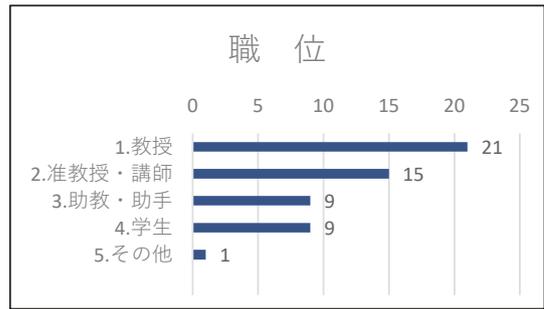
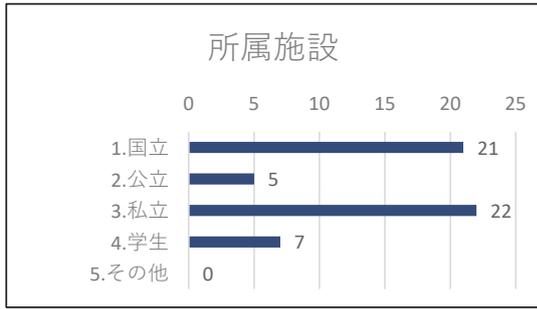
次年度看護学教育ワークショップ企画へのご要望やご意見をご記入ください

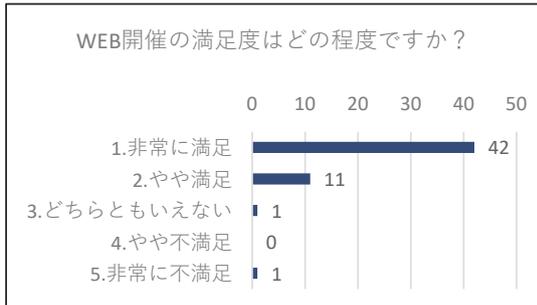
- ・地方在住なので、ZOOM開催が良かった。コロナの感染状況によると思うが、ZOOM開催を今後も継続してほしい。
- ・本日のディスカッション内でも、今後の教育の在り方として、対面のみという考え方ではなく、オンデマンドなども組み合わせての教授方法を教えていただきました。具体的なカリキュラムや教授方法例などについても情報提供いただきたいと考えます。
- ・GWの人数がちょうどよいと感じたので、この人数で行えると良いと思います。
- ・ICT活用による看護学教育の工夫 オンライン授業だけでなく、演習や実習での活用の可能性など。
- ・今回のようなワークショップ（自大学の課題を持ち寄る）は、今後も継続していただきたいです。
- ・これからの学生がどのようなDX教育を受けることになるのか、具体的な例などを知りたい。
- ・地域活動と教育の一体化。
- ・ぜひ継続しての開催をお願いいたします。今回どのくらいの大学から申し込みがあったのかは不明ですが、ファシリテーターの人数等もあり、ご負担は多かるうとは思いますが、可能な限り希望する大学の多くが参加できると良いと思います。
- ・全プログラムの最大限の魅力と、企画の意図、ファシリテーションを明確にしてほしい。
- ・身近なところへの焦点化がよい。

看護系大学相互の支援ネットワークづくりに関し、看護学教育研究共同利用拠点としての当センターに、今後、期待することをご記入ください

- ・今後もこのような看護系大学間を結ぶ、他大学の教員と話す機会ができるワークショップを継続してほしいです。
- ・日頃出会うことがない看護教員とマッチングをしていただいたようなグループワークでした。このような素敵な出会いの場を作ってください、大変感謝しております。
- ・また機会があったら参加してみたいと思います。また何年か後は、違うものの見方になっているかもしれませんので、継続してほしいです。
- ・利用者として受け身になりがちですが、最先端の情報や企画、看護系教員の情報共有は有意義でした。
- ・2022年度から新カリキュラムとなります。次年度ではなくとも、カリキュラムや教学マネジメントに関する内容で、何かしらの企画をお願いします。
- ・ワークショップをきっかけに形成できたネットワークが継続する取り組みなどがあればよい。
- ・若手教員のエンパワメント。
- ・看護学教育全体の質向上に向けて、看護系大学相互の支援は今後ますます重要になってくると思います。大学により教育の質は様々であると感じています。全国の看護系大学がもれなく成長していけるよう、底上げも含めて、その拠点として機能を発揮されることを期待しております。
- ・「看護系大学相互の支援ネットワークづくり」を目指すのであれば、今回の研修もこれまでの内容をオンライン化するのではなく、オンラインならではの魅力を最大限生かす研修設計を期待する。
- ・今回のように身近なことに焦点が絞られるとよい。

【講演のみ】回答者：55名





WEBでの開催について感想やご意見をお書きください。

- ・オンデマンド動画でしたので、自分のタイミングで見ることが出来て良かったです。ありがとうございます。
- ・アンコンシャスバイアスと、セクシュアリティの講義が良かった。とくにセクシュアリティは講師が、自身も困難を経験したであろうにもかかわらず、淡々と課題と私たちができる支援を示したことに敬意を表したい。講師の看護者としての視点もよかった。患者さん・ご家族のみならず、学生や教員にも多様な性があるので、配慮できる教員になりたいと思った。
- ・web開催に参加しやすかったです。受講自体は問題なく受けることができました。内容は、いずれもとても重要なトピックスだと思いますし、講義内容は興味深くわかりやすかったです。ただ、はじめて聞く内容のものはなかったように感じます。看護学教育がテーマですが、看護との関わりについては参加者がそれぞれで考えればよいことだと思うので、最新の知見（まだ実用には至っていないものでも）や、社会の動き（特に日本国内でなく世界的な動き）に注目した内容があってもいいのではないかと思います。
- ・いつでも都合のいい時間に聞けるので、WEB開催はいいと思います。
- ・WEBでの開催は聴講する時間と場所の選択ができるので今後もこのような配信を期待します。
- ・勤務の合間などに視聴できるなど、有効に時間を使うことができるためとても助かります。
- ・オンデマンド配信ということで、参加日程をフレキシブルに調整できたことがとても有難かった。コロナが落ち着いても対面とオンデマンド併用など、参加へのハードルが下がる方法を継続して頂きたいです。
- ・とても興味深く拝聴致しました。特にアンコンシャスバイアスに関しては今後の看護教育に必要ですし、教員同士の関係の中でも大変重要な要素だと感じました。ありがとうございました。
- ・コロナ禍において感染拡大予防を気にしないで参加できたこと、現地出張であれば1名の参加であるが複数人が出席可能になるので研修内容を共有できること、専門用語が多いのでマイペースで確認しながら学修できたことなどメリットが大きかったです。
- ・好きな場所で自分の時間の都合で視聴できる、繰り返し視聴できるメリットを感じる。
- ・空き時間に視聴できるので、見逃しが少なくなる。
- ・自分の都合の良いときに受講できる点がよいです。
- ・遠方なので、WEBでなければ参加できなかったのが、有難かったです。
- ・業務の合間に視聴することができるので助かります。講義はとても丁寧でわかりやすかったです。
- ・今回は4種類あるので、分割して受講できました。自分の予定に合わせて受講できるのがよかったです。
- ・参加しやすいです。
- ・WEBでの開催は、時間や場所を問わず、自身の都合に応じて参加できるため非常に良いと感じた。
- ・参加しやすく大変ありがたいです。
- ・自由な時間帯に視聴できることに加え繰り返し視聴できるため学びやすかったです。
- ・初めに見た案内に、参加費のことが書かれていなかった（または認識していなかった）ため、少し驚きました。しかし吉岡さんのお話などは、日頃全く考えたことがなかったので、大変興味深く拝聴致しました。
- ・アンコンシャス・バイアスの話は、もう少しひねりや深みが欲しかったです。とても初歩的なことだけだったの、物足りませんでした。講演だけならば、もう少し安価である方がよいと思います。
- ・講演形式なので、オンデマンド配信により、都合の合うときに視聴でき、たいへんよい。また、何度も視聴できるので、この点もよい。ただし、もし、講師が参加者との双方向性のある内容を計画した場合、さらに工夫が必要と思う。
- ・WEBでの開催を継続してほしいです。
- ・時間や場所に拘束されず、効率よく受講することができました。視聴期間も長く助かりました。今後も継続してほしいです。
- ・都合の良いときに視聴できるので良い。
- ・自分の都合で視聴できるのでとても参加しやすい。資料もダウンロードできるようにしていただいていたので、プリントアウトした資料に書き込みながら視聴することができ、とてもよかった。
- ・公開期間の中で、自分のペースで学べることが良かった。
- ・資料を画面で大きく見ながら視聴できるのでよかった。自分時間で視聴できたのでよかった。
- ・コロナ禍においては有効だったと思いました。しかし、質問やもう少し詳しく聞きたい点に関して、直ちに解決できないことが残念でした。これは、われわれがWEBを用いた講義においても当てはまることだと痛感いたしました。いろいろ気づきがありました。ありがとうございました。
- ・自分の時間で視聴することができ、参加しやすいと思います。講義部分に関してはWebでの視聴で十分だと感じました。
- ・時間のあるときに、視聴することができ、多様な分野からの知識を得ることができた。
- ・講演のみ場合は、時間の制約がなく参加できるのでよかったと思います。

- ・聞き逃したことを再度視聴できる。
 - ・WEB開催ですと、移動時間が節約でき、かつ、すき間時間を活用しながら聴講でき、とても助かりました。
- COVID-19収束後も、WEB開催を残していただけるとありがたいです。
- ・好きな時間帯に何度でも視聴できるのはとてもありがたいです。
 - ・移動の負担が無く、好きな時間に参加できるので、今後も希望します。
 - ・対面であれば講演に集中できるメリットがあり、WEBであれば、自分で時間を捻出するだけでよく、旅費もかからず。費用も自己負担できるのがよい。忙しい時期でなかなかまとめてみられる時間を平日に確保することが難しい面もあるが、自分の時間管理問題は自分で解決すればよいと考えている。しかし、講演中と違って、個別のワークに集中できずに他のことと同時進行できてしまうし、質問もできない(対面でもあまりできないけれど)し、休憩時間等に聞いたり、懇親会などでも話す機会があるが、それがなく、なんとなくそうなんだろうな一、という理解になってしまうのが少しもったいない気がしました。参加者同士の休み時間でのディスカッションや交流を通して、質問ができなくてもアウトプットができるのに、それもできないのがwebの限界かもしれません。チャットのように何かフィードバックできて、それを参加者が見ることができるとよいのです。
 - ・受講者の都合で聴講でき、繰り返し視聴できるのは良いです。
 - ・Web開催自体は大変ありがたかったです。講義時間について、30分程度にしていただけると助かります。
 - ・自由な時間に聞くことができてよかったです。
 - ・自分の都合で視聴できるので良い。
 - ・リマインド、案内メールなどで、視聴のためのログインページにリンクがあると、なお良かった。
 - ・すごく勉強になりました。
 - ・視聴可能な時間帯に視聴できるので参加しやすい。一方、他の仕事との優先順位を考慮すると、後回しになってしまい、結果的に視聴できなくなってしまうこともある。そのような意味で時間調整、視聴のための時間づくりが難しいと感じる。
 - ・地方でも最先端の知識を習得できて良かった。
 - ・視聴期間が長かったので、途中からや見直したい内容から何度でも拝聴することができました。また、講義内容が分かりやすく、大変興味がわきました。新しい時代への視野が開けた気がいたします。
 - ・時間管理が必要である。視聴がぎりぎりになってしまったが、何とか出来たのでよかったです。
 - ・地方大学の教員にとっては移動の負担がなく、大変、参加しやすかったです。コロナが終息しても継続して欲しいです。
 - ・講演を都合の良い時間帯でWEBで視聴できるため非常に有り難かったです。
 - ・WEBで開催されたことで参加しやすかったです。視聴期間がもう少し長いと嬉しいです。
 - ・参加しやすく、よいと思います。
 - ・Web開催でしたので、今、実習期間のため県外での研修を受けることができない状況でしたので、大変にありがたく、1講演ずつ、何度も視聴することができました。アンコンシャスバイアスは初めて耳にいたしました。自分の考え方によっては普段何気なく話している言葉が、相手の気持ちを傷つけてしまうことが理解でき、改めて学生を含め、友人、同僚、家族に対しても日常の言葉に意識をしないといけないことを気づかされました。また多様なセクシュアリティは学生のなかでも増えつつあり、私が教育・研究でかかわっている高齢者の中にもいらっしゃるのでは・・・、これから増えてくるのではないかと改めて考えられました。ICTの活用やいろいろな工夫をすることで、コロナ禍で、つらい経験や大変な時期を過ごしていますが、よかったと思えることもあります。今回のような貴重な講演を遠くにいて受けることができることです。研修を企画していただき感謝いたします。
 - ・好きな時に視聴でき、何回も見たり巻き戻せるのは良い点だった。しかし、実際の対面であると、学びが生の体験となり、得やすかったのではとも思う。
 - ・WEBですと、大変参加しやすいです。視聴スピードを調整できる機能もありがたかったです。

看護系大学相互の支援ネットワークづくりに関し、看護学教育研究共同利用拠点としての当センターに、今後、期待することをご記入ください。

- ・まだまだ知らないことが沢山あるので、興味深く参加させていただければと思います。よろしく願いいたします。
 - ・勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・結局は、人との関わりだと感じることがあります。ハブ的な役割を期待しています。
 - ・看護系大学相互の支援ネットワークづくりとは、具体的にどのようなことかイメージがわからない。
 - ・大学内でのハラスメント対応（事例）、学生の犯罪に対する大学の対応（事例）
 - ・看護系のみならず、他学部や企業などの連携への支援ができるとネットワークがあまりない研究者には、学際的な研究ができるようになるのかなと感じた。（もうすでにそういった仕組みがあったら申し訳ありません）
 - ・今後も今のトピックを教えてくださいと幸いです。
 - ・今回は、研修テーマやその分野に造詣の深い講師による講義を受けることができ視野が広がりました。
- ありがとうございました。
- ・私自身の専門分野に着目しがちであるが、看護学教育にかかすことが可能なトレンドの情報提供をお願いします。
 - ・「高等教育のDX」の講演にもあったように、大学の共同教育の仕組みがもっとあった方がいいと思われ、看護学教育の拠点としてその仕組みを築いてほしい。
 - ・自分にはSDGsやSociety5.0など、現在の状況を世界全体の視点から見て将来を構想するという発想が欠けているので、今後も折に触れこのような刺激的な学習機会をいただけると自分の教育・研究の着想にもひろがりが出るのではないかと感じます。（期待することではなく感想になります）
 - ・今回のように新しい切り口で創造性を高めるような内容での研修や情報提供をお願いします。

- ・テーマごとのディスカッションや研究活動の推進
- ・自分があまり興味ない面も盛り込んでもらえ、今回そうなんだと学びになりました。多方面から最新の情報や取り組み、将来的には考えるべき内容など盛り込んでいただけると、とても刺激になります。
- ・本研修のデザインエンジニアリングのような勉強会を検討してほしいです。
- ・今後も看護学教育について最新の情報を広めてほしい。
- ・このような取り組みを続けていただきたいです。
- ・今後もWEBでの開催を増やしていただきたいです。
- ・これからの活動全般に期待しております。
- ・相互の支援ネットワークづくりというのは、一時のものではなく、ある程度、継続的なものを作れるとよいのではないと思う。
- ・異分野の大学教育改革の実態について研修を企画してほしいです。
- ・臨床の看護師が活用可能な研修を、無料・もしくは安価で提供してほしい。仕事しながらだと研修に出かける時間も確保できないので、動画配信だと本当に助かる。1つずつの授業が30-45分分割されていると精神的負担が少ない。
- ・オンラインでの研修機会の増加
- ・進捗状況の状況発信
- ・今回のような講演はとてもありがたいです。
- ・オンライン環境が整備され、移動が減った分時間を有効に使って、どこにいても研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍において最大のメリットであったと考える。しかし、情報過多の時代に情報を選別するITリテラシーの向上は急務であり、看護学教育において情報の真正性を見極め、デジタル技術を活用し、人間の多様性を受け入れる価値観を育むことこそが看護学教育に必要なと感じている。これらを普及することにさらに力を注いで頂きたい。
- ・今後も看護教育に関する情報発信をお願いしたい。
- ・看護学教育・研究において、新しいことに順応していくために努力はしていますが、なかなか困難であることを実感しております。これからも、このようなワークショップの開催や情報の配信を行っていただきたいと思えます。どうぞ、よろしく願いいたします。
- ・教育の質保証に関する情報の発信。
- ・さらに、このようなセミナーを開いていただきたい。
- ・今回のように、タイムリーに幅広い観点から内容を検討してもらえるとありがたいです。
- ・情報交換のシステムづくり。
- ・組織改編のため領域ごとの教育効果が薄れることが考えられますので、自組織の教育にも存在感を増してほしいと思いました。
- ・今までと同様、看護学教育のリーダーシップ、情報発信を期待しています。
- ・このような機会をコロナ禍でもご提供いただけることはありがたいと思えます。これからもよろしく願いいたします。
- ・今回は聴講のみの参加でしたが、他大学の教員とディスカッションできるグループワークの企画を続けていただきたいです。職位に応じた、助教等の初任者でも他大学と交流できるような機会があればとも考えます。
- ・シラバス、単元ごとの標準化や教材共有について進めていただきたい。
- ・教育現場の最新事情など、今回のテーマのように、新しい動きをキャッチした内容を期待します。
- ・もっとたくさん発信したり、ワークショップをやってほしい。
- ・本日の視聴を通して、DXにおいても「現状分析と目標設定」が重要であることを再度確認しました。現在の高等教育、看護学教育の現状や、直面している問題に即した内容をテーマに、参加校と共有、討議できるようなワークショップの開催を希望します。
- ・こういった情報を知っている人が限られているので、ホームページだけではなく、全国的にこういう看護教育における取り組みをしているということ、全施設に周知してもらえると良いと思いました。規模に関わらず、興味のある人が、看護学の専門機関の研修の情報を受けられる環境があれば嬉しい。
- ・看護学のDXやCSなど、新しい時代への取り組みについて、大学間のシステム化をお願いしたいと思えます。
- ・交流の機会は定期的に必要に思えます。ネットワークを作るには、まず、知り合う必要がありますので。
- ・看護系大学でのAI教育の教育プログラムの開発やコンテンツの制作を期待します。人材が限られているので、大学独自では取り組みが困難です。
- ・センターのプロジェクトによって開発された看護学教育の継続的質改善（CQI：Continuous Quality Improvement）モデルの更なる波及について大変期待しております。
- ・コロナ禍で変化した医療現場、実習の在り方について考える機会があると良いなと思えます。
- ・このような研修の機会を増やしていただきたいと思えます。各大学の取り組みなども共有もしていただけるとよいと思えます。
- ・今回のように、最新の医療・教育の情報を発信し、研修企画（Webを含めた）をお願いしたいと思えます。
- ・今後もこのように視野が広がる講義があると嬉しい。
- ・情報発信を積極的をお願いしたいと思えます。特に、文科省のAI戦略…MDASH認定のことなど。AI戦略2019～データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが2016年から始まり…以降の内容は、初めて聞いた内容でした。自分は、まさに情報難民だったと思えました。
- ・これまで知らなかったトピックについて学ぶことができ勉強になりました。新たな視座を得られるようなセミナーの開催を期待しています。

12. おわりに

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 准教授
黒田 久美子

本年度のテーマは、「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考ー社会や人々の変化への視野を広げるーあらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考えるー」であった。このテーマにいたる動機は、社会や人々の変化がすすみ、多様化している現状において、看護学教育に携わる教員は、それを十分に捉えて必要な教育を検討できているだろうかという自己反省である。

視野を広げ、あらためて無自覚にある自身の世界観が看護学教育に及ぼす影響を考えるとともに、多様な人々の理解・支援に向けた柔軟で創意工夫にあふれた看護学教育について検討したいと考え、多角的な観点から、かなり欲張って4つの講演をWEB配信することとなった。一つの講演を30～40分という短い時間でまとめて頂き、かつ貴重で豊富な内容で、参加者を刺激して下さった演者の先生方に改めて御礼申し上げたい。一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所代表理事の守屋智敬氏、前文部科学省高等教育局専門教育課企画官（文部科学省研究開発局環境エネルギー課環境科学技術推進官）の服部正氏、一般社団法人にじいろドクターズの吉田絵理子氏、株式会社NODE MEDICAL 代表取締役社長の吉岡純希氏、ありがとうございました。

本ワークショップは、“Society5.0看護”創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ーの一環として実施された。ワークでは、看護系大学教員が取り組む課題が共有され、地域社会の人口構造の変化、看護職への期待、健康支援を可能とするテクノロジーや組織や地域との連携等が背景とされていた。そこには、テクノロジーを最良の健康支援に結びつける人間中心の新たな健康支援方略の解明へのヒントが潜んでいる。「難しい、不可能」との思い込みから解放され、人間中心の新たな健康支援方略の解明や、それに基づく看護学教育に向けて、看護系大学の多くの方々と共にすすめていきたい。

13. 実施体制

【講演】

《講演者》

守屋 智敬	一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事 株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役
服部 正	前 文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 (文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官)
吉田 絵理子	一般社団法人にじいろドクターズ
吉岡 純希	株式会社 NODE MEDICAL 代表取締役社長 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員

【グループワーク】

《ファシリテータ》

Aグループ：	銭 淑君	千葉大学大学院看護学研究院	准教授
	： 斉藤 しのぶ	千葉大学大学院看護学研究院	准教授
Bグループ：	和住 淑子	千葉大学大学院看護学研究院	教授
	： 飯野 理恵	千葉大学大学院看護学研究院	講師
Cグループ：	池崎 澄江	千葉大学大学院看護学研究院	教授
Dグループ：	黒田 久美子	千葉大学大学院看護学研究院	准教授
	： 高木 夏恵	千葉大学大学院看護学研究院	講師

《千葉大学運営組織》

大学院看護学研究院長 諏訪 さゆり 教授

センター運営委員会

◎	和住 淑子	教授
	真嶋 朋子	教授
	野地 有子	教授
	池崎 澄江	教授
	黒田 久美子	准教授
	銭 淑君	准教授
	斉藤 しのぶ	准教授
	飯野 理恵	講師
	高木 夏恵	講師
	仲井 あや	助教

(◎ センター長・企画責任者)

令和3年度看護学教育ワークショップ 報告書

発行 2022年 2月

編集 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

発行所 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院

